

# 履修の手引き



東京大学教養学部前期課程  
令和6年4月



## 目 次

はじめに	1
<b>I 教養学部前期課程での学修</b>	4
1. 前期課程の概要	4
2. 科目と単位	6
3. 各科目区分の概要	7
4. 進学選択が可能となる条件と前期課程修了要件	8
(表1) 進学選択が可能となる条件	8
(表2) 前期課程で各科類の学生が取得すべき必要最低単位数	9
<b>II 各科目の履修方法</b>	10
1. 履修に関する一般的注意事項	10
2. 基礎科目の履修	12
(1) 外国語	12
(2) 情報	15
(3) 身体運動・健康科学実習	15
(4) 初年次ゼミナール	16
(5) 社会科学	17
(6) 人文科学	17
(7) 自然科学 基礎実験	18
(8) 自然科学 数理科学	19
(9) 自然科学 物質科学	20
(10) 自然科学 生命科学	21
3. 展開科目の履修	22
4. 総合科目の履修	24
5. 主題科目の履修	28
6. 国際教養コース (PEAK) 科目の履修	28
7. 基礎科目・展開科目・総合科目・主題科目の最低単位数の他に 取得しなければならない単位数	29
8. 要求科目・要望科目の履修	29
<b>III 履修の手続きと授業受講に関する注意事項</b>	30
1. 履修等の手続き	30
2. 授業受講に関する諸注意	33
<b>IV 定期試験と成績の評価</b>	34
1. 定期試験・レポート	34
2. 成績の評価	36
3. 成績評価が「不可」または「欠席」となった場合	38
(1) 再履修	38
(2) 追試験	38

(3) 他クラス聴講	41
(4) 平均合格	43
(5) 補修	44
(6) 2 Aセメスター特修クラス	44
4. 留年・降年	45
<b>V 前期課程在籍中に開講される後期課程各学部の専門科目</b>	<b>47</b>
<b>VI 教職科目</b>	<b>48</b>
・教育職員免許状の取得について	48
・一種免許状取得までの一般的な流れ	49
<b>VII 進学選択 [参考]</b>	<b>50</b>
1. 進学選択とは	51
2. 進学選択の手続きと方法	52
3. 進学選択に用いられる評点	56
 (別表 1) 前期課程で各科類の学生が取得すべき最低単位数	
・文科一類の履修プログラム	59
・文科二類の履修プログラム	60
・文科三類の履修プログラム	61
・理科一類の履修プログラム	62
・理科二類の履修プログラム	63
・理科三類の履修プログラム	64
(別表 2) 基礎科目授業内容概要	65
(別表 3) 展開科目授業内容概要	69
(別表 4) 総合科目授業内容概要	70
(別表 5) 主題科目授業内容概要	89
(別表 6) 学部・学科別要求科目一覧	90
(別表 7) 学部・学科別要望科目一覧	94
(別表 8) 学部・学科別指定平均点一覧	97
(別表 9) 学部・学科別重率・履修点一覧 (1.重率 2.履修点とその加点方法)	99
(別表 10) 学部・学科別面接・志望理由書一覧 (予定)	104
(別表 11) 各学部進学者受入予定数 (案)	105
 (巻末付録) 参考情報	
・教務課・学生支援課の窓口、学生証・各種証明書	111
・関連組織・制度	113
・東京大学駒場地区建物配置図	115
・東京大学教養学部教室配置図	116
・東京大学本郷地区建物配置図	123

## はじめに

東京大学では、学士課程の4年間のうち前半の2年間を「前期課程」と定め、教養学部で学びます。みなさんが深い知識と広い視野、自己相対化力、グループでの共創力などの「教養力・統合知」を涵養するための期間となります。この『履修の手引き』は、この2年間を迷わず過ごし、かつ充実させるためのガイドです。前期課程では進学選択をはじめとして、将来の進路決定などにかかわる重要な決断を行うことになりますので、東京大学で学べてよかったですと思えるようになるためにも、この『履修の手引き』を熟読かつ精読し、必要な教務上の諸手続をしっかりと理解しておいてください。

前期課程を修了するには、科類ごとに定められた「前期課程修了要件」を満たす必要があります。また、後期課程に進学するには、2年次のSセメスター（S2ターム）の成績確定後に行われる「進学選択」までに、みなさんが進学を志望する学部学科等の進学単位について志望順位を示して「志望登録」をする用意をしなくてはなりません。新入生のみなさんは、このような前期課程修了要件や進学選択要件などの必要な要件を満たしつつ、各自で履修計画を考えていくことになります。この『履修の手引き』には、そのために不可欠な重要な情報が記載されています。

さらに履修計画を設計する際には、上記の要件や進学選択での有利・不利などだけでなく、本学の教育理念を踏まえ、人生を通じた全人格的な力と適応力を高めるための教養を培うことを目標としていただきたいと思います。そのカタログとなるのが、『科目紹介』と『時間割表』です。科目紹介やシラバスをじっくりと読み、履修したい科目の曜日・時限の配置を確認し、みなさんの一人ひとりのオリジナルな時間割を設計してください。

みなさんは2年次になると、後期課程の進学先を選択していくのですが、入学当初の限定的で断片的な知識や、ネットの情報や、他人の意見、先入観ではなく、是非とも前期課程において養った見識をもとに自主的かつ主体的に選択をしていただきたいと思います。この2年ほどの期間は、自分を見つめ直し、大学後の将来の目標を考えるよい期間です。前期課程において幅広い視野から学修を重ねることで、みずからの思考や知識の引き出しを増やし、それらの引き出しを相互に関連づけつつ、じっくりと考えることがたいへん重要になると思います。

わたしたち教員・職員は、意欲をもって未来に挑戦しようとするみなさんの勉学や活動を、心から応援しようと考えています。教養学部前期課程で充実した2年間を過ごしていただくとともに、後期課程の専門諸学部でもそこでの学びを十全に活かし、東京大学の学生であることを楽しみ、かつ喜んでいただけますことを、大いに期待しています。

教養学部長 真船 文隆

## 本冊子について

- ・皆さんに適用されるのは、入学年度と同じ年度の冊子の内容です。入学時に一人一冊配付し再配付はしません。紛失しないように注意してください。
- ・この冊子をよく読んだ上で不明な点があれば、教務課前期課程窓口（p. 111）に問い合わせてください。教務課前期課程窓口では、この冊子の内容をよりわかりやすく説明することに努めています。また、UTASや教務課前期課程ホームページによる掲示（p. 33）等での変更の通知がない限り、この冊子に記されていることが全てに優先される教務全般に関するルールです。

## 関連情報

- ・さんが前期課程で学修する上で知っておくと有益だと思われる教務関連の窓口、施設、制度などの情報は、巻末の付録に掲載しています。また、この冊子とは別に、『教養学部便覧I（前期課程）』があります。これはこの冊子の内容のベースとなる規則集ですが、基本的な重要事項が記載されているので、そちらもあわせて参照してください。
- ・東京大学後期課程の各学部・学科（専門課程）の教育内容については、各学部のウェブサイトのほか、進学情報センター（p. 113）が提供する資料や、進学情報センターのシンポジウムなどをを利用して情報を得てください。  
また、東京大学ホームページ内の「進学のためのガイダンス」にも詳しく紹介しております。  
<https://www.u-tokyo.ac.jp/stu04/shingakuguidance.html>  
さらに、各学部のガイダンスが11～12月頃には1年生を対象に、また、4～5月頃には2年生を対象に行われます。この「学部ガイダンス」でより詳細な説明が行われるとともに資料が配付されますので、それらを参照してください。
- ・授業料免除、奨学金、住居、アルバイト、施設の利用、各種相談窓口等、学生生活全般に関する情報については、別冊子『駒場の学生生活』を参照してください。

## 教務課前期課程ホームページ

- ・アクセス先URL <https://www.c.u-tokyo.ac.jp/zenki/>
- ・授業や試験の日程や各種事務手続きの日程、進学選択に関する諸掲示等、重要事項を含む様々な情報が隨時掲載されますのでUTASとあわせて必ずチェックするようにしてください。



## UTASとは

- ・ UTAS アクセス先URL <https://www.c.u-tokyo.ac.jp/zenki/>
- 注1) 教務課前期課程ホームページのログインメニューから利用してください。  
 注2) 一部の機種ではログインできないことや正しく表示されない場合があります。
- ・ 「UTAS利用者マニュアル」は教務課前期課程ホームページもしくはUTASログイン後の【その他】>【ダウンロードセンター】からダウンロードできます。



シラバス参照、履修科目登録、成績表の確認、進学選択手続きなど、教務関係の諸手続きの多くは、**UTAS**（ユータス）を利用して行います。利用方法の詳細については「UTAS利用者マニュアル」を参照してください。

また、授業・試験の日程や各種事務手続きの日程、時間割の変更、進学選択に関する諸通知は、教務課前期課程ホームページでも確認することができます。UTAS上の情報はスマートフォンからも確認できます。

なお、個々の学生に対して緊急に連絡を行う際に、UTASログイン後の【学生情報】に登録されている情報（携帯電話番号、メールアドレス等）を使用することがあります。重要事項が伝達されないなど不利な状況ともなりかねないので、**携帯電話番号やメールアドレスを変更した場合は、必ずUTASログイン後の【学生情報】の情報も変更登録するようにしてください。**

UTASを利用するには、3月下旬にオンラインで通知される「UTokyo Account」が必要となります。パスワード等は盗難・盗用されないよう自らの責任において管理してください。パスワードを忘失した場合や、変更したい場合など「UTokyo Account」に関する詳細は下記の情報システム本部ホームページを参照してください。

[https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/administration/dics/service/account\\_student.html](https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/administration/dics/service/account_student.html)

また、利用に際しては、情報倫理ガイドライン（東京大学情報倫理委員会）を遵守してください。

東京大学情報倫理ガイドライン <https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/cie/ja/index.html>

## 注意！！

教養学部の前期課程在籍中に、皆さんはさまざまな書類を教務課に提出したり、UTASを利用し情報を登録したりすることになります。

それらの書類の提出・登録にあたっては、注意してもらいたいことが2つあります。

### (1) 正確に記入すること！

皆さんが提出する書類・登録する情報は、記入された内容のとおりに処理されますので、不備あるいは間違いないよう慎重に記入・登録してください。記入・登録について説明文書がある場合にはそれを丁寧に参照することはもちろん、少しでも不明なことがあれば、かならず教務課に尋ね、十分な理解を得てから記入・登録するようにしてください。また、提出・登録の前にはかならず記入・登録内容を見直すようにしてください。

### (2) 期限内に提出・登録すること！

書類は定められた期限内に提出・登録してください。期限を過ぎた書類・登録はいかなる理由があっても教務課では受け付けることができないので、書類の準備はかならず余裕をもって進めるようにしてください。

書類の提出・登録は、皆さんが自らの責任において正確に、かつ定められた期限内に行わなければなりません。自分自身の不注意によって自分自身が不利益を被らないために、以上の2点を銘記しておいてください。

# I 教養学部前期課程での学修

## 1. 前期課程の概要

### (1) 課程

東京大学の修業年限は4年間(医学部医学科、農学部獣医学課程および薬学部薬学科は6年間)で、はじめの2年間は、すべての学生が、駒場Iキャンパスの教養学部(文科一類・二類・三類、理科一類・二類・三類)に籍を置いて学修する。これを**学部前期課程**あるいは単に**前期課程**という。

あとの2年間(医学部医学科、農学部獣医学課程および薬学部薬学科は4年間)は、本郷キャンパスの法学部、経済学部、文学部、教育学部、理学部、工学部、農学部、薬学部、医学部または駒場Iキャンパスの教養学部(後期課程)に籍を置いて学修する。これを**学部後期課程**あるいは単に**後期課程**という。

### (2) 前期課程各科類の特徴

#### 文科一類

法と政治を中心にして社会科学全般の基礎を学び、関連する人文科学と自然科学の諸分野にわたって理解を深め、人間と社会について広い見識を養う。

#### 文科二類

経済を中心にして社会科学全般の基礎を学び、関連する人文科学と自然科学の諸分野にわたって理解を深め、人間と組織について広い見識を養う。

#### 文科三類

言語、思想、歴史を中心にして人文科学全般の基礎を学び、関連する社会科学と自然科学の諸分野にわたって理解を深め、人間と文化的・社会的営為について広い見識を養う。

#### 理科一類

数学、物理学、化学を中心にして数理科学・物質科学・生命科学の基礎を学び、自然の基本法則に関する探究心を養い、科学や技術と社会の関わりについても理解を深める。

#### 理科二類

生物学、化学、物理学を中心にして生命科学・物質科学・数理科学の基礎を学び、自然の諸法則に関する探究心を養い、科学や技術と社会の関わりについても理解を深める。

#### 理科三類

生物学、化学、物理学を中心にして生命科学・物質科学・数理科学の基礎を学び、人間についての探究心を養い、生命と社会の関わりについても理解を深める。

### (3) 進学先の選択

東京大学では、入学した時点では後期課程のいずれの学部・学科等に進学するかは、学校推薦型選抜入学者、外国人留学生等、一部を除いて決まっていない。これを、学生の志望と学修成績等によって、後期課程の各学部・学科等の進学先毎に定められた人数になるよう学生の進学先を内定させる手続きを、「進学選択」と呼んでいる。進学選択の詳細については、p. 50以降の「VII 進学選択」の章を参照すること。

#### (4) 在学年限

前期課程の在学年数は、4年を超えることができない。4年間の年限内に後期課程に進学できなかった場合は、学生の身分を失う。

なお、休学した期間は在学年数には算入しない。休学に関する規程については、年度始めに配付される『教養学部便覧I（前期課程）』の「学部通則」を参照のこと。

#### (5) 学年とターム・セメスター

東京大学では1学年を5つの期間に分けており、各授業実施期間をタームと呼んでいる。

ただし前期課程においては、ターム単位で行われるターム制の授業と、2つのタームをつなげたセメスター単位で行われるセメスター制の授業を併用している。前期課程のターム・セメスターの期間は以下のとおりである（一部の集中講義等は休業期間中に実施されることがある。）。

期間 学年	概ね 4～5月 S1ターム	概ね 6～7月 S2ターム	概ね 8～9 月	概ね 10～11月 A1ターム	概ね 11～1月 A2ターム	概ね 2～3月 (Wターム)
1年次	<b>1Sセメスター</b>		休業	<b>1Aセメスター</b>		休業
	1S1ターム	1S2ターム	期間	1A1ターム	1A2ターム	期間
2年次	<b>2Sセメスター</b>		休業	<b>2Aセメスター</b>		休業
	2S1ターム	2S2ターム	期間	2A1ターム	2A2ターム	期間
（参考） 前期課程の 学期区分	1番目の学期	2番目の学期		3番目の学期	4番目の学期	

なお、後期課程には、上表と異なる期間に授業を実施する学部もある。2年次の10月以降（2A1ターム以降）は、後期課程の各学部が開講する専門科目（p. 47）を主に履修することとなるが、進学する学部によっては2年次の2～3月（Wターム）にも授業が行われる場合があるので留意すること。

#### (6) コマと授業時間

前期課程の授業は、原則として**90分**または**105分**を一区切りとして行われる。この一区切りのことを**1コマ**と呼ぶ。一日の授業時間は以下のとおりである。

時限	授業時間 (90分)	授業時間 (105分)	(定期試験(本試験)時間) ※試験時間90分の場合
1時限	8時30分～10時00分	8時30分～10時15分	(8時40分～10時10分)
2時限	10時25分～11時55分	10時25分～12時10分	(10時35分～12時05分)
3時限	13時15分～14時45分	13時00分～14時45分	(13時25分～14時55分)
4時限	15時10分～16時40分	14時55分～16時40分	(15時20分～16時50分)
5時限	17時05分～18時35分	16時50分～18時35分	(17時15分～18時45分)
6時限	19時00分～20時30分	18時45分～20時30分	(19時10分～20時40分)

## 2. 科目と単位

### (1) 科目

前期課程教育として開設されている科目は、**基礎科目**、**展開科目**、**総合科目**、**主題科目**の4つの科目区分に分類される。学生は前期課程の2年間に、この4つの科目区分から文科生は**56単位**、理科生は**63単位**を取得しなければならない。

また、各科目はその授業形態により、**講義・演習**と**実験・実習**に分類される。実験・実習に分類されるのは、基礎科目の「基礎実験」、「身体運動・健康科学実習」および総合科目の一部の科目である。

詳細は、p. 9の表2「前期課程で各科類の学生が取得すべき必要最低単位数」およびp. 59以降の別表1「各科類の履修プログラム」を参照すること。

### (2) 単位

「単位」とは大学での学修の量を示すものであり、各科目を所定の期間に履修し合格すると、所定の単位が与えられる。与えられる単位数は、各科目の開講形態および授業形態により、以下のように整理される。

開講形態	授業形態	
	講義・演習	実験・実習
ターム制・週1コマ	1単位	0.5単位
ターム制・週2コマ	2単位	1単位
セメスター制・週1コマ	2単位	1単位
セメスター制・週2コマ	4単位	2単位
セメスター制・週1コマ隔週開講	1単位	0.5単位
セメスター制・週2コマ隔週開講	2単位	1単位

(注) 上表は、想定される主な開講形態を例示したものである。集中講義等、他の開講形態の科目もある。また、上表の開講形態のすべてが、各年度に開講される科目に実際に存在するとは限らない。

なお、週1コマの授業を履修するためには、講義・演習の場合は週4時間程度、実験・実習等の場合は週1時間程度の自宅学習が必要とされている。

### 3. 各科目区分の概要

基礎科目、展開科目、総合科目、主題科目の各科目区分の概要は以下のとおりである。

また、各科目区分において開講される個々の科目の具体的な授業内容は、UTASログイン後の【シラバス参照】およびセメスター毎に前期課程ホームページで公開される『科目紹介』（シラバス抜粋）を見る必要がある。

#### (1) 基礎科目

「基礎科目」は各科類に応じて定められており、多様で広範な専門分野選択において通用する基礎的な知識・技能・方法を修得するためのものである。文科生の基礎科目は外国語、情報、身体運動・健康科学実習、初年次ゼミナール文科、社会科学、人文科学の6つに分類される。理科生の基礎科目は外国語、情報、身体運動・健康科学実習、初年次ゼミナール理科、自然科学の5つに分類される。基礎科目の各科目の概要についてはp. 65以降の別表2「基礎科目授業内容概要」を参照のこと。

#### (2) 展開科目

「展開科目」は、基礎科目での学びをさらに自ら主体的に展開させるための素地となる能力を涵養し、専門的学びへの積極的な動機づけを図るためのものである。社会科学ゼミナール、人文科学ゼミナール、自然科学ゼミナール、文理融合ゼミナールの4つに分類される。なお、社会科学ゼミナールと人文科学ゼミナールは「アドバンスト文科」として総称される。文理融合ゼミナールは「アドバンスト文理融合」とも呼ばれる。展開科目の各科目の概要についてはp. 69の別表3「展開科目授業内容概要」を参照のこと。

#### (3) 総合科目

「総合科目」は、現在において共有すべき知の基本的枠組みを多様な角度・視点から修得して、総合的な判断力や柔軟な理解力を養うためのものである。下記の7系列があり、各系列の中はさらにいくつかの大科目に分類される。

- L系列（言語・コミュニケーション）
- A系列（思想・芸術）
- B系列（国際・地域）
- C系列（社会・制度）
- D系列（人間・環境）
- E系列（物質・生命）
- F系列（数理・情報）

総合科目の各科目の概要についてはp. 70以降の別表4「総合科目授業内容概要」を参照のこと。

#### (4) 主題科目

「主題科目」は、多種多様な専門分野の教員が、領域横断的、萌芽的、先端的テーマや時宜を得たトピックを設定し、学生の主体的関心に基づく参加を求めて、多様な専門分野と学問的アプローチ、最先端の知に接する機会を提供するものである。また、海外での研修等の国際交流に主眼を置いた学びについても、この科目区分で単位認定を行うことがある。主題科目の各科目の概要については、p. 89の別表5「主題科目授業内容概要」を参照のこと。

#### 4. 進学選択が可能となる条件と前期課程修了要件

##### (1) 進学選択が可能となる条件

2年次に実施される進学選択が可能となるためには、1S1タームから2S2タームまで在学したうえで、**2S2ターム・2Sセメスター終了時**までに、下記の表1「進学選択が可能となる条件」に示す条件を満たさなければならない。ただし、集中講義等で、2S2ターム・2Sセメスター成績発表時に反映されていない科目的単位については算入されない。また、**2年次の4～8月の期間中に休学した学生は、その年度の進学選択はできない。**なお、本条件は、学校推薦型選抜入学者、外国人留学生等、進学先があらかじめ決まっている学生にも適用される。

表1 進学選択が可能となる条件

文科一類生 および 文科二類生	外国語	既修外国語	5単位の成績の平均が40点以上(注1)	
		初修外国語	6単位の成績の平均が40点以上	
	初年次ゼミナール文科	2単位の取得		
	社会科学	4単位の取得(注2)		
	人文科学	2単位の取得		
	総合科目	11単位の取得(L系列の5単位を含む(注3))		
総取得単位数		46単位以上		
文科三類生	外国語	既修外国語	5単位の成績の平均が40点以上(注1)	
		初修外国語	6単位の成績の平均が40点以上	
	初年次ゼミナール文科	2単位の取得		
	社会科学	2単位の取得		
	人文科学	2単位の取得		
	総合科目	13単位の取得(L系列の5単位を含む(注3))		
総取得単位数		46単位以上		
理科一類生	外国語	既修外国語	5単位の成績の平均が40点以上(注1)	
		初修外国語	6単位の成績の平均が40点以上	
	初年次ゼミナール理科	2単位の取得		
	自然科学	基礎実験	3単位の取得(注4)(任意選択科目(p.18)の単位を除く)	
		数理科学	6単位の取得(「数理科学基礎演習」1単位および「数学基礎理論演習」1単位を含む)	
		物質科学	「力学」2単位、「熱力学」2単位、および「物性化学」2単位の取得	
		生命科学	1単位の取得(「生命科学」1単位の取得)	
総合科目		8単位の取得(L系列の2単位を含む)		
総取得単位数		53単位以上		
理科二類生 および 理科三類生	外国語	既修外国語	5単位の成績の平均が40点以上(注1)	
		初修外国語	6単位の成績の平均が40点以上	
	初年次ゼミナール理科	2単位の取得		
	自然科学	基礎実験	3単位の取得(注4)(任意選択科目(p.18)の単位を除く)	
		数理科学	5単位の取得(任意選択科目(p.19)の単位を除く)	
		物質科学	「力学」2単位、「化学熱力学」2単位、および「物性化学」2単位の取得	
		生命科学	「生命科学Ⅰ」2単位の取得	
総合科目		8単位の取得(L系列の2単位を含む)		
総取得単位数		53単位以上		

(注1) 英語・日本語以外を既修外国語として履修する場合は「6単位の成績の平均が40点以上」となる。

(注2) 文科一類生は「法Ⅰ」または「政治Ⅰ」の2単位を含む。

(注3) 既修・既修の組合せで外国語を履修する場合を除き、初修外国語として履修するものと同一言語の「○語初級(演習)①」の2単位を含む。

(注4) 1Aセメスターの実験科目(理科一類生は「基礎実験Ⅰ」「基礎実験Ⅱ」、理科二・三類生は「基礎物理学実験」「基礎化学実験」)の単位を取得していない場合でも、当該科目の単位を取得できなかった理由(病気療養など)が妥当と基礎実験委員会で認められ、当該科目を2Aセメスターで補修(p.44)可能と同委員会で判断した場合は、「基礎実験Ⅲ」または、「基礎生命科学実験」の1単位を取得していれば、進学選択が可能となる。

## (2) 前期課程修了要件（修得必要科目・取得最低単位数）等について

前期課程を修了し後期課程に進学するためには、進学選択において進学先が内定したうえで、1S・1A・2S・2Aセメスターすべてに在学し（合計2年間以上）、下記の表2「前期課程で各科類の学生が取得すべき必要最低単位数」に示す、各科類に要求される単位を取得しなければならない。

表2 前期課程で各科類の学生が取得すべき必要最低単位数

科目区分		科類	文科一類	文科二類	文科三類	理科一類	理科二類	理科三類					
基礎科目	外国語	既修外国語	5(注1)	5(注1)	5(注1)	5(注1)	5(注1)	5(注1)					
		初修外国語	6	6	6	6	6	6					
	情報		2	2	2	2	2	2					
	身体運動・健康科学実習		2	2	2	2	2	2					
	初年次セミナー		2	2	2	2	2	2					
	社会科学		「法I、法II」4、または「政治I、政治II」4を含め8	「経済I、経済II、数学I、数学II」の中から4を含め8	2分野にわたり4								
	人文科学		2分野にわたり4	2分野にわたり4	2分野にわたり4								
	自然科学	基礎実験				3	3	3					
		数理科学				12	10	10					
		物質科学				10	10	10					
		生命科学				1	4	4					
展開科目	社会科学セミナー	任意選択											
	人文科学セミナー												
	自然科学セミナー												
	文理融合セミナー												
総合科目	L 言語・コミュニケーション	9(注2)		3系列以上にわたり、Lから9を含め17(注2)	3(注3)								
	A 思想・芸術				2系列以上にわたり6		2系列以上にわたり6						
	B 国際・地域												
	C 社会・制度												
	D 人間・環境												
	E 物質・生命				2系列以上にわたり6		2系列にわたり6						
	F 数理・情報				2系列以上にわたり8								
主題科目	学術フロンティア講義												
	全学自由研究セミナー												
	全学体験セミナー												
	国際研修												
基礎科目・展開科目・総合科目・主題科目の最低単位数の他に取得しなければならない単位数		4(注4)	4(注4)	4(注4)	3(注4)	2(注4)	2(注4)						
合 計		56	56	56	63	63	63						

(注1) 英語・日本語以外を既修外国語として履修する場合は6単位を取得する(p. 14)。

(注2) L系列の9単位は、任意の科目2単位、既修外国語として履修するものと同一言語の科目3単位、初修外国語として履修するものと同一言語の「○語初級(演習)①、②」4単位を取得する(p. 26)。

ただし、英語・日本語以外を既修外国語として履修する場合や既修・既修の組合せで外国語を履修する場合は、選択した外国語により、取得する科目と単位数が異なる場合がある(p. 26)。

(注3) 既修外国語として履修するものと同一言語の科目から3単位(英語・日本語以外を既修外国語として履修する場合は2単位)を取得する(p. 26)。

(注4) 進学選択における要求科目(p. 90)となっている他科類の必修科目などの単位を含めることができる。また、科目によってはこの単位数に含めることのできる上限単位数が定められている場合がある(p. 29)。

## II 各科目の履修方法

### 1. 履修に関する一般的注意事項

#### (1) セメスター毎の履修登録単位数の上限（キャップ制）

前期課程では、学生が個々の履修科目に対して十分な学習時間を確保できるようにするため、以下のとおりセメスター毎に履修登録単位数の上限を設けている。各セメスターの上限単位数には、当該セメスターに含まれるタームに開講されるターム制科目の単位を含むものとする。

全科類共通	履修登録	1 Sセメスター	1 Aセメスター	2 Sセメスター
	単位数の上限	30 単位	30 単位	30 単位
(例外) 履修登録単位数の上限に含まれない科目				
	・集中講義（『科目紹介』（シラバス抜粋）『時間割表』において曜限欄に“集中講義”と記載されている基礎科目以外の科目） ・主題科目「国際研修」 ・総合科目L系列・大科目[国際コミュニケーション]の科目のうち、トライリンガル・プログラム（TLP）（p. 27）の一環として開講されている科目 ・総合科目E系列・大科目[アドバンスト理科]の科目 ・他クラス聴講（p. 41）により履修する科目、「数理科学基礎」の補修（p. 44） ・後期課程の各学部が開講する専門科目（p. 47）			

学生は、前期課程の2年間に修得すべき科目と取得すべき単位数について、進学選択が可能となる条件（p. 8）、前期課程修了要件（p. 9）、各科類の履修プログラム（p. 59以降の別表1）、進学しようとする学部・学科等の要求科目（p. 90以降の別表6）・要望科目（p. 94以降の別表7）等を考慮しつつ、さらにセメスター毎の履修登録単位数の上限に留意して学修計画を立てる必要がある。

なお、2Aセメスターについては、後期課程の各学部が開講する専門科目（p. 47）を主に履修することとなるため、前期課程科目に対する履修登録単位数の上限は設けていない。

#### （例外措置として履修登録単位数の上限を超えて履修登録を認める場合）

入学後（再入学を除く。）の最初のSセメスターにおいて以下の要件①②を両方満たした学生は、次のAセメスターから履修登録単位数の上限を超えて履修登録を認めるものとする。ただし、希望する学生は要件を満たした上、学部の定める期間内に、教務課前期課程ホームページの「教務課からのお知らせ」で指定された方法により申請しなくてはならない。

- ① 前期課程科目を25単位以上取得していること
- ② 前期課程科目の取得単位において合格・不合格のみの評価による科目の単位数を除き、「優上」及び「優」の評価を受けた科目に係る単位数の取得単位数に対する割合が90%以上であること

なお、初年次特別休学を許可された学生および入学後の最初のSセメスターを休学する学生のうち、履修登録単位数の上限を超えて履修登録を希望する者については、復学後の最初のSセメスターに上記①および②の要件を満たした上、学部の定める期間内に、教務課前期課程ホームページの「教務課からのお知らせ」で指定された方法により申請するものとする。

## (2) 履修に関する一般的な制限事項

特に例外が認められている科目（総合科目p.24、展開科目p.22、主題科目p.28）を除き、履修については以下の制限事項がある。

### ① 修得済科目の履修制限

すでに修得した（単位を取得した）科目は履修できない。（単位を取得できなかつた科目は、同一の科目を再履修することができる。再履修をした場合は、成績表には、より良い方の成績が残る。）

### ② 複数履修制限

同一の科目は曜日・時限が異なっていても同時期の複数履修はできない。

### ③ 重複履修制限

同一曜日・時限に行われる科目は重複して履修できない。

### ④ 対象外科目の履修制限

対象の学年・科類・クラス等が指定されている等、履修上の条件がある科目は、条件を満たさない学生は履修できない。

### ⑤ その他、人数制限などにより履修許可が得られなかつた科目は履修できない。

## 2. 基礎科目の履修

### (1) 外国語

基礎科目の外国語は、全科類の必修であり、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、スペイン語、韓国朝鮮語、イタリア語、日本語がある。ただし、日本語は外国人留学生（日本政府（文部科学省）奨学生留学生、外国政府派遣留学生、外国学校卒業学生特別選考第1種入学者、公益財団法人日本台湾交流協会学部留学生）のみを対象とする。

教養学部前期課程における基礎科目の外国語の履修は以下のようを行う。

#### ① 既修外国語および初修外国語として開講されている言語

既修外国語：英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、スペイン語、  
韓国朝鮮語、イタリア語、日本語

初修外国語：ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、スペイン語、  
韓国朝鮮語、イタリア語

#### ② 言語の選択

学生は入学時に選択した「既修・初修」、「既修・既修」のいずれかの組み合わせの二言語を履修する。**入学時に選択した外国語は、変更することができない。**

#### ③ クラス分け

クラス分けは、英語と日本語以外の選択言語によって行われる。

ドイツ語既修クラス	ドイツ語初修クラス
フランス語既修クラス	フランス語初修クラス
中国語既修クラス	中国語初修クラス
	ロシア語初修クラス
	スペイン語初修クラス
	韓国朝鮮語初修クラス
	イタリア語初修クラス

ただし、「既修・既修」の組み合わせでドイツ語、フランス語、中国語以外を選択した学生は、便宜的にいずれかの初修クラスに所属する。

#### ④ 基礎科目の外国語には一列、二列の区別があり、指定されたタームまたはセメスターに履修する。

進学選択時の平均点計算（p. 56）や、平均合格（p. 43）の判定は、外国語ごとに一列、二列を合算して行う。

## ⑤ 既修外国語（英語）の単位数と履修方法

対象科類	取得すべき単位数	科目名	単位数	開講形態
全科類	5	英語一列①	1	ターム制・週1コマ
		英語一列②	1	ターム制・週1コマ
		英語二列S	1	ターム制・週1コマ
		英語二列W	2	セメスター制・週1コマ

既修外国語の英語は、各科目1単位または2単位で、計5単位の科目群である。1S1・1S2ターム（1Sセメスター）、1A1・1A2ターム（1Aセメスター）にクラス指定で開講される。

どの科目をどのターム・セメスターに行うかは、クラスにより異なり、それは下表の4つのグループに予め分けられる。（総合科目L系列の履修方法の詳細については、p. 26参照）グループは所属クラスによるので、『時間割表』の「英語の履修について」を参照すること。

全科類	1 S1	1 S2	1 A1	1 A2
	1 S		1 A	
1	英語一列① (総合科目L系列)	英語二列S	(総合科目L系列)	英語一列② 英語二列W
	英語一列① 英語二列W	(総合科目L系列)	英語二列S (総合科目L系列)	英語一列②
2	英語二列S (総合科目L系列)	英語一列①	英語一列②	(総合科目L系列) 英語二列W
	(総合科目L系列)	英語一列①	英語一列②	英語二列S (総合科目L系列)
3	(総合科目L系列)	英語一列①	英語一列②	(総合科目L系列) 英語二列W
	英語二列W	英語一列①	英語一列②	英語二列S (総合科目L系列)
4	(総合科目L系列)	英語一列①	英語一列②	英語二列S (総合科目L系列)
	英語二列W	英語一列①	英語一列②	英語二列S (総合科目L系列)

「英語一列」は共通教科書を使用する習熟度別の科目であり、文科生、理科生ともに指定された授業を受講する。

「英語二列」は、S（アカデミック・ディスカッション）1ターム分とW（アカデミック・ライティング）1セメスター分の、それぞれ指定された授業を受講する。Sは、文科生、理科生ともFLOW(Fluency-Oriented Workshop)、Wは、ALESA(Active Learning of English for Students of the Arts)（文科生）、ALESS(Active Learning of English for Science Students)（理科生）の各プログラムにより実施する。

なお、非英語圏からの留学生、および入試の外国語を英語以外で受験した者で、かつ英語の履修を希望する者を対象に「英語特別クラス」を開講している。この単位は必修の「英語一列」、「英語二列」、または総合科目L系列の単位に充当することとなるが、成績評価（p.36）は「可」以下となる。（「英語特別クラス」の履修手続きの詳細については、p. 32参照）

## ⑥ 初修外国語の単位数と履修方法

対象科類	取得すべき単位数	科目毎の単位数	科目毎の開講形態	開講セメスター・科目名	
				1 S	1 A
全科類	6	2	セメスター制 週1コマ	○語一列① ○語二列	○語一列②

初修外国語は、各科目2単位、計6単位の科目群である。1Sセメスターに2科目（一列・二列）、1Aセメスターに1科目（一列）がクラス指定で開講される。（総合科目L系列の履修方法の詳細については、p. 26参照）

## ⑦ 既修外国語（日本語）の単位数と履修方法

対象科類	取得すべき 単位数	科目毎の 単位数	科目毎の 開講形態	開講ターム・セメスター・科目名	
				1 S	1 A
全科類	5	2	セメスター制週1コマ	日本語一列①	日本語一列②
		1	ターム制週1コマ	日本語二列	

既修外国語の日本語は、各科目1単位または2単位で、計5単位の科目群である。（総合科目L系列の履修方法の詳細については、p. 26参照）

「日本語一列」は、文科生、理科生ともに指定された授業を受講する。

「日本語二列」は、学習目標・活動やレベルに応じた複数の授業が開講される。1Sセメスター開始時に日本語能力テストを受け、各自の到達度や学習目的に応じて履修する授業が決められる。必要性に応じて、取得すべき単位数を超えて履修することを指示される場合がある。取得すべき単位数を超えて単位取得した場合、超えた分については、「基礎科目・展開科目・総合科目・主題科目の最低単位数の他に取得しなければならない単位数」（p. 29）に含めることができる。

## ⑧ 既修外国語（英語・日本語以外）の単位数と履修方法

対象科類	取得すべき 単位数	科目毎の 単位数	科目毎の 開講形態	開講セメスター・科目名	
				1 S	1 A
全科類	6	2	セメスター制 週1コマ	○語一列① ○語二列	○語一列②

英語・日本語以外の言語を既修外国語として選択した場合、既修外国語として取得すべき単位数は「5」ではなく「6」となる。（その分、総合科目L系列において既修外国語と同一言語の科目から取得すべき単位数は、各科類の規定の単位数から「1」減となる。）

英語・日本語以外の既修外国語は、各科目2単位で、計6単位の科目群である。1Sセメスター、1Aセメスターに開講される。（総合科目L系列の履修方法の詳細については、p. 26参照）

ドイツ語、フランス語、中国語については既修クラスを設けており、指定されたクラスで授業を受講する。

ロシア語、スペイン語、韓国朝鮮語、イタリア語についてはセメスター毎に総合科目L系列の国際コミュニケーション「外国語中級」（第三外国語は除く）または「外国語上級」を必要単位数分履修し、基礎科目の既修外国語の単位にセメスター毎に振り替える。

## ⑨ 「既修・既修」の組み合わせで履修する場合の注意事項

一方の言語を既修外国語相当、もう一方の言語を初修外国語相当として入学時に選択し、これをその後変更することはできない。

既修外国語相当として選択した言語の履修方法は、英語の場合は前記⑤を、日本語の場合は前記⑦を、英語・日本語以外の言語の場合は前記⑧を参照すること。

初修外国語相当として選択した言語の履修方法は、英語の場合は前記⑤を、英語・日本語以外の言語の場合は前記⑥を参照すること。日本語の場合は、前記⑦の内容に加えて、「日本語二列」をさらに1単位履修し、計6単位を取得しなければならない。

（総合科目L系列の履修方法の詳細については、p. 26参照）

## (2) 情報

対象科類	取得すべき 単位数	科目毎の 単位数	科目毎の 開講形態	開講セメスター	
				1 S	
全科類	2	2	セメスター制 週1コマ	○	

「情報」は全科類の必修で、2単位の科目である。1Sセメスターにクラス指定で開講される。但し、希望する者は、選抜試験に合格した上で、クラス指定で開講される「情報」に代わり、アドバンスト理科基礎科目として開講される「情報α」を所定の曜限で履修することができる。

## (3) 身体運動・健康科学実習

対象科類	取得すべき 単位数	科目毎の 単位数	科目毎の 開講形態	開講セメスター		
				1 S	1 A	2 S
全科類	2	1	セメスター制 週1コマ	○	○	○ (いずれかを履修)

「身体運動・健康科学実習Ⅰ、Ⅱ」は全科類の必修で、各科目1単位、計2単位の科目群である。このうち、「身体運動・健康科学実習Ⅰ」は1Sセメスターにクラス指定で開講され、これを必ず履修しなくてはならない。一方、「身体運動・健康科学実習Ⅱ」は1Aセメスターにクラス指定で開講されることに加え、限定的ではあるが2Sセメスターにも開講されるため、いずれかを履修すればよい（2Sセメスターの開講は2曜限のみで、それぞれの曜限で選択できる実技種目は一つか二つである）。

「身体運動・健康科学実習Ⅰ」の成績評価（p. 36）が「不可」または「欠席」となった場合は2Sセメスターに、「身体運動・健康科学実習Ⅱ」（1Aセメスター）の成績評価が「不可」または「欠席」となった場合は2Sセメスターと2Aセメスターに、それぞれ再履修が可能である。また、「身体運動・健康科学実習Ⅱ」（2Sセメスター）の成績評価が「不可」または「欠席」となった場合は2Aセメスターに再履修が可能である。ただし、「身体運動・健康科学実習Ⅰ、Ⅱ」の成績の平均が50点以上に達していれば、これらの再履修は必要ない（p. 43参照）。

なお、「身体運動・健康科学実習Ⅰ、Ⅱ」は実技・運動を伴う科目であるが、疾病等により運動を禁止または制限されている者を対象に、クラス指定とは異なる曜限で「メディカルケアコース」を開講している（「メディカルケアコース」の履修手続きの詳細については、p. 32参照）。

#### (4) 初年次ゼミナール

対象科類	取得すべき 単位数	科目毎の 単位数	科目毎の 開講形態	開講セメスター
				1 S
全科類	2	2	セメスター制 週1コマ	○

初年次ゼミナールは全科類の必修で、2単位の科目である。1Sセメスターに文科生対象の「初年次ゼミナール文科」と理科生対象の「初年次ゼミナール理科」が開講される。

##### ① 初年次ゼミナール文科

「初年次ゼミナール文科」は文科生の必修で、少人数形式の2単位の科目である。

人文・社会科学諸領域の専門に触れつつ、資料の収集や調査の方法、日本語による口頭発表ならびに論文作成能力などのアカデミック・スキルを学び、自ら問いを立てて考え、解明する手法に触れる。文科生全体をクラスにより6つのグループに分け、各グループに対して指定された2つの曜限枠に、計10～11程度の異なる授業が同時に開講される。各グループで受講可能な授業は事前に教務課前期課程ホームページで発表される。文科生は、指定された2つの曜限枠に開講された授業の中からいざれかの授業を選択して履修する。

- 1) 各授業には小論文が課される。
- 2) 授業スタイルには、文献講読、フィールドワークなど多様なタイプがあるので、各自シラバスをよく読んで選択すること。
- 3) 第1週の授業で教員による授業紹介がなされる。第2週の各曜限でのアカデミック・スキル講義+検索実習がおこなわれるまでに各自UTAS上で複数の志望を登録する。抽選に基づいて各授業の履修者を決定するので、履修者は、各自第3週の授業開始前に履修する授業をUTAS上で確認する。各教員の授業は第3週から開始される。

##### ② 初年次ゼミナール理科

「初年次ゼミナール理科」は理科生の必修で、2単位の科目である。

少人数チュートリアル方式の授業により、基礎的な学術的スキルを、アカデミック体験を通して習得する。理科生全体をクラスにより6つのグループに分け、各グループに対して指定された2つの曜限枠に、計16～17程度の異なる授業が同時に開講される。各グループで受講可能な授業は事前に教務課前期課程ホームページで発表される。理科生は、指定された2つの曜限枠に開講された授業の中からいざれかの授業を選択して履修する。成績は点数によらず、合格または不合格の評価による。

- 1) 各授業の履修人数は20名を原則とする。
- 2) 最初の2週間は、曜限毎の各グループに対する大人数講義を行う。第1週にUTASで受講を希望する授業を登録する。履修希望者が多い場合には抽選により希望順に授業に割り当てられ、第3週目開始までにUTAS上で確認することができる。
- 3) FYS PortalのWebページ (<https://fye.c.u-tokyo.ac.jp/>) に授業に関する情報が掲載されるので確認すること。

## (5) 社会科学

対象科類	取得すべき 最低単位数	科目毎の 単位数	科目毎の 開講形態	開講セメスター			
				1 S	1 A	2 S	2 A
文一・文二	8	2	セメスター制 週1コマ	○	○	○	○
文三	4	2					

社会科学は文科生の必修で、「法」「政治」「経済」「社会」「数学」の5分野の科目があり、各科目2単位の科目群である。科目によっては、クラス指定で開講される場合がある。理科生が履修することはできない。

分野毎の科目名および取得すべき最低単位数の科類毎の内訳は下表のとおりである。

分野毎の 科目名	取得すべき最低単位数の内訳		
	文一	文二	文三
法Ⅰ、法Ⅱ			
政治Ⅰ、政治Ⅱ	「法Ⅰ、法Ⅱ」4単位	「経済Ⅰ、経済Ⅱ、 数学Ⅰ、数学Ⅱ」	2分野以上に わたり
経済Ⅰ、経済Ⅱ	または	の中から4単位を含め 8単位以上	4単位以上
社会Ⅰ、社会Ⅱ	「政治Ⅰ、政治Ⅱ」4単位 を含め8単位以上		
数学Ⅰ、数学Ⅱ			

同じ分野のⅠとⅡの双方を履修することは可能であるが、一つのセメスターに同じ分野のⅠとⅡを同時に履修することはできない。

文科一類・二類・三類の各最低単位数を超えて単位を取得した場合、超えた分については、2単位を上限として「基礎科目・展開科目・総合科目・主題科目の最低単位数の他に取得しなければならない単位数」(p. 29)に含めることができる。

## (6) 人文科学

対象科類	取得すべき 最低単位数	科目毎の 単位数	科目毎の 開講形態	開講セメスター			
				1 S	1 A	2 S	2 A
文科各類	4	2	セメスター制 週1コマ	○	○	○	○

人文科学は文科生の必修で、「哲学」「倫理」「歴史」「ことばと文学」「心理」の5分野の科目があり、各科目2単位の科目群である。科目によっては、クラス指定で開講される場合がある。理科生が履修することはできない。

分野毎の科目名および取得すべき最低単位数の科類毎の内訳は下表のとおりである。

分野毎の 科目名	取得すべき最低単位数の内訳	
	文科各類	
哲学Ⅰ、哲学Ⅱ		
倫理Ⅰ、倫理Ⅱ		
歴史Ⅰ、歴史Ⅱ		
ことばと文学Ⅰ、ことばと文学Ⅱ、 ことばと文学Ⅲ、ことばと文学Ⅳ	2分野以上に わたり	4単位以上
心理Ⅰ、心理Ⅱ		

同じ分野のⅠとⅡの双方を履修することは可能であるが、一つのセメスターに同じ分野のⅠとⅡを同時に履修することはできない。ただし、「ことばと文学」については、Ⅰ～Ⅳのうち、いずれを同時に履修してもかまわない。

文科一類・二類・三類の各最低単位数を超えて単位を取得した場合、超えた分については、2単位を上限として「基礎科目・展開科目・総合科目・主題科目の最低単位数の他に取得しなければならない単位数」(p.29)に含めることができる。

## (7) 自然科学 基礎実験

対象科類	取得すべき 最低単位数	科目毎の 単位数	科目毎の 開講形態	開講ターム			
				1 A1	1 A2	2 S1	2 S2
理科各類	3	1	ターム制 週2コマ	○ (必修)	○ (必修)	○ (必修)	○ (任意選択)

基礎実験は理科生の必修で、各科目1単位の科目群である。1A1・1A2・2S1・2S2タームに開講される。そのうち、1A1・1A2・2S1タームはクラス指定で開講され必ず履修する必要がある。2S2タームの履修は任意となるが、単位取得した場合は「基礎科目・展開科目・総合科目・主題科目の最低単位数の他に取得しなければならない単位数」(p. 29)に含めることができる。

### ① 理科一類生の履修方法

理科一類生は、どの分野の実験をどのタームに行うか、1Sセメスターの間の定められた期間内に下表の3つのグループから事前に選択する。選択の希望のない場合は、グループ1またはグループ2に割り当てられる。1A1タームから2S1タームまでは、各クラスに指定された曜限枠(いずれかの曜日の連続する2コマ)において、選択したグループ毎に実験を履修していくこととなる。

理一	1 A1	1 A2	2 S1	2 S2 (任意選択)
グループ1 (各曜日 125名まで)	基礎実験I (物理学)	基礎実験II (物理学)	基礎実験III (化学)	基礎実験IV (化学)
グループ2 (各曜日 125名まで)	基礎実験I (化学)	基礎実験II (化学)	基礎実験III (物理学)	基礎実験IV (物理学)
グループ3 (各曜日 16名まで)	基礎実験I (物理学or化学) (注1)	基礎実験II (化学or物理学) (注1)	基礎生命科学実験	生命科学実験

(注1) 1A1タームで「基礎実験I (物理学)」を受講した場合は、1A2タームでは「基礎実験II (化学)」を受講する。1A1タームで「基礎実験I (化学)」を受講した場合は、1A2タームでは「基礎実験II (物理学)」を受講する。

各グループには人数制限があるため、希望者が多い場合は抽選を行う。なお、一旦決定したグループは変更できない。1Sセメスターの間に行われる選択についての詳細は、教務課前期課程ホームページ等で周知するので、確認すること。特にグループ3は、「基礎生命科学実験」の履修を希望する学生向けに設けられているが、詳細は別途教務課前期課程ホームページで周知するので、十分検討してから選択すること。また、「基礎生命科学実験」ではグループ3の理科一類生、理科二類生・理科三類生および文科生を含めて新たにグループ分けを行う。そのグループ分け名簿は初回授業前日頃に発表する。

但し、希望する者は、選抜試験等に合格した上で、「基礎実験I、II (物理学)」、「基礎実験I、II (化学)」、「基礎生命科学実験」、「生命科学実験」に代えて、アドバンスト理科基礎実験科目としてそれぞれ開講される「基礎実験I、II (物理学) α」、「基礎実験I、II (化学) α」、「基礎生命科学実験 α」、「生命科学実験 α」を所定の曜限で履修することができる。

### ② 理科二類生・理科三類生の履修方法

理科二類生・理科三類生は、どの分野の実験をどのタームに行うか、学生証番号の奇数・偶数により下表の2つのグループに予め分けられる。1A1タームから2S1タームまでは、各クラ

スに指定された曜限枠（いずれかの曜日の連続する 2 コマ）において、定められたグループ毎に実験を履修していくこととなる。

理二・理三	1 A1	1 A2	2 S1	2 S2 (任意選択)
グループ A	基礎物理学実験	基礎化学実験	基礎生命科学実験	生命科学実験
グループ B	基礎化学実験	基礎物理学実験		

なお、定められたグループの変更はできない。学生証番号の奇数・偶数が、上表のどちらのグループに割り振られるかは、『科目紹介』（シラバス抜粋）『時間割表』で確認すること。

また、「基礎生命科学実験」ではグループ 3 の理科一類生と文科生を含めて新たにグループ分けを行う。そのグループ分け名簿は初回授業前日頃に発表する。

但し、希望する者は、選抜試験等に合格した上で、「基礎生命科学実験」、「生命科学実験」に代えて、アドバンスト理科基礎実験科目としてそれぞれ開講される「基礎生命科学実験 α」、「生命科学実験 α」を所定の曜限で履修することができる。

### ③ 文科生が「基礎実験」を履修する場合の注意

後期課程学部・学科の要求科目（p. 90 以降の別表 6）で基礎実験の要求が 3 単位の場合は、理科一類生が履修するグループ 1 またはグループ 2、あるいは理科二類・三類生が履修するグループ A またはグループ B のいずれかに加わり履修する。

要求が 1 単位の場合は上記いずれかから 1 単位相当分を履修する。

要求が 2 単位の場合は上記いずれかから 2 単位相当分を履修する。「基礎実験」は 1 A1 タームから始まるので早めに計画を立てること。同時期に 2 科目を履修することはできない。また、各ターム各科目において履修可能な人数に制限があるので、履修にあたっては、各タームの初めに掲示される注意事項を参照してその指示に従うこと。

なお、文科生が「基礎実験」を履修した場合の成績は合格または不合格のみの評価となる。単位取得した場合は、「基礎科目・展開科目・総合科目・主題科目の最低単位数の他に取得しなければならない単位数」（p. 29）に含めることができる。

また、進学選択で用いられる「基本平均点」と「指定平均点」には特に指定のない限りは算入されない（p. 56）。

## (8) 自然科学 数理科学

対象科類	取得すべき 単位数	科目毎の 単位数	科目毎の 開講形態	開講ターム・セメスター		
				1 S1	1 S2	1 A
理一	1 2	1 or 2	ターム制 or セメスター制 週1コマ or 週2コマ	○	○	○
理二・理三						

数理科学は理科生の必修で、各科目 1 単位または 2 単位の科目群である。1 S1・1 S2 ターム、1 A セメスターにクラス指定で開講される。各科目において取得すべき単位数、開講ターム・セメスター、単位数・コマ数は下表のとおりである。

科目名	取得すべき単位数		開講ターム・セメスター毎の単位数・コマ数		
	理一	理二・理三	1 S1	1 S2	1 A
数理科学基礎	2	2	2 (週2コマ)	—	—
微分積分学①	1	1	—	1 (週1コマ)	
微分積分学②	2	2	—	—	2 (週1コマ)
線型代数学①	1	1	—	1 (週1コマ)	
線型代数学②	2	2	—	—	2 (週1コマ)

数理科学基礎演習	1	任意選択	1(週1コマ)	—	—
数学基礎理論演習	1	任意選択	—	1(週1コマ)	—
微分積分学演習	1	1	—	—	1(隔週)
線型代数学演習	1	1	—	—	1(隔週)

- ※ 「数理科学基礎演習」は1S1タームの講義「数理科学基礎」に、「数学基礎理論演習」は1S2タームの講義「微分積分学①」および「線型代数学①」に、「微分積分学演習」は1Aセメスターの講義「微分積分学②」に、「線型代数学演習」は1Aセメスターの講義「線型代数学②」に、それぞれ対応して行われる。また、各講義科目の定期試験は、対応する各演習との合併試験として行われ、その評価は各演習の成績にも反映される。(演習科目のみを他クラス聴講している場合および演習科目のみを単位取得している場合を除く)
- ※ 理科二類生・理科三類生は、「数理科学基礎演習」および「数学基礎理論演習」の履修は任意となるが、単位取得した場合は「基礎科目・展開科目・総合科目・主題科目の最低単位数の他に取得しなければならない単位数」(p. 29)に含めることができる。
- ※ 他クラス聴講(p. 41)を行う場合には、自分が所属する科類を対象とする授業を申請すること。また、講義と対応する演習がある科目について、両方の他クラス聴講を行う場合には、同じクラスを対象とした講義・演習を履修すること。(ただし、後期課程の専門科目の必修科目と重複している等、時間割上の都合がある場合を除く)
- ※ 他クラス聴講または、文科生が要求科目として「微分積分学①」、「微分積分学②」、「線型代数学①」、「線型代数学②」を履修する場合、S2タームとAセメスターを通して履修することを推奨する。

## (9) 自然科学 物質科学

対象科類	取得すべき単位数	科目毎の単位数	科目毎の開講形態	開講ターム・セメスター		
				1 S	1 A	2 S1
理科各類	10	2	セメスター制 週1コマ or ターム制 週2コマ	○	○	○

物質科学は理科生の必修で、各科目2単位の科目群である。1S・1Aセメスター、2S1タームにクラス指定で開講される。

各科目において取得すべき単位数、開講ターム・セメスター、単位数・コマ数は下表のとおりである。

科目名	取得すべき最低単位数		開講ターム・セメスター毎の単位数・コマ数		
	理一	理二・理三	1 S	1 A	2 S1
力学	2	2	2(週1コマ)	—	—
電磁気学	2	2	—	2(週1コマ)	—
熱力学	2	—	2(週1コマ)	—	—
化学熱力学	—	2	2(週1コマ)	—	—
構造化学	2	2	—	2(週1コマ)	—
物性化学	2	2	—	—	2(週2コマ)

※ 以下の4科目については、コース選択等があるので、特に注意すること。

### ① 「力学」

A、B 2種類のコースが用意されており、各クラスに対して指定されている曜限枠に開講される。学生はどちらか一方を選んで履修する。

Aコース 一般選抜（前期日程試験）において物理を選択した者、および希望する者

Bコース 一般選抜（前期日程試験）において物理を選択しなかった者で希望する者、

もしくは一般選抜以外の入学試験における入学者で希望する者

成績の取り扱いについてA、Bコースによる差はない。また、進学選択に際し、学部・学科がA、Bいずれか一方のコースを指定して単位取得を要求することはない。

履修登録方法の詳細については、p. 30(III 1. (2) ④)を参照すること。

### ② 「電磁気学」

A、B 2種類のコースが用意されており、各クラスに対して指定されている曜限枠に開講される。学生はどちらか一方を選んで履修する。

Aコース 一般選抜（前期日程試験）において物理を選択した者、および希望する者

Bコース 一般選抜（前期日程試験）において物理を選択しなかった者で希望する者、

もしくは一般選抜以外の入学試験における入学者で希望する者

成績の取り扱いについてA、Bコースによる差はない。また、進学選択に際し、学部・学科がA、Bいずれか一方のコースを指定して単位取得を要求することはない。

履修登録方法の詳細については、p. 30(III 1. (2) ④)を参照すること。

### ③ 「熱力学」

理科一類生のうち、一般選抜（前期日程試験）において物理を選択しなかった者で希望する者、もしくは一般選抜以外の入学試験における入学者で希望する者は、「熱力学」の成績と単位を「化学熱力学」で代替することができる。同じ曜限枠に開講される「化学熱力学」を履修するのが原則であるが、同じ曜限枠に開講されていない場合は他の曜限に開講される「化学熱力学」を履修する。

### ④ 「構造化学α」

希望する者は、選抜試験に合格した上で、クラス指定で開講される「構造化学」に代わり、アドバンスト理科基礎科目として開講される「構造化学α」を所定の曜限で履修することができる。

## (10) 自然科学 生命科学

対象科類	取得すべき 単位数	科目毎の 単位数	科目毎の 開講形態	開講ターム・セメスター		
				1 S	1 A	2 S1
理一	1	1	ターム制 週1コマ			○
理二・理三	4	2	セミスター制 週1コマ	○	○	

生命科学は理科生の必修で、各科目1単位または2単位の科目群である。1S・1Aセメスター、2S1タームにクラス指定で開講される。

各科目において取得すべき単位数、開講ターム・セメスター、単位数・コマ数は下表のとおりである。

科目名	取得すべき単位数		開講ターム・セメスター毎の単位数・コマ数		
	理一	理二・理三	1 S	1 A	2 S1
生命科学	1	—	—	—	1(週1コマ)
生命科学 I	—	2	2(週1コマ)	—	—
生命科学 II	—	2	—	2(週1コマ)	—

### 3. 展開科目の履修

対象科類	取得すべき 最低単位数	科目毎の 単位数	科目毎の 開講形態	開講ターム・セメスター		
				1 A (1A1、1A2)	2 S (2S1、2S2)	2 A (2A1、2A2)
全科類	任意選択	1 or 2	ターム制 or セメスター制 週1コマ or 週2コマ	○	○	○

展開科目には、原則として「修得済科目の履修制限」および「複数履修制限」(p. 11) が適用されないので、何科目でも履修し、単位を取得することができる。単位取得した場合は「基礎科目・展開科目・総合科目・主題科目の最低単位数の他に取得しなければならない単位数」(p. 29) に含めることができる。ただし、履修希望者が多い場合には選抜等を行う講義が多いので、1講義も履修できない可能性があることに留意すること。

#### (1) 社会科学ゼミナー

社会科学ゼミナーは全科類の任意選択科目で、「法・政治」「経済・統計」「社会・社会思想史」「国際関係」の4分野の科目がある。成績は点数によらず、合格または不合格の評価による。

- 各授業の履修人数は原則として最大20名である。
- 履修希望者が多い場合には、初年次ゼミナー文科の成績などをもとに選抜を実施する。詳しい選抜方法は各授業による。

詳細は、UTASログイン後の【シラバス参照】および前期課程ホームページ上の『科目紹介』(シラバス抜粋)で確認すること。

※令和3年度より、社会科学ゼミナーおよび次項の人文科学ゼミナーを「アドバンスト文科」として総称することとする。

#### (2) 人文科学ゼミナー

人文科学ゼミナーは全科類の任意選択科目で、「哲学・科学史」「歴史学」「文化人類学」「ことばと文化」「データ分析」の5分野の科目がある。

- 授業の形態・履修条件・許容人数などは授業ごとに異なるため、履修に際しては、シラバスをよく確認すること。授業によっては、事前に履修希望者の選考を実施するものもある。

詳細は、UTASログイン後の【シラバス参照】および前期課程ホームページ上の『科目紹介』(シラバス抜粋)で確認すること。

※令和3年度より、人文科学ゼミナーおよび上記社会科学ゼミナーを「アドバンスト文科」として総称することとする。

#### (3) 自然科学ゼミナー

自然科学ゼミナーは全科類の任意選択科目で、「身体運動科学」「生命科学」「化学」「物理学」「数理科学」「情報科学」「基礎工学」「医学」の8分野の科目がある。

- 各授業の履修人数は原則として最大20名である。
- 履修希望者が多い場合もしくは担当教員が必要と認める場合は、選抜を実施することがある。選抜方法は各授業による。

詳細は、UTASログイン後の【シラバス参照】および前期課程ホームページ上の『科目紹介』（シラバス抜粋）で確認すること。

#### (4) 文理融合ゼミナール

文理融合ゼミナールは全科類の任意選択科目で、「認知と芸術」「身体と芸術」「メディアと芸術」の3分野の科目がある。さらに「研究入門」では、教員のメンターシップのもと、文理融合の視点で得られた問い合わせに取り組む。

・授業の形態・履修条件・許容人数などは授業ごとに異なるため、履修に際しては、シラバスをよく確認すること。授業によっては、事前に履修希望者の選考を実施するものもある。

詳細は、UTASログイン後の【シラバス参照】および前期課程ホームページ上の『科目紹介』（シラバス抜粋）で確認すること。

なお、文理融合ゼミナールは「アドバンスト文理融合」とも呼ばれる。

#### 4. 総合科目の履修

科類	取得すべき 最低単位数	取得すべき最低単位数の系列毎の内訳						
		L	A	B	C	D	E	F
文一・二	2 1	9 (注1)	2系列以上にわたり 6				2系列以上にわたり 6	
文三	2 5	3系列以上にわたり、 Lから9を含め17 (注1)				2系列以上にわたり 8		
理科各類	1 5	3 (注2)	2系列以上にわたり 6				2系列にわたり 6	

(注1) L系列の9単位は、任意の科目2単位、既修外国語として履修するものと同一言語の科目3単位、初修外国語として履修するものと同一言語の「○語初級(演習)①、②」4単位を取得する(p. 26)。ただし、英語・日本語以外を既修外国語として履修する場合や既修・既修の組合せで外国語を履修する場合は、選択した外国語により、取得する科目と単位数が異なる場合がある(p. 26)。

(注2) 既修外国語として履修するものと同一言語の科目から3単位(英語・日本語以外を既修外国語として履修する場合は2単位)を取得する(p. 26)。

総合科目は、科目により、1単位のものと2単位のもの、ターム制のものとセメスター制のもの、週1コマのものと週2コマのもの等、多様な形態で開講されている。また、一部の科目はクラス指定で開講される。

##### (1) 履修制限に関する注意事項および例外

総合科目についても、原則として「履修に関する一般的な制限事項」(p. 11)が適用されるが、以下の注意事項および例外がある。

##### 《注意事項：別科目として扱う場合》

- ① I / II、A / B等の区別がある場合は別科目として扱う。
- ② L系列の大科目【古典語】の中の「古典語初級Ⅰ」「古典語初級Ⅱ」「古典語中級Ⅰ」「古典語中級Ⅱ」は、言語が異なれば、「初級Ⅰ」「初級Ⅱ」「中級Ⅰ」「中級Ⅱ」の部分が同一であっても別科目として扱う。

##### 《例外：履修に関する制限事項が適用されない科目》

以下の科目については、例外的に「修得済科目の履修制限」および「複数履修制限」(p. 11参照)が適用されない。従って、単位取得済みの科目であっても履修することができる。成績は履修した科目毎に付けられ、以前に履修した科目の成績が上書きされることはない。

ただし、履修上の条件はあるので、後述(2)の説明をよく読み注意すること。

- ① L系列の大科目【国際コミュニケーション】の中の「外国語初級(「外国語初級(演習)①」、「外国語初級(演習)②」を除く)」「外国語中級」「外国語上級」
- ② D系列の大科目【身体運動科学】の中の「スポーツ・身体運動実習」、「スポーツ・身体運動実習Ⅱ」および「スポーツ・身体運動実習Ⅰ(P.E.A.K.)」、「スポーツ・身体運動実習Ⅱ(P.E.A.K.)」

## (2) 履修上の条件を設けている総合科目

総合科目のうち、学年・科類・クラス等による履修条件がある科目は、p. 70以降の別表4「総合科目授業内容概要」の授業内容欄に【1年生対象】【理科生対象】【クラス指定】等と明記されているので、よく確認すること。

それ以外の特別な条件がある科目は下表のとおりである。また、これ以外の条件が、UTASログイン後の【シラバス参照】およびセメスター毎に前期課程ホームページで公開される『科目紹介』(シラバス抜粋)で指示されることもある。

系列	科目名	履修条件 (別表4(p. 70以降)に明記されているものを除く)
L	外国語初級	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎科目において英語・日本語以外の既修外国語を選択した者は、該当言語の科目を履修する場合、中級(演習)、中級(会話)、中級(作文)、中級(表現練習)、中級(読み解き)、中級(インテンシブ)、上級の各科目を履修することを原則とする。</li> </ul>
L	外国語中級	<ul style="list-style-type: none"> <li>初級(第三外国語)および中級(第三外国語)は、基礎科目の外国語として選択した外国語と同一の言語は履修することができない。また、1言語(初級・中級を問わない)につき、1セメスター内(そこに含まれるタームを含む)には1コマの履修しか認められないが、複数の言語を履修することは認められる。</li> </ul>
L	外国語上級	<ul style="list-style-type: none"> <li>初級(演習)は、科目名に①または②が付されているものは文科生のみが対象であり、1年生はクラス指定の基礎科目に対応するかたちで開講される。科目名に①または②が付されていないものは1年生の理科生のみが対象であり、1言語につき、1セメスター内(そこに含まれるタームを含む)には1コマの履修しか認められない。</li> <li>初級(会話)、初級(作文)、初級(表現練習)、初級(読み解き)は、1年生の履修を優先する。</li> </ul>
L	英語中級	<ul style="list-style-type: none"> <li>「英語中級・セメスター制授業」、「英語中級・ターム制授業」、「英語上級・セメスター制授業」の3種類の授業がある。すでに修得した同一教員による同一種類の授業は履修することができない。</li> </ul>
L	英語上級	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語上級は一定以上の習熟度に到達した者を対象とする少人数授業である。</li> </ul>
D	スポーツ・身体運動実習	<p>1セメスター内(そこに含まれるタームを含む)には、それぞれ2コマ2単位までしか履修できない。</p> <p>「スポーツ・身体運動実習」「スポーツ・身体運動実習II」と総合科目(P-EAK)(p. 28)の「スポーツ・身体運動実習I(P-EAK)」「スポーツ・身体運動実習II(P-EAK)」を合わせ、2年次S2ターム・Sセメスター終了時までに2単位、2年次A2ターム・Aセメスター終了時までに4単位までしか取得できない。総合科目の最低単位数の中には合わせて2単位まで含めることができる。</p> <p>なお、「基礎科目・展開科目・総合科目・主題科目の最低単位数の他に取得しなければならない単位数」(p. 29)に含めることができるのは、「スポーツ・身体運動実習」「スポーツ・身体運動実習II」「スポーツ・身体運動実習I(P-EAK)」「スポーツ・身体運動実習II(P-EAK)」を合わせ、1単位までである。</p>
D	スポーツ・身体運動実習II	

### (3) L系列の科目の履修方法

L系列の科目を選択するにあたっては、以下に示すとおり、基礎科目的外国語科目との関係を踏まえる必要がある。

#### ① 既修外国語と同一言語の科目的必要最低単位数とその履修方法（英語の場合）

文科生および理科生ともに「英語中級」もしくは「英語上級」から計3単位を取得しなければならない。「英語中級」と「英語上級」の組合せは自由とする。「英語中級」は指定されたクラスのみが履修できるもの（指定クラス型）と全クラスに開かれたもの（全クラス型）がある。「英語上級」はすべて全クラス型である。S2ターム、A2タームの授業を含む、いずれの授業もセメスター開始時に履修希望の登録を行い、希望者が多数の授業については抽選を行う。各セメスターに履修できるのは指定クラス型、全クラス型をそれぞれ1コマまでである。全クラス型授業の登録は削除できない。指定クラス型の授業は、同じセメスターの全クラス型授業に登録を認められた場合のみ削除できる。2年次に履修できる授業には制限があるため、注意すること。

#### ② 初修外国語と同一言語の科目的必要最低単位数とその履修方法

文科生は、初修外国語として履修するものと同一言語の「初級（演習）①」2単位および「初級（演習）②」2単位の計4単位を取得しなければならない。「初級（演習）①」はSセメスター、「初級（演習）②」はAセメスターに開講されるが、1年次の初修外国語のクラス指定科目の時間割に配慮して、どのクラスの1年生も週1コマは確実に履修できるように、クラス指定科目に対応する曜日に配置されている。ただし、要履修許可科目登録（p. 32）の手続きを経てそれ以外の曜日の授業を履修することが認められる場合がある。

#### ③ 既修外国語と同一言語の科目的必要最低単位数とその履修方法（日本語の場合）

文科生および理科生ともに「日本語上級」もしくは「日本語中級」から計3単位を取得しなければならない。1Sセメスター開始時に受ける日本語能力テストによる診断・日本語到達度等を考慮して履修する授業が決められる。履修方法の詳細は各セメスター開始時に示される。

#### ④ 既修外国語と同一言語の科目的必要最低単位数とその履修方法（英語・日本語以外の場合）

ドイツ語、フランス語、中国語を既修外国語として履修している者は、それと同一言語の「外国語中級」（第三外国語を除く）または「外国語上級」から2単位を取得しなければならない。

ロシア語、スペイン語、韓国朝鮮語、イタリア語を既修外国語として履修している者は、それと同一言語の「外国語中級」（第三外国語を除く）または「外国語上級」から計8単位（うち6単位は基礎科目への振替分。p. 14参照）を取得しなければならない。

#### ⑤ 既修・既修の組合せで基礎科目的外国語を履修した場合に、初修外国語相当として選択した言語と同一言語の科目的必要最低単位数とその履修方法

##### 1) 英語の場合

「英語中級」もしくは「英語上級」から、文科生は計5単位、理科生は1単位を取得しなければならない。その他の事項は前記①の記載事項による。

##### 2) 日本語の場合

「日本語上級」もしくは「日本語中級」から、文科生は計4単位を取得しなければならない。その他の事項は前記③の記載事項による。

##### 3) ドイツ語、フランス語、中国語の場合

初修外国語相当として選択した言語と同一言語の「外国語中級」（第三外国語を除く）または「外国語上級」から、文科生は計4単位を取得しなければならない。その他の事項は前記④の記載事項による。

4) ロシア語、スペイン語、韓国朝鮮語、イタリア語の場合

初修外国語相当として選択した言語と同一言語の「外国語中級」（第三外国語を除く）または「外国語上級」から、文科生は計10単位（うち6単位は基礎科目への振替分。p. 14参照）、理科生は計6単位を取得しなければならない。その他の事項は前記④の記載事項による。

開講（予定）言語	L系列「外国語初級・中級・上級」	種目	
英語（中級・上級のみ）、 ドイツ語、 フランス語、 中国語、 ロシア語、 スペイン語、 韓国朝鮮語、 イタリア語、	日本語（中級・上級のみ）、 アラビア語、 ヒンディー語、 インドネシア語、 ベトナム語、 広東語、 ヘブライ語、 上海語、	ペルシア語、 セルビア・クロアチア語、 ポーランド語、 タイ語、 ポルトガル語、 台湾語、 モンゴル語、 トルコ語、等	演習、 会話、 作文、 表現練習、 読解、 インテンシヴ、 第三外国語

※ 英語・日本語以外は、各々の言語について各種目のいずれかあるいは全部が開講される。

#### (4) 特別コース・プログラム

##### ① 外国語インテンシヴ・コース

「外国語インテンシヴ・コース」は、意欲をもつ学生のために設置された初修外国語（ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語、韓国朝鮮語、イタリア語）の特別コースであり、「読む」「聴く」「書く」「話す」の4つの能力を総合的に高めることを目標としている。全ての初修外国語インテンシヴ・コースで初級および中級の科目が設置されている。

- ・初級インテンシヴ・・・1年生対象で、参加者はL系列【国際コミュニケーション】の「外国語初級（インテンシヴ）」の対応するペアの科目を2科目週2コマ履修する。
- ・中級インテンシヴ・・・L系列【国際コミュニケーション】の「外国語中級（インテンシヴ）」の対応するペアの科目を2科目週2コマ履修することを原則とするが、1科目週1コマの履修も認める。

このコースに参加する学生は授業開始日（掲示によって指定する）にオリエンテーションを行って募集する。人数は約30名を目安とし、希望者が多数の場合は選抜を行う。

このコースは原則、S・Aセメスターに開講し、各セメスターに完結するものである。継続の義務はなく、また1Aセメスター、2Sセメスターからの参加も認められる。ただし、継続を希望する者は優先して次のセメスターにも参加できるよう配慮する。

##### ② トライリンガル・プログラム（TLP）

外国語の一部の科目は、トライリンガル・プログラム（TLP）の一環として開講されている。トライリンガル・プログラムの履修の詳細については、プログラム採用者に対し別途指示される。

## 5. 主題科目の履修

対象科類	取得すべき最低単位数	開講科目
全科類	2	学術フロンティア講義 全学自由研究ゼミナール 全学体験ゼミナール 国際研修

主題科目は、科目により、1単位のものと2単位のもの、ターム制のものとセメスター制のもの、週1コマのものと週2コマのもの等、多様な形態により開講されている。

主題科目には「修得済科目の履修制限」および「複数履修制限」(p. 11)が適用されないので、何科目でも履修し、単位を取得することができる。ただし、授業によっては学年・科類等による履修上の条件を設けている場合があるので、UTASログイン後の【シラバス参照】および各セメスター初めに前期課程ホームページで公開される『科目紹介』(シラバス抜粋)で確認すること。主題科目の成績は点数によらず、合格または不合格のみの評価による。

また、授業期間以外に開講されることもあり、場合によっては成績の発表が通常の成績発表期間よりも遅くなることがある。これらの科目は授業のガイド等で実施期間等を確認の上履修すること。なお、履修希望者に対して説明会や選抜等を行う場合がある。

## 6. 国際教養コース（PEAK）科目の履修

PEAK科目は国際教養コース生向けに英語で開講している科目である。国際教養コース生以外が履修できるPEAK科目、および単位取得した際にどの科目の単位として扱われるかは下表による。

PEAK科目の履修科目登録の際には、要履修許可科目登録(p. 32)が必要となるので注意すること。

国際教養コース生以外が履修できるPEAK科目	単位取得した際の取り扱い (下記科目(系列)の単位として扱われる。)
基礎科目	法・政治(PEAK) 経済・統計(PEAK) 社会・社会思想(PEAK) 国際関係(PEAK) 数学(PEAK)
	総合科目C系列
	総合科目B系列
	主題科目「全学自由研究ゼミナール」
	哲学・倫理(PEAK) 歴史(PEAK) ことばと文学(PEAK) 心理(PEAK)
基礎科目	総合科目A系列 総合科目B系列 総合科目A系列 総合科目D系列
	数学I、II(PEAK) 物理学基礎(PEAK)
	化学基礎(PEAK) 地球科学(PEAK)
	生命科学(PEAK)
	主題科目「全学自由研究ゼミナール」
展開科目(PEAK)	展開科目(注1)
総合科目(PEAK)(注2)	総合科目
主題科目(PEAK)	主題科目

(注1) 「社会科学ゼミナール」の単位として扱われる場合、成績評価は合格・不合格のみの評価となる(p. 36)。

(注2) 総合科目(PEAK)のL系列の科目は履修できない。また、PEAK科目以外で授業内容が同等の科目を既に履修している場合または単位取得している場合は、履修が許可されない場合がある。

## 7. 基礎科目・展開科目・総合科目・主題科目の最低単位数の他に取得しなければならない単位数

科類	基礎科目・展開科目・総合科目・主題科目の最低単位数の他に取得しなければならない単位数
文科一類	4
文科二類	4
文科三類	4
理科一類	3
理科二類	2
理科三類	2

上記の単位数は、各科類毎に示された前期課程で取得すべき単位数（前期課程修了に必要な単位数）のうち基礎科目・展開科目・総合科目・主題科目の最低単位数の他に取得しなければならない単位数である。なお、この単位数に含めることができる上限単位数は以下のとおり決められているので、注意すること。

- ・ 基礎科目 [社会科学] は2単位まで（文科生のみ）
- ・ 基礎科目 [人文科学] は2単位まで（文科生のみ）
- ・ 総合科目D系列の大科目 [身体運動科学]の中の「スポーツ・身体運動実習、スポーツ・身体運動実習Ⅱ」、「スポーツ・身体運動実習Ⅰ(P-EAK)、スポーツ・身体運動実習Ⅱ(P-EAK)」は合わせて1単位まで（文科生・理科生共通）

## 8. 要求科目・要望科目的履修

進学選択における要求科目（p. 90以降の別表6）・要望科目（p. 94以降の別表7）を満たすために、文科、理科の基礎科目を科類横断して履修する場合、単位取得した科目（基礎実験は除く）の単位は、総合科目の単位として扱われる。その際、総合科目のどの系列と見なされるかは、下表による。

要求科目・要望科目の履修科目登録の際には、要履修許可科目登録（p. 32）が必要となるので注意すること。

要求科目・要望科目とされる基礎科目	総合科目 系列
物質科学・生命科学の各科目	総合科目E（物質・生命）
数理科学の各科目	総合科目F（数理・情報）

※要求科目は、令和6年4月現在、理系の学部・学科等が設けており、文科生が当該理系学部・学科等への進学を志望する際には、2S2ターム・2Sセメスター終了時までの単位取得が必須となる。また、文系の学部・学科等では現在のところ要求科目は設けていないため、理科生が文系学部・学科等への進学を志望する際に単位取得が必須となる科目はない。ただし、一部の理系の学部・学科では理科生に対して要求科目を設けているので、進学選択における要求科目（p. 90以降の別表6）を確認すること。

### III 履修の手続きと授業受講に関する注意事項

#### 1. 履修等の手続き

履修等の手続きは主にUTAS (p. 3) で行う。

<https://www.c.u-tokyo.ac.jp/zenki/>

(ログインメニューから利用すること。)



##### (1) 履修関係手続きの日程

履修関係手続きの日程については、学年・科類により期間が異なる場合があるので、UTASおよび教務課前期課程ホームページの「教務課からのお知らせ」による掲示で確認すること。

<https://www.c.u-tokyo.ac.jp/zenki/news/kyoumu/index.html>



科目を履修するためには、各ターム・セメスターの指定された履修科目登録期間内に、そのターム・セメスターに履修しようとする科目を登録しなければならない。期日に遅れた場合は受け付けられないので期日に注意すること。なお、履修を検討している選択科目はUTASログイン後のシラバス参照画面から「お気に入り登録」をすること。

##### (2) 履修科目登録

履修科目の登録は、主にUTASログイン後の【履修登録】画面で行う。履修科目登録をしなかった科目は、定期試験を受けることができず成績評価の対象にならないので、登録もれのないよう注意すること。また、何らかの理由で授業・試験等を受けなかった場合、履修登録された科目は「欠席（0点）」として評価される場合があるので、履修科目登録は、間違いないよう注意すること。必ず【履修登録】画面から「履修科目控」をプリントアウトし、出力したPDFファイルとともに保管すること。

① クラス指定の必修科目等は、【履修登録】画面にあらかじめ登録されている。

(注) 総合科目L系列は【履修登録】画面にあらかじめ登録されていないので各自で登録もしくは必要な手続をすること。（例：「○語（初級）演習①、②」「○語中級」「○語上級」）

② それ以外の科目は、履修したい科目を各自で登録すること。

③ 各教員が授業中に履修者の抽選・選抜等を行う科目（後述(4)①抽選登録の対象となる科目とは異なる）は、その結果を確認後、各自で登録を行うこと。結果を確認する前に登録作業を行っており、抽選・選抜等により履修が許可されなかつた場合は、各自で必ず取消し（削除）をすること。

④ 基礎科目-自然科学-物質科学-「力学」および「電磁気学」は、A・Bいずれかのコースを選択して履修することになる。（pp. 20,21）

【履修登録】画面において最初に登録されている科目・コースから別の科目・コースへ変更を行う場合には、最初に登録されている科目・コースを削除した上で、履修する科目・コースを選択し登録する必要がある。

⑤ 基礎科目-自然科学-数理科学-「微分積分学演習」および「線型代数学演習」は隔週で講義が行われているので、履修登録の際は「微分積分学演習」が曜限枠に、「線型代数学演習」が隔週講義等枠にあらかじめ登録されている。

### (3) 履修科目登録の確認・訂正

- ① 履修科目登録した科目は、その登録が適正である場合に限り履修科目として認められる。各自が登録した科目が正しく反映されているか、UTASログイン後の【履修登録】画面から出力できる「履修科目控」で確認すること。また、訂正については、登録期間内および確認・訂正期間内に限って認める。

確認・訂正期間中にUTASで行う手続き

- 1) 履修科目的確認
- 2) 履修科目的取消し（削除）  
(後述「(4)特別な手続きによる履修登録」により登録した科目はUTASでの削除不可)
- 3) 履修科目の追加  
(後述「(4)特別な手続きによる履修登録」が必要な科目はUTASでの追加不可)

- ② 期間を過ぎてからの取消し、訂正是認められない。**確認を怠り、登録されていない科目は、**

**定期試験の受験資格が与えられず、成績評価の対象にならない。**

- ③ 履修科目登録された科目は、何らかの理由で授業・試験等を受けられなくても、「欠席（0点）」として評価される場合があるので、**登録後に履修をやめる場合は必ず履修科目登録の確認・訂正期間に履修科目的取消し（削除）をすること。**

### (4) 特別な手続きによる履修科目登録

UTASログイン後の【履修登録】画面による登録以外に、特別な手続きが必要となる科目がある。これらの科目については、所定の期間に手続きを踏まないと登録ができないので、特に注意しなければならない。

詳細は以下のとおりであるが、対象科目や手続きの詳細等が変更となる場合もあるので、各セメスターの初めにUTASや教務課前期課程ホームページによる掲示、履修科目登録に関する注意事項を記した配付物等も必ず確認すること。

#### ① 抽選登録（UTAS）

対象科目	対象者	抽選タイプ
初年次ゼミナール文科	文科生全員	タイプ1
初年次ゼミナール理科	理科生全員	タイプ1
基礎実験（グループ分け）	理科一類生全員	タイプ1
総合科目L系列[国際コミュニケーション] 英語中級、英語上級	履修希望者	タイプ2

抽選登録の対象となる科目は上表のとおりである。これらの科目については、所定の期間中にUTASログイン後の【抽選対象科目希望登録】画面から希望する授業（またはグループ）を登録する。なお、希望順位を最大第何位まで登録できるかは科目により異なる。

いずれの抽選タイプの科目についても、特定の授業（またはグループ）に学生の希望が集中した場合に抽選が行われ、外れた学生は下位の希望順位の授業（またはグループ）に振り分けられることになる。

抽選タイプ1の科目については、希望したいずれの授業の抽選にも外れた場合は、他の授業（またはグループ）に無作為に振り分けられることになる。また、抽選登録をしなかった場合も、無作為に振り分けられる。

抽選タイプ2の科目については、希望を登録していない授業に振り分けられることはない。ただし、希望したいずれの授業にも振り分けられないことはある。なお、英語中級、上級については抽選実施後に追加募集（p. 32）を行うことがある。

## ② 要履修許可科目登録（履修認定カード電子版）

対象科目	対象者
総合科目Ⅰ系列[国際コミュニケーション] 「外国語初級（演習）①・②」（pp. 25, 26）	文科生のうち、クラス指定の曜限以外での履修希望者
PEAK科目（p. 28）	履修希望者
進学選択における要求科目（p. 90以降）のうち 理科生向け基礎科目	履修希望者
進学選択における要望科目（p. 94以降）のうち 理科生向け基礎科目	履修希望者

要履修許可科目登録の対象となる科目は上表のとおりである。これらの科目について、あらかじめ履修予定の授業担当教員から許可を得たうえで、「履修認定カード電子版」を所定の期間中に教務課に提出すること。後日、登録した科目が【履修科目登録】画面に反映されるので確認すること。

## ③ 他クラス聴講・補修登録（履修認定カード電子版）

他クラス聴講（p. 41）および補修（p. 44）を希望する場合は、あらかじめ履修予定の授業担当教員から許可を得たうえで、「履修認定カード電子版」を所定の期間中に教務課に提出すること。後日、登録した科目が【履修科目登録】画面に反映されるので確認すること。

## ④ その他、特別な手続きが必要な場合

### 1) 英語中級、上級の追加募集

英語中級、上級は抽選実施後、定員に余裕のある授業について追加募集を行うことがある。必要な手続は各セメスターにより異なるので、UTASや教務課前期課程ホームページによる掲示を別途確認すること。

### 2) 英語特別クラス（p. 13）

履修希望者は、英語部会主任の許可が必要になるので、教務課前期課程ホームページの「教務課からのお知らせ」で指定された方法により、クラス指定された「英語一列」、「英語二列」、または総合科目Ⅰ系列の科目的削除および「特別英語」の登録を単位の充当先とともに申し出ること。なお、当該セメスターに開講されていない科目には充当できない。

### 3) 身体運動・健康科学実習（メディカルケアコース）（p. 15）

履修希望者は、あらかじめ履修予定の授業担当教員から許可を得たうえで、「履修認定カード電子版」を所定の期間中に教務課に提出すること。後日、「身体運動・健康科学実習」の削除および「メディカルケアコース」の登録が【履修科目登録】画面に反映されるので確認すること。

## 履修認定カード電子版

学生が要履修許可科目、他クラス聴講、補修などによる履修を申請するためのフォームである。あらかじめ履修予定の授業担当教員から許可を得たうえで、提出すること。手続方法の詳細は前期課程ホームページで確認すること。

指定された期日に遅れた場合は受け付けられないので注意すること。また、記載内容に不備があると、履修が許可されない場合や、成績評価の対象とならない場合があるのであわせて注意すること。

なお、授業によっては、要履修許可科目、他クラス聴講、補修などによる履修学生の人数を制限しているため、原則として履修認定カード電子版による申請によって登録された履修の削除は認めない。やむを得ず削除が必要となった場合は、所定の期間中に該当の授業において担当教員に承認を得るとともに、教務課に申し出ること。

## 2. 授業受講に関する諸注意

### (1) 掲示

本学部では、授業・試験の日程や各種事務手続きの日程、時間割や教室の変更、授業の休講や補講に関する公示や、進学選択に関する諸通知等、重要事項を含む様々な情報の伝達を、原則としてUTAS及び教務課前期課程ホームページでの掲示により行っている。

また、上記の伝達事項のうち、個々の学生への連絡・呼び出し以外の主要なものは、教務課前期課程ホームページの「教務課からのお知らせ」に掲載している。

<https://www.c.u-tokyo.ac.jp/zenki/>



### (2) 授業の休講、補講、教室変更、時間割変更等

授業の休講、補講、教室変更、時間割変更等の情報については、UTASログイン後の【休講・補講・教室変更参照】および教務課前期課程ホームページ等に掲載する。休講や教室変更については、授業当日の通知となる場合があるので、UTASや教務課前期課程ホームページは毎日確認すること。なお、UTASログイン後の【休講・補講・教室変更参照】には、UTASで「履修登録」もしくは「シラバスのお気に入り登録した科目」が表示される。「シラバスのお気に入り登録した科目」は履修登録期間が終了すると表示されなくなるので留意すること。

なお、休講の掲示がないにもかかわらず授業開始時間を30分経過した後も担当教員が現れない場合は、教務課前期課程チーム（③番窓口）（p. 111）に問い合わせること。

### (3) 聴講カード

授業によっては、担当教員が主に出席を確認するために「聴講カード」を配付し、学生に提出させる場合がある。「履修認定カード電子版」（p. 32）とは異なり、教務課への提出は不要である。

### (4) 著作権侵害、違法アップロード

本学で編纂した教科書の翻訳および過去の試験問題、シラバス、授業の参考資料などの著作物（以下、「過去問等」）をWebサイトなどを用いて著作者の許可なく公開する行為は、著作権法ならびに東京大学著作物等取扱規則に定義される著作権を侵害するものであり、さらに、これらの公開は試験対策プリント（シケプリ）などの公開とともに、自ら考えて勉学する機会を損ねるものである。

このようなサイトに対しては、過去問等のアップロードなどによる協力をすることなく、法・規則を遵守して、分別ある行動をすること。

### (5) 授業中の撮影等について

学生による授業中の撮影（録音含む）は教員が認めている場合を除いて、原則禁止とする。

## IV 定期試験と成績の評価

### 1. 定期試験・レポート

定期試験には、ターム・セメスターの終わりに、授業期間とは別に試験期間を設け、試験用の時間割によって集中的に行われる場合（本試験）や、最終授業日や授業期間中に試験を繰り上げて行われる場合（繰り上げ試験）がある。

また、授業によっては、定期試験による評価に代えて授業期間中に小テスト等が行われる場合、あるいは学生が提出したレポートに基づいて成績の評価が行われる場合もある。

授業毎の成績評価方法は、UTASログイン後の【シラバス参照】、各セメスター初めに前期課程ホームページ上で公開される『科目紹介』（シラバス抜粋）に記載されるほか、授業担当教員から授業中に指示される場合もある。

なお、受験できる科目は履修登録されている科目のみであり、それ以外の科目は受験できない。

#### (1) 繰り上げ試験

次の科目は、授業担当教員の特段の指示の無い限り、原則として最終授業日や授業期間中に試験を行う。

- ・ 基礎科目 既修外国語「英語二列」並びに「日本語」
- ・ 総合科目I系列【国際コミュニケーション】「外国語初級・中級・上級」
- ・ 総合科目I系列【古典語】「古典語初級・中級」「古典日本語」「古典中国語」
- ・ 主題科目（ただし、PEAK科目を全学自由研究ゼミナールとして履修した場合には、その科目の試験実施方法に従う。）

#### (2) 本試験

- ① 繰り上げ試験以外の科目の試験は、授業担当教員の特段の指示の無い限り、原則としてターム末またはセメスター末の試験期間に、集中的に行う。
- ② 試験時間割、試験室および履修登録者の座席を指定して実施する。座席表は試験初日の約1週間前に各試験室に貼り出すのであらかじめ確認しておくこと。UTASログイン後の【定期試験】でも試験時間割と試験室を確認できる。
- ③ 試験の際の主な注意事項は次のとおりである。
  - 1) 座席表が各試験室に貼り出されているので、必ず指定された席に着席すること。試験室では座席の机の左上に座席番号（A-1、B-20等）が表示されている。
  - 2) 遅刻した場合は受験を許可されないことがある。
  - 3) 交通機関の遅延により、やむを得ず遅刻する場合は、必ず遅延証明書を入手し、試験教室で監督者に提示して指示を受けること。交通機関の遅延により、試験開始後30分以上遅刻する場合は、教務課前期課程チーム窓口に向かうこと。
  - 4) 試験開始後少なくとも30分を経過し監督教員が出欠を確認した後でなければ、退室は認めない。その後の途中退室については、監督教員等の指示に従うこと。

### (3) レポート

授業によっては、担当教員の指示により、学生が提出したレポートに基づいて成績の評価を行うことがある。レポートは学生一人一人が自己の責任において作成するものであり、教員から特別な指示がない限り、他の学生と同一の内容のものを提出してはならない。

### (4) 不正行為について

当然のことながら、試験の受験、およびレポートの提出は公正に行われるべきであり、不正行為は許されない。

不正行為を行ったと認められた者は、

- ①その科目が開講されているセメスター期間中に履修した全科目（ターム科目を含む）の得点を無効とされ、追試験を受ける資格も与えられない。
- ②上記①に加えて、2年次において不正行為を行ったと認められた者は、進学選択への参加資格および進学内定も取り消される。

なお、不正行為に協力した者（レポートの場合は不正レポートの作成に協力した者）も、不正行為を行った者として同様に取り扱われる。

以下の注意事項を守らなかった場合には、不正行為として取り扱われることがある。

- ①試験中は、本人確認のため常に学生証を提示して（机の上に置いて）受験しなければならない。

学生証を忘れた場合は、教務課で手続きをして「仮受験票」を受領したうえで試験を受けること。（これは、試験においてのみ学生証の代わりになる。）また、試験直前に学生証が無いことに気付いた場合は監督教員に申し出て、指示を受けること。

- ②試験中は、学生証、筆記用具（筆箱はかばん等にしまう）、計時機能だけの時計（通信機能があるものは不可）、袋から出したティッシュペーパー、教員から特に認められた物以外は机の上に置いてはいけない。

これ以外の物はかばん等に入れ、見えることのないよう収納したうえで、かばん等は机の中、脇の椅子または床の上に置かなければならない。

- ③試験中は、スマートフォン等は必ず電源を切って（マナーモード不可）かばん等にしまわなければならない。スマートフォン等を時計や電卓の代わりに使用することはできない。

- ④試験中は、解答用紙や計算用紙は所定の枚数を超えて取ってはならない。また、答案を提出しないで持ち出すことはできない。

- ⑤試験中は、試験監督者並びに授業担当教員の指示に従わなければならぬ。また、試験に支障を来たす行為は行ってはならない。

- ⑥他人を自己の身代わりとしての受講・受験、または、他人の身代わりとなっての受講・受験することはできない。

- ⑦レポートで他の文章やデータを引用する場合は、引用符などで引用箇所を明示し、出典を明記しなければならない。また、授業担当教員が認めている場合を除いて、他人の力を借りて（レポートの複写を含む）作成してはならない。

## 2. 成績の評価

### (1) 成績評価方法

成績の評価方法については、下表のとおり**優上・優・良・可・不可**の5等の評価による科目と**合格・不合格**のみの評価による科目がある。

優上・優・良・可・不可の評価による科目	合格・不合格のみの評価による科目
<基礎科目> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国語</li> <li>・情報</li> <li>・身体運動・健康科学実習</li> <li>・初年次ゼミナール文科</li> <li>・社会科学</li> <li>・人文科学</li> <li>・自然科学（注）</li> </ul>	<基礎科目> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初年次ゼミナール理科</li> </ul>
<展開科目> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人文科学ゼミナール</li> <li>・自然科学ゼミナール</li> <li>・文理融合ゼミナール</li> </ul>	<展開科目> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会科学ゼミナール</li> </ul>
<総合科目> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全科目</li> </ul>	—
—	<主題科目> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全科目</li> </ul>

（注）文科生が「基礎実験」を履修した場合は、合格・不合格のみの評価となる。

**優上・優・良・可・不可**の5等の評価による科目は、原評価は点数で行われるが、成績表には右表の基準により「優上」「優」「良」「可」「不可」「欠席」の評価のみが表示される。原評価の点数については、平均合格（p. 43）の認定、外国語の2Aセメスター特修クラス（p. 44）の履修資格判定、進学選択等に用いられる。なお、これらの科目の成績評価については、「原則として**優上・優**を合わせて受験者数の3割程度とする」という申し合わせがある。

**合格・不合格**のみの評価による科目については、原評価が点数で行われることではなく、成績表にも「合格」「不合格」「欠席」の評価のみが表示される。

評価	原評価	判定
優上	90-100	合格 (単位取得)
優	80-89	
良	65-79	
可	50-64	
不可	0-49	不合格
欠席	0 (欠席)	

### (2) 成績表

成績表は、UTASログイン後の【成績状況確認】から閲覧をすることができ、原則として各セメスター終了後の成績表確認期間に更新される。成績表には、各科目の成績評価等のほか、参考のため平均点（進学選択用の基本平均点（p. 56））等が記載されている。

成績表確認期間の日程については、UTASおよび『時間割表（裏表紙）』等で確認すること。平均点の算出方法等、成績表の見方の詳細についても、成績表確認期間に合わせ、教務課前期課程ホームページ等で掲示される。成績表は更新される毎に、必要に応じて控えを取っておくこと。なお、後期課程の各学部が開講する専門科目（p. 47）の成績が閲覧可能になる時期は、当該授業開講学部（の設定）によるので、前期課程の成績発表日と同一ではないことを留意すること。

### (3) 成績判定が不合格となった科目の成績評価の確認申請

成績判定が不合格となった科目（成績評価が不可・不合格・欠席の科目）で、明らかにそれが担当教員の誤りであると思われる場合のみ、UTASにて担当教員に対する成績評価の確認を申請することができる（追試験の場合は教務課前期課程ホームページで別途指示する）。

成績評価に関して、成績評価の確認申請によらず、教員に直接連絡を取ることは認められない。

成績評価の確認の申請は成績評価確認期間中のみ受け付ける。評価が「可」以上の科目は申請できない。制度の趣旨に沿わない申請は控えること。確認の結果、採点訂正により成績が下がることもあるので留意すること。

### (4) 成績の原評価（点数）の閲覧

次セメスターの履修科目登録の参考として、前セメスターまでの成績の原評価（点数）をUTASにて定められた期間内に閲覧することができる。閲覧が可能となる期間は、教務課前期課程ホームページ「教務課からのお知らせ」を参照すること。

### 3. 成績評価が「不可」または「欠席」となった場合

#### (1) 再履修

##### ① 留年・降年せずに再履修が可能な場合

基礎科目「身体運動・健康科学実習Ⅰ、Ⅱ」、「社会科学」、「人文科学」、総合科目（履修に関する制限事項が適用されない科目(p. 24)を除く）の成績評価が「不可」または「欠席」となった場合は、同一の科目が次のターム・セメスター以降に開講されていれば、履修手続き（p. 30以降）を行うことにより、再履修が可能である。

ただし、基礎科目「身体運動・健康科学実習Ⅰ、Ⅱ」については、再履修可能なセメスターに制限があるので、「Ⅱ各科目的履修方法 2. 基礎科目的履修 (3) 身体運動・健康科学実習」(p. 15)で詳細を確認すること。

##### ② 留年・降年した場合の再履修

留年・降年(p. 45)によって同一学年を繰り返す場合は、単位未取得の科目（成績評価が「不可」または「欠席」となった科目）であれば、履修手続き（p. 30以降）を行うことにより、全て再履修することが可能である。

なお、留年・降年した場合の再履修については注意すべき点があるので、「4. 留年・降年 (4) 留年・降年した場合の再履修に関する注意事項」(p. 46)も参照すること。

##### ③ 再履修した科目的成績

再履修した科目的成績は100点満点で採点され、再履修で与えられた成績が元の成績を上回る場合は成績が上書きされ、下回る場合は元の成績が残る。

##### ④ 修得済科目的履修制限が適用されない科目の扱い

展開科目、一部の総合科目、主題科目（PEAKの科目を全学自由研究ゼミナールとして履修する場合を除く。）については、修得済科目的履修制限(p. 11)が適用されないので、同一の科目を何度も履修しても再履修という扱いにはならない。成績は履修した科目毎に付けられ、以前に履修した科目的成績が上書きされることはない。

#### (2) 追試験

一部の基礎科目については、定期試験を欠席した者または成績が「不可」だった者は、願い出により追試験を受けることができる場合がある。**ただし、レポート・平常点等で採点する授業においては追試験を行わない場合もある。**展開科目、総合科目、主題科目（PEAKの科目を全学自由研究ゼミナールとして履修する場合を除く。）については、追試験は実施しない。

基礎科目・科目名	追試験実施の有無	受験資格(タイプ)	申請手続き	審査の有無	成績(点数)上限
外国語	有	A	教務課	有	75点
		B	教務課	有	50点
情報	有	A	教務課	有	75点(注)
		C	UTAS	無	50点
身体運動・健康科学実習	無	—	—	—	—
初年次ゼミナール	無	—	—	—	—
社会科学	無	—	—	—	—
人文科学	無	—	—	—	—

基礎実験		無	一	一	一	一
自然 科学	数理科学基礎	有	A	教務課	有	75点(注)
	微分積分学①	有	A	教務課	有	75点(注)
	微分積分学②		C	UTAS	無	50点
	線型代数学①	有	A	教務課	有	75点(注)
	線型代数学②		C	UTAS	無	50点
	数理科学基礎演習	※	—	—	—	—
	数学基礎理論演習	※	—	—	—	—
	微分積分学演習	※	—	—	—	—
	線型代数学演習	※	—	—	—	—
	力学	有	A	教務課	有	75点(注)
物質 科学	電磁気学	有	A	教務課	有	75点(注)
	熱力学	有	A	教務課	有	75点(注)
	化学熱力学	有	A	教務課	有	75点(注)
	構造化学	有	A	教務課	有	75点(注)
	物性化学	有	A	教務課	有	75点
			C	UTAS	無	50点
生命 科学	生命科学	有	A	教務課	有	75点
	生命科学Ⅰ		C	UTAS	無	50点
	生命科学Ⅱ	有	A	教務課	有	75点(注)

(注) ただし、他クラス聴講生は50点を上限とする。

(受験資格A) 病気・事故など不測の事態により定期試験を欠席したと認められた者。

(受験資格B) 受験資格A以外の特別な事由（事前届出）により定期試験を欠席したと認められた者。

(受験資格C) 定期試験を欠席した者または成績が「不可」だった者。

\* 対応する数理科学講義科目（「数理科学基礎」、「微分積分学①、②」、「線型代数学①、②」）の受験資格Aによる追試験の成績が75点を上限として反映される。（演習科目のみを他クラス聴講している場合および過年度に演習科目のみ単位取得している場合を除く）

具体的な申請の方法・時期および追試験実施の日程は、教務課前期課程ホームページで確認すること。

## ① 追試験の申請および許可

### 1) 受験資格A

基礎科目「外国語（既修、初修）」、「情報」、「数理科学（数理科学基礎、微分積分学、線型代数学）」、「物質科学」、「生命科学」の各科目の定期試験を病気、事故など不測の事態により欠席した者で、追試験の受験を希望する者は、定期試験後の定められた期間に、「欠席追試験受験願」を教務課前期課程に提出、出願すること。なお、交通機関の遅延を理由として追試験の受験を希望する場合は、欠席した試験の実施日から2日（土日祝除く）以内に出願する必要があるので、注意すること。

出願の際は、病院の診断書、交通機関の事故証明書、遅延証明書等の公式文書を必ず「欠席追試験受験願」に添付すること。

これらの書類を提出した学生について、欠席の理由および履修状況を審査の上、受験許可者を前期課程ホームページで発表する。

2) 受験資格B

基礎科目「外国语（既修、初修）」の定期試験を特別な事由により欠席する予定のある者で、追試験の受験を希望する者は、定期試験前の定められた期日までに、「欠席追試験受験願」を教務課前期課程に提出、出願すること。その際、証明書類等を必ず添付すること。

これらの書類を提出した学生について、欠席の理由および履修状況を審査の上、受験許可者を前期課程ホームページで発表する。

3) 受験資格C

基礎科目「情報」、「数理科学（微分積分学、線型代数学）」、「物質科学（物性化学）」、「生命科学（生命科学）」の定期試験を欠席した者または成績が「不可」だった者で、追試験の受験を希望する者は、定められた期間にUTASログイン後の【追試験受験願】画面から、追試験の出願をすること。

4) 注意事項

- イ) 他クラス聴講生（p. 41）及び文科生で要求科目として履修している場合もクラス指定の学生に準じて扱う。
- ロ) 1年次終了時の留年（p. 45）をした場合は、その直後の追試験は受験できない。
- ハ) 2年次終了時の留年および降年（p. 45）をした場合は、その直後の追試験を受けることができる。
- ニ) 原則として、S1ターム開講科目の追試験は、S2ターム期間中に行い、S2ターム・Sセメスター開講科目の追試験は、次のA1ターム（Aセメスター）開始前後に行う。A1ターム・A2ターム・Aセメスター開講科目の追試験は、次のS1ターム（Sセメスター）開始後に行う。ただし、「微分積分学②」「線型代数学②」の受験資格Aに該当する2年生及び「電磁気学」「構造化学」「生命科学Ⅱ」の追試験は、当該科目的開講された年度内に行う。
- ホ) 追試験の出願期間、追試験を行う日時・教室は教務課前期課程ホームページで発表する。
- ヘ) 外国語は2Aセメスター開講科目的追試験は行わない。2Aセメスターに他クラス聴講をした外国語科目も同様である。

② 追試験の成績

追試験の成績は100点満点で採点されるが、以下のとおり点数の上限が定められており、上限以上の点数は切り捨てられる。

1) 受験資格A

75点を上限とする。ただし、「情報」、「数理科学」、「物質科学」、「生命科学」の他クラス聴講生（p. 41）は50点を上限とする。

2) 受験資格Bおよび受験資格C

50点を上限とする。

3) 注意事項

- イ) 追試験の成績が定期試験の成績を下回る場合は、定期試験の成績をもってそのターム・セメスターの成績とする。
- ロ) 2S1ターム・2S2ターム・2Sセメスターに履修した科目的追試験のうち、「数理科学基礎」、「物性化学」、「生命科学」（理科一類生対象）の成績は進学選択の平均点に算入されるが、その他の科目的成績は算入されない。

### (3) 他クラス聴講

「他クラス聴講」とは、2年生が前期課程修了に必要なクラス指定の必修科目(1年次)の不足単位を補充する場合や、その他特殊な事情がある場合に、学生がクラス指定された授業以外の授業を受講することである。**例外的な措置であり、一部の基礎科目でのみ許可される。** クラス指定された授業を正規に受講した場合は成績評価方法が異なるものがあるので十分に注意すること。展開科目、総合科目、主題科目については、他クラス聴講は認められない

#### ① 他クラス聴講の種類

- 1) 2年生が前期課程修了に必要なクラス指定の必修科目(1年次)の不足単位を補充する場合

基礎科目・科目名			不足単位補充のための他クラス聴講			成績(点数)上限		
			他クラス聴講の可否	成績評価が「不可」または「欠席」のターム・セメスター	他クラス聴講可能ターム・セメスター			
外国語	既修外国語	英語	一列	可	1 S1/ 1 S2、 1 A1/ 1 A2	2 S1/ 2 S2、 2 A1/ 2 A2 (注1)	75点	
				可	1 S1/ 1 S2/ 1 A1/ 1 A2	2 S1/ 2 S2、 2 A1/ 2 A2 (注2)	75点	
			二列	S	1 S / 1 A	2 S、 2 A (注3)	75点	
	日本語		一列	可	1 S	2 S	75点	
			二列	可	1 S1/ 1 S2	2 S1/ 2 S2	75点	
	英語・日本語以外		可	1 S	2 S	75点		
	初修外国語		可	1 S	2 S	75点		
	情報		可	1 S	2 S	50点		
	身体運動・健康科学実習		不可	—	—	—		
	初年次ゼミナール文科		可	1 S	2 S	75点		
自然科学	初年次ゼミナール理科		可	1 S	2 S	合格		
	社会科学		不可	—	—	—		
	人文科学		不可	—	—	—		
	基礎実験		不可	—	—	—		
	数理科学(注4)		可	1 S1/ 1 S2 / 1 A	2 S1/ 2 S2 / 2 A (注5)	50点		
	物質科学	力学	可	1 S	2 S	50点		
		電磁気学	可	1 A	2 A	50点		
		熱力学	可	1 S	2 S	50点		
		化学熱力学	可	1 S	2 S	50点		
		構造化学	可	1 A	2 A	50点		
		物性化学	不可	—	—	—		
生命科学	生命科学		不可	—	—	—		
	生命科学I		可	1 S	2 S	50点		
	生命科学II		可	1 A	2 A	50点		

(注1) 1 S1、 1 S2タームの科目は2 S1、 2 S2タームのどちらか一方のみに、 1 A1、 1 A2タームの科目は2 A1、 2 A2タームのどちらか一方のみに他クラス聴講が認められる。

(注2) 2 S1、 2 S2タームのどちらか一方、 および2 A1、 2 A2タームのどちらか一方の、一年間に2回まで他クラス聴講が認められる。

(注3) 2 Sセメスターおよび2 Aセメスターで、一年間に2回まで他クラス聴講が認められる。

(注4) 数理科学の他クラス聴講を行う場合には、自分が所属する科類を対象とする授業を申請すること（pp. 19,20）。また、講義と対応する演習がある科目について、両方の他クラス聴講を行う場合には、同じクラスを対象とした講義・演習を履修すること。（ただし、後期課程の専門科目の必修科目と重複している等、時間割上の都合がある場合を除く）

(注5) 1 S1タームの科目は2 S1タームのみ、1 S2タームの科目は2 S2タームのみ、1 Aセメスターの科目は2 Aセメスターのみに他クラス聴講が認められる。

前頁の表において、『他クラス聴講の可否』欄が「可」となっている科目であっても、『成績評価が「不可」または「欠席」のターム・セメスター』欄に表示がないターム・セメスター分の他クラス聴講は認められないので、十分に注意すること。

- 2) 基礎科目の外国語を通常（既修英語・初修各外国語）以外の組み合わせで履修している者が、クラス指定された外国語（基礎科目）の授業以外の授業を受講する場合。
- 3) その他特殊な事情で他クラス聴講が必要と認められる場合。  
2 S1タームに開講される基礎科目を履修する際に、時間割の重複等、不可避の理由からクラス指定された授業以外の授業を受講する場合など。詳細は事前に教務課で確認すること。

## ② 他クラス聴講の申請および許可

### 1) 初年次ゼミナール

初年次ゼミナールの他クラス聴講の申請方法等については、毎年度の2 Sセメスター開始時に、教務課前期課程ホームページで別途指示する。

### 2) 初年次ゼミナール以外の基礎科目

他クラス聴講しようとする者は、あらかじめ履修予定の授業担当教員から許可を得たうえで、「履修認定カード電子版」を所定の期間中に教務課に提出すること。

履修人數等の都合により、希望どおりの授業で担当教員の許可をもらえるとは限らないので、できる限り早めの申請を心がけること。

## ③ 他クラス聴講の成績

他クラス聴講の成績は、合格・不合格のみの評価となる「初年次ゼミナール理科」を除き、100点満点で採点されるが、以下のとおり点数の上限が定められており、上限以上の点数は切り捨てる。

### 1) 不足単位補充の場合<①の1)>

「外国語」、「初年次ゼミナール文科」は75点を上限、「情報」、「数理科学」、「物質科学」、「生命科学」は50点を上限とする。

### 2) 不足単位補充以外の場合<①の2)および3)>

上限は設けず、100点満点で採点する。

### 3) 注意事項

他クラス聴講で与えられた成績が元の成績を下回る場合は元の成績が残る。

#### (4) 平均合格

対象科目の全単位の成績が以下の条件を全て満たせば合格（平均合格）となり、当該科目の全単位の取得が認められる。なお、セメスター毎の条件は1年次に履修したセメスターで判断する（※）。1年次に履修したセメスター・タームと異なるセメスター・タームで他クラス聴講をして取得した単位である場合は留意すること。

（※）例：1 A2タームに「英語二列S」の成績が「不可」となり、2 S1タームに他クラス聴講し「可」となった場合→平均合格の条件において、当該科目は“1 Aセメスター（1 A1ターム・1 A2ターム）の成績”として判断する。

対象科目	単位数	平均合格の条件 (注)再履修、他クラス聴講で与えられた成績も対象となる。
既修外国語（英語・日本語）	5	下記①②を両方満たせば平均合格となる。 ① 1 Sセメスター（1 S1ターム・1 S2ターム）～1 Aセメスター（1 A1ターム・1 A2ターム）の成績の平均が50点以上（単位数を加味した加重平均（*1）による。） ② 1 Aセメスター（1 A1ターム・1 A2ターム）の成績の平均が50点以上（単位数を加味した加重平均（*2）による。）
既修外国語（英語以外） 初修外国語※ ※既修日本語を初修外国語相当で履修している場合も含む。	6	下記①～③をすべて満たせば平均合格となる。 ① 「1 Sセメスターの成績の平均」が40点以上 ② 「1 Aセメスターの成績」が40点以上 ③ 「1 Sセメスター～1 Aセメスターの成績の平均」が50点以上
身体運動・健康科学実習	2	2つの実習の成績の平均が50点以上

（注）以下のような成績の場合の単位数を加味した加重平均の計算例

科目	開講期間	単位	成績
英語一列①	2024.04～2024.05(1S1)	1 単位	50点
英語一列②	2024.10～2024.11(1A1)	1 単位	57点
英語二列S	2024.06～2024.07(1S2)	1 単位	60点
英語二列W	2024.10～2025.01(1A)	2 単位	48点

\* 1における計算方法

【計算式】

$$\frac{(50 \text{点} \times 1 \text{単位}) + (57 \text{点} \times 1 \text{単位}) + (60 \text{点} \times 1 \text{単位}) + (48 \text{点} \times 2 \text{単位})}{1 \text{単位} + 1 \text{単位} + 1 \text{単位} + 2 \text{単位}} = 52.6 \text{点}$$

\* 2における計算方法

【計算式】

$$\frac{(57 \text{点} \times 1 \text{単位}) + (48 \text{点} \times 2 \text{単位})}{1 \text{単位} + 2 \text{単位}} = 51 \text{点}$$

## (5) 補修

対象科目	対象者
基礎実験 「基礎実験Ⅰ」 「基礎実験Ⅱ」 (理科一類生) 「基礎物理学実験」 「基礎化学実験」 (理科二類・三類生)	左記実験の成績評価が「不可」 または「欠席」だった者
数理科学 「数理科学基礎」 (理科一類・二類・三類生)	左記講義の成績評価が「不可」 または「欠席」だった者

### ① 基礎実験の補修

「基礎実験Ⅰ」、「基礎実験Ⅱ」、「基礎物理学実験」、「基礎化学実験」の成績評価が「不可」または「欠席」だった者は2Sセメスター中に基礎実験委員会の許可を得た後に教務課で所定の手続を行うことにより、2Aセメスターに補修することができる。ただし、一つのタームに二つの実験を同時に補修することは認めない。

補修に合格すれば、当該実験の合格が認められる。

**「基礎実験Ⅲ」および「基礎生命科学実験」は、2S1タームにのみ開講されているため、2Aセメスターの補修はできない。したがって、2S1タームに合格しないと降年になるので注意すること。**

補修を希望する者は、担当教員に補修を願い出て、許可を得た上で出席簿に名前を追加してもらうこと。また、定められた期間中に「履修認定カード電子版」を教務課に提出すること。

### ② 数理科学の補修

「数理科学基礎」の成績評価が「不可」または「欠席」だった者は、1Aセメスターに補修することができる。また、2Sセメスター終了時に「数理科学基礎」の単位を未取得の者は、さらに2Aセメスターに補修することができる。補修は週1コマのセメスター制授業として開講される。

補修に合格すれば、「数理科学基礎」の合格が認められる。

**「微分積分学①」「微分積分学②」「線型代数学①」「線型代数学②」「数理科学基礎演習」「数学基礎理論演習」「微分積分学演習」「線型代数学演習」の補修はできない。**

補修を希望する者は、1Aセメスターに2コマ開講されている「数理科学基礎」のうち一つを選択し、定められた期間中にUTASログイン後の【履修登録】画面にて通常の履修科目登録（p. 30）を行うこと。

### ③ 補修の成績

補修に合格した科目には、50点が与えられる。不合格となった場合は元の成績が残る。

## (6) 2Aセメスター特修クラス

対象科目	対象者
既修外国語 (英語以外)	2Sセメスター(2S2ターム)終了時点で対象科目が平均合格していないが、平均点が40点に達している進学内定者
初修外国語	

基礎科目外国語（既修外国語（英語）を除く）については、2Sセメスター(2S2ターム)終了時点で平均合格していない進学内定者は、2Aセメスターに特修クラスを履修して試験に合格しなければ進学できない。

特修クラスの履修者は、2Aセメスター末に試験を受けて合格すれば当該外国語の平均合格が認定される。なお、特修クラスの合格者が、何らかの要因により進学内定が取り消された場合でも、当該外国語の平均合格は取り消されない。

2Aセメスター特修クラス対象者については、2Aセメスター開始時までにUTASログイン後の【履修科目登録】画面に自動的に表示されるので、確認すること。

## 4. 留年・降年

留年・降年をした場合、前期課程には3年間以上在籍することとなる（休学期間を除く在学年数は4年を超えることはできない（p. 5））。

### （1）留年

留年とは、同一学年を4月から繰り返すことであり、1年次終了時の留年と2年次終了時の留年がある。

#### ① 1年次終了時の留年

- 1) 1年次の1年間を通じて在学していた者は、単位取得の有無にかかわらず2年次に進級するが、当該年度中に一度でも休学した者は、自動的に留年となる。ただし、以前に留年や降年（下記(2)参照）をした者は、当該年度中の休学の有無にかかわらず、過年度の実績も含め、1年次のSセメスター・Aセメスターにおいて、それぞれ一度でもセメスターを通じて在学したことがあれば、自動的に留年となることはない。
- 2) 1A2ターム・1Aセメスターを終了した時点で、本人の学修計画上の理由により留年を希望する者は、3月の定められた期間に「自主留年届」を提出することにより、留年することができる。ただし提出期限後の留年は一切認められない。「自主留年届」の具体的な提出期間については、教務課前期課程ホームページ等で確認すること。

#### ② 2年次終了時の留年

- 1) 留年等で修業年限の2年間を満たしているものを除き（ただし1・2年次の各セメスターにそれぞれ1度でも在学していること）、2A1ターム・2Aセメスター以降に休学した者は、自動的に留年となる。
- 2) 前期課程修了要件（p. 9）を満たさなければ、自動的に留年となる。2A1ターム・2Aセメスター以降に他クラス聽講（p. 41）・補修（p. 44）・2Aセメスター特修クラス（p. 44）等で単位取得することができない必修科目（Sセメスターでのみ開講の必修科目）において、2Sセメスター中、もしくは2A1ターム・2Aセメスター開始後に行われる2S1ターム・2S2ターム・2Sセメスターの追試験でも単位取得できなかった場合は、その時点で留年が確定する。
- 3) 進学内定した2年生が本人の意思により進学内定を辞退する場合は、1月上旬の定められた期間に「進学内定辞退届」を提出することにより、留年することができる。ただし、提出期限後の進学内定辞退は一切認められない。「進学内定辞退届」の具体的な提出期間については、2年次の4月中旬頃に配付される『進学選択の手引き』等で確認すること。

上記1)、2)、3)いずれの場合も、後期課程の学部学科への進学内定は取り消され、あらためて次年度の進学選択を行うことになる。

### （2）降年

2A1ターム・2Aセメスター開始前の時点で、①進学選択が可能となる条件を満たさなかつた者（当該年度の4～8月の期間中に休学した者を含む）（p. 8）、②進学先が内定しなかつた者、③進学先の内定が取り消された者、④進学を志望しなかつた者は、2A1ターム・2Aセメスターには進まず、1A1ターム・1Aセメスターに戻って学修しなければならない。これを、便宜的に「降年」と呼んでいる。**進学先が内定した場合は、上記③の場合を除き、降年は認められない。**

### （3）留年・降年した場合の所属クラス変更

留年・降年した場合、新たに別のクラス（p. 12）に編入されることになるが、この際、所属クラスの番号が以前と変わることがある。また、留年・降年した場合、学生証の交換が必要になる。所属クラスの変更および学生証の交換期間については、教務課前期課程ホームページによる掲示で確認すること。

#### (4) 留年・降年した場合の再履修に関する注意事項

- ① 再履修する科目については、留年・降年によって新たに編入された学年の、指定された科類・クラスの授業を受講しなければならない。ただし、留年・降年して英語二列を再履修（p. 38）する場合はこの限りではないので、詳細は教務課で確認すること。
- ② 外国語の再履修に際しては列番号に注意し、必ず再履修すべき列番号のものを履修すること。
- ③ 基礎実験の再履修に際しては、留年・降年者の名前は出席簿に記載されていないが、所属すべき班はあらかじめ決まっている。出席簿への名前の追加はタームの第1週目にしか行わないので、留年・降年した者で基礎実験の履修を希望する者は、担当教員に申し出て、出席簿に名前を追加してもらうこと。
- ④ 留年・降年した場合、留年・降年以前に履修していた展開・総合・主題科目のうち、欠席の科目については、進学選択の平均点計算の際に算入しない（p. 57）。

## V 前期課程在籍中に開講される後期課程各学部の専門科目

進学選択（p. 50）により進学先が内定した後、2年次の10月以降（2A1ターム・2Aセメスター以降）は進学先の各学部が開講する専門科目を主に履修することとなる。

各学部の専門科目については、2A1ターム・2Aセメスターの初めに、各学部からそれぞれの進学内定者に対するガイダンス等で説明がなされるほか、『時間割表』にも、当該セメスター中に開講される専門科目一覧表が学部毎に掲載される。また、履修登録については、前期課程科目と同様の履修登録期間にUTASで行う。

各学部の専門科目を当該学部以外に進学する学生が履修した場合は、進学する各学部の規程にしたがって、選択科目・随意科目・他学部科目等の単位として、進学後に各学部で成績が処理され認定される。成績は後期課程の成績として取り扱われるため、前期課程の修了要件単位や進学選択に用いる点数には算入されない。成績等は各学部において通知されるので掲示等に注意すること。

前期課程在籍中に開講される専門科目の単位を取得していなくても、後期課程各学部に進学することはできるが、内定した学部・学科等が定める必修科目等の場合には、進学後に駒場Iキャンパスにおいて履修しなければならない場合がある。

なお、進学内定者は各学部の専門科目に加えてグローバル教育センターが開講するグローバル教養科目を履修することができる。履修登録および成績の取り扱いは専門科目に準じる。

### 2Sセメスターから開講される専門科目

以下の表に掲げる専門科目については、進学選択が行われる前の2Sセメスターから開講される。進学先が内定する前から履修することとなるので、該当する学部を志望する学生および教育職員免許状の取得（p. 48）を考えている学生は、十分留意して履修計画を立てること。

学部名	科目名	開講ターム ・セメスター	開講形態	単位 数	備考
法学部	法社会学	2S	セメスター制・週2コマ	4	「憲法」及び「民法第1部」は各類の必修。 「刑法第1部」は第1類・第2類の必修。 履修登録単位数の上限（34単位）を設ける。 ※
	憲法	2S・2A	通年制・ 2S週1コマ、 2A週2コマ	6	
	民法第1部	2S・2A	通年制・週1コマ	4	
	刑法第1部	2S・2A	通年制・週1コマ	4	
文学部	(2Sセメスターに、毎年20科目程度開講する。)				
教育学部	『教養学部便覧I（前期課程）』の「◆教育職員免許状の取得について」の頁にある表3「『教育の基礎的理解に関する科目』『道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目』『教育実践に関する科目』」（平成30年度以前入学者は「教職に関する科目」）および表4-1「各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）」において、「前期課程学生履修」欄に履修可の旨が記載されている科目				

※2021年度から「法曹コース」（本学での正式名称は「法科大学院進学プログラム」）。履修規程については2024年度法学部便覧参照）の運用が開始した。説明会や掲示を通じて情報提供を行っているので、履修計画を立てる際に留意すること。「法科大学院進学プログラム」については下記URLを参照。

<URL> <https://www.j.u-tokyo.ac.jp/undergraduate/students/lsshingaku/>

## VI 教職科目

### 教育職員免許状の取得について

東京大学では、毎年様々な学部の学生が教育職員免許状（以下「免許状」という。）を取得している。在学中や卒業後に教員採用試験を受け、中学校・高等学校、中等教育学校で教員となり、日本の中等教育のリーダーとなっている者も少なくない。また、大学院進学後に、非常勤講師として勤務する者や、大学院修了後に専門を生かして教壇に立つ者もいる。

免許状の取得についての詳しい事柄は『教養学部便覧I（前期課程）』の「◆教育職員免許状の取得について」の頁に掲載されているので、免許状取得を考えている学生は、熟読すること。また年度によって手続き等が異なる場合があるので、必ず年度毎に更新される『教養学部便覧I（前期課程）』（教務課前期課程窓口にて閲覧可）を参照すること。なお、免許状を取得するにあたっては、必要な科目的履修のみならず、教育実習等の申込手続きなど、独自の手続きを要することがある。これらの手続きについては、学部便覧や掲示等において周知されるので、遗漏なく行い、かつ手続きの期限を厳守すること。これらの手続きに不備があると、免許状を取得できない場合があるので、留意すること。

また、免許状の取得を希望する者は、本学に入学した時点から教職課程を履修計画の中に組み入れておくことが必要となる。近年は、教員採用において中学、高校両方の免許状取得を求められることが増えてきているので、出来る限り中学高校両方の免許状を取得しておくことが望ましい。

以下に、教育職員免許状を取得するにあたって、教養学部前期課程においてなすべき事柄を記載する。

いずれの項目についても、具体的な対象科目については、『教養学部便覧I（前期課程）』の「◆教育職員免許状の取得について」の頁を参照すること。年度によって開講学期・曜限等が異なる場合があるので、必ず年度毎に更新される『教養学部便覧I（前期課程）』（教務課前期課程窓口にて閲覧可）を参照すること。

#### 1. 1、2年次に、「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」を修得する

本学の場合、これらの科目として教養学部前期課程の開講科目が多く含まれている。そのため、可能な限り教養学部前期課程在籍中にこれらの科目を修得することが望ましい（進学後は前期課程の科目を履修することはできない）。

#### 2. 1、2年次に「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」等を修得する

「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」等（平成30年度以前入学者は「教職に関する科目」等）の教職課程の必要単位は、教養学部前期課程1年次より履修することが可能である（前期課程在籍中に履修する場合、教育学部の専門科目を履修することになる。）。これらの科目の中には、教育実習の履修要件となっている科目もあるため、前期課程在籍中から計画的に修得しておくことが望ましい。

#### 3. 2年次に「介護等体験」、3年次に「教育実習」の申込みを行う

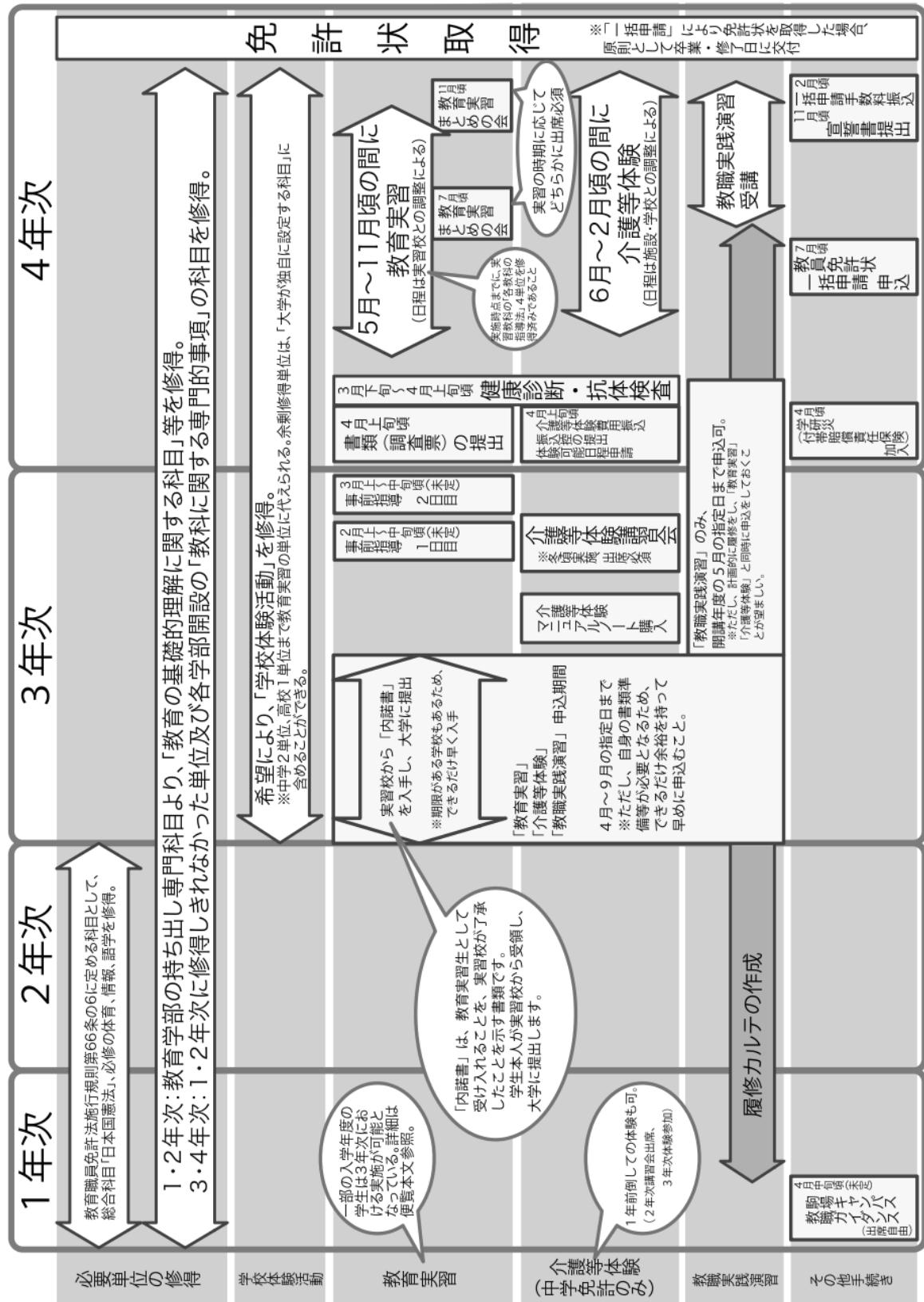
「介護等体験」「教育実習」は前年度の申込み（9月上旬申込み締切）が必須となっている。「介護等体験」は3年次以上、「教育実習」は4年次以上が参加可能である。

「介護等体験」とは、特別支援学校及び社会福祉施設その他の施設における障害者、高齢者等に対する介護、介助、これらの者との交流体験を指し、中学校的教員免許状取得に必須となっている。申込みと併せて「介護等体験講習会」（申込み年度の冬頃）への参加が必須となっている。3年次以降の体験参加が可能であり、3年次に体験を行うには、2年次での申込みと講習会への参加が必要となる。

#### 4. 4年次に履修する「教職実践演習」に備え、「履修カルテ」を作成しておく

「履修カルテ」とは、それぞれの学生が教職関係科目を履修し始めた時点から作成を始め、自身の学習内容、理解度等を把握するためのものである。学部4年次以降に履修する「教職実践演習」においては受講開始前にこの履修カルテの提出が必要となる。履修カルテについては教育学部学生支援チームホームページ教職課程関係掲示板（<https://www.p.u-tokyo.ac.jp/students/teacher>）に記載があるので参考すること。

## 一種免許状取得までの一般的な流れ



## VII 進学選択 [参考]

### 「進学選択」方式の趣旨

東京大学では、初年次ゼミナールを核とする初年次教育のいっそうの充実化に取り組み、外国語科目、展開科目などにおいても、さまざまな習熟度別の授業を積極的に開設するなど、前期課程学生が能動的かつ主体的に学べる環境を整えています。そのような学修環境においては、進学先の決定にあたって、前期課程の学生も、後期課程の学部・学科等も、一定の能動性と主体性をもって互いに相手を「選択する」という方式が適合的であると考えられます。

その結果、東京大学では「進学選択」という方式を採用し、平成28年度入学生から本格的に適用しています。この方式の下で、後期課程の学部・学科等は、第一段階から特定の科目に重率をかけるなどして、当該学部・学科等の独自の教育特性を打ち出しています。また、第二段階では、志望理由書や面接による総合的な評価を行う学部・学科等もあり、進学先を志望順に登録する学生と、独自の評価尺度に基づいて学生を順位付けする学部・学科等との間で双方向的なマッチングを図るという「選択」方式が導入されています。この第二段階では、学生は、進学単位について学部・学科等の垣根を意識することなく自らの志望に応じた登録ができるという意味で、学生にとっての選択の自由は格段に大きくなっています。こうした取り組みにより、「進学選択」では、学生一人ひとりの能力や適性をきめ細かく評価するようにしています。学生のみなさんも、前期課程での学修の成果を踏まえつつ、成績評価の高低のみに拘泥するのではなく、みずからが真に関心のある学問分野は何かを真剣に考え、それにもとづいて後期課程の学部・学科等を志望してください。

学生のみなさんが、以上のような「進学選択」方式の趣旨を理解した上で、学びにおける能動性と主体性を十分に発揮することを願っています。

## 1. 進学選択とは

東京大学では、入学した学生は教養学部の6科類のいずれかに所属して前期課程教育を受けるが、入学した時点では後期課程のいずれの学部・学科等に進学するかは、学校推薦型選抜入学者、外国人留学生の一部を除いて決まっていない。

2S2ターム・2Sセメスター終了時点（成績が確定した時点）で、学生の志望と、それまでの学生の学修成績等によって、学部・学科等の進学単位毎に定められた人数になるよう学生の進学先を内定させる手続きを、「進学選択」と呼んでいる。

進学選択は、次に示すような、前期課程の科類から主として進学できる後期課程の学部を前提として、特定の科類からの進学枠を指定した「指定科類」枠と、科類を指定しない「全科類」枠の二つの枠によって行われる。

### 前期課程の科類から主として進学できる後期課程の学部

法学部	文科一類
経済学部	文科二類
文学部	文科三類
教育学部	文科三類
教養学部	文科一類・文科二類・文科三類・理科一類・理科二類
理学部	理科一類・理科二類
工学部	理科一類・理科二類
農学部	理科二類・理科一類
薬学部	理科二類・理科一類
医学部（医学科）	理科三類
（健康総合科学科）	理科二類・理科一類

前期課程の科類から主として進学できる後期課程の各進学単位は「指定科類」枠になる。また、主として進学できる進学単位でなくとも、ある進学単位が特定の科類から一定人数を受け入れる場合は、その人数の多少にかかわらず「指定科類」枠となる。これに対して「全科類」枠は、すべての科類に開かれた進学枠である。なお、進学単位が要求科目を指定している場合は、その修得が必要である。

進学選択は「第一段階」「第二段階」「第三段階」の三段階に分けて行い、いずれも学生の志望と成績等によって行われる。ただし、進学単位によっては第三段階を行わない場合がある。第一段階で進学内定した学生は、いかなる理由があっても第二段階、第三段階の対象となることはできない。同様に、第二段階で進学内定した学生は、いかなる理由があっても第三段階の対象となることはできない。

成績等の評価は「基本平均点（p. 56）」で行うことを標準とするが、進学単位により、進学単位が指定する科目の成績に重率をかける場合、指定された科目を修得したことに対して履修点を加点する場合、または「基本平均点」以外の評価尺度により行う場合がある。

多くの進学単位では、そこでの専門教育の基礎としての必要度が高く、専門科目の授業の前提となる前期課程の科目を「要求科目」、「要望科目」として指定している。

別表6 「学部・学科別要求科目一覧」 (p. 90)

別表7 「学部・学科別要望科目一覧」 (p. 94)

要求科目は当該進学単位を志望するために、2S2ターム・2セメスター終了時までに修得（単位取得）しておかなければならぬ科目である。

要望科目は当該進学単位が要望するものであるが、要求科目とは異なり、進学のための必須条件ではない。

学生はガイダンスや進学情報センターの提供する様々な情報などによって各進学単位の内容を詳しく知るとともに、自分自身の志望や適性、履修・修得した科目と単位、成績などを十分考慮した上で、自分の進学したい進学単位を選んで志望を登録することになる。

## 2. 進学選択の手続きと方法

各年度の進学選択の手続きと方法及び日程は、2年次の4月中旬頃に配付される『進学選択の手引き』において発表される。

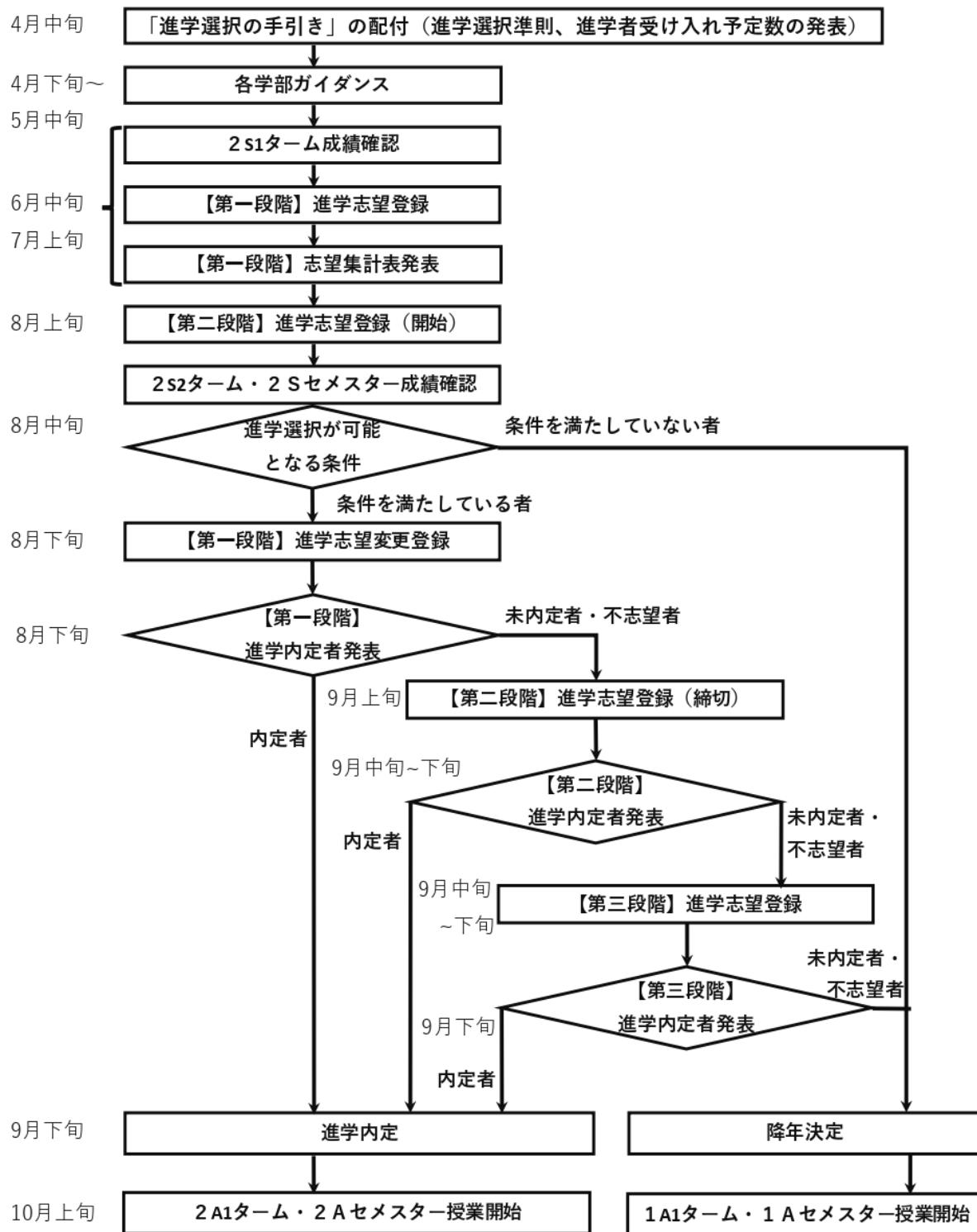
次頁の内容は、2024年度入学者に対して2025年6月から手続きが開始される「2026年度進学選択」に関し、現時点で予定されている日程と手順の概要であるが、これらは変更となる場合があるので、2025年4月中旬頃に配付される『2026年度進学選択の手引き』を必ず確認すること。

### （参考）進学指導担当教員制度

後期課程の各学部において、「進学指導担当教員」を設けています。進学先の様々な疑問（カリキュラム、進路等）に関する相談ができますが進学選択の制度や点数に関する相談等に利用することは認められていません。

詳細は例年5月頃にUTASの掲示板に掲載されます。

## (1) 進学選択の日程と手順の概要（予定）



## (2) 進学選択手続き

2026年度進学選択の詳細は2025年4月中旬頃に配付される『2026年度進学選択の手引き』により発表されるので、2026年度の進学を志望する学生（留年生含む）は、それによって手続き等を進めること。

以下に学生の取るべき手続きと、進学選択の概略を項目別に説明する。

### ① 進学選択手続きの日程

進学選択手続きの日程についてはその年度のUTASや教務課前期課程ホームページによる掲示および『時間割表（裏表紙）』等で確認すること。

ただし、変更になる場合もあるので掲示等には十分注意すること。

### ② 進学志望・不志望の登録

2年生は、第一段階から第三段階までのそれぞれについて、定められた期日にUTASで進学志望・不志望登録（以下「志望登録」という）をしなければならない。

「志望登録」にあたっては、特に次の点に注意する必要がある。

- 1) 2年生は必ず「志望登録」をすること。何らかの理由により、その年度に進学を志望しない学生は、「不志望登録」をすること。
- 2) 前年度に進学学部が内定しその後の留年・休学によって内定が取り消された者も、あらためてその年度の「志望登録」をしなければならない。
- 3) 進学志望登録は、段階毎に行う。

第一段階では、第1志望のみ単願で登録することができる。

第二段階では、志望する全ての進学単位を単願または志望順に複願で登録することができる。

第三段階では、第1志望から第3志望それぞれで単願、または志望学部内で複数の進学単位がある場合は複願で登録することができる。第三段階の第1志望から第3志望までの登録は一度にまとめて行う。

### ③ 進学志望変更の登録

第一段階では、「志望登録」を集計し、第一段階の各進学単位別の志望者数等を発表する。成績や発表された志望者数等から、途中で進学志望先の変更を希望する学生は、「進学志望変更」を定められた期日に登録する必要がある。

第二段階及び第三段階では、志望集計表の公表は行わず、進学志望変更はできない。

**いずれも登録期間を過ぎたものは受け付けないので日程や締切時刻等には十分注意すること。**

### (3) 進学選択の対象となる条件

- ① 進学選択の対象となる条件については、p. 8を参照すること。
- ② 志望する学生が、当該進学単位の要求科目を2S2ターム・2Sセメスター終了時点で修得していない場合は、当該進学単位を志望することはできない。
- ③ 上記の条件を満たしていても、前期課程修了に必要な科目・単位を修得していない場合には、進学内定後の2A1ターム以降に修得する必要がある。ただし、2A1ターム以降に専門科目の履修が困難な場合も起こるので、2Sセメスターまでに修得しておくことが望ましい。
- ④ 前期課程修了要件（p. 9）を満たさなかった場合には、内定が取り消される。

### (4) 第一段階の進学選択

第一段階で、受入予定数の7割を確定する。

第一段階では、第1志望のみ単願で登録することができる。

第一段階の指定科類枠の定数が充足されなかった場合、不足数は第二段階の指定科類枠の定数に加える。ただし、不足数を第一段階の全科類枠の定数に加える進学単位もあり、その場合は各学部の進学受け入れ予定数の表にその旨の補足説明が記される。

### (5) 第二段階の進学選択（第一段階で進学内定していない学生のみが対象）

第一段階終了後に、その時点での第二段階の指定科類枠および全科類枠の定数を公表する。

第二段階では、志望する全ての進学単位を複願で登録することができる。なお、第二段階では、受入保留アルゴリズムにより内定先が決定される。この受入保留アルゴリズムは、学生の志望が最大限反映されるものなので、志望の登録に当たっては、「内定した場合に進学する意志のある進学単位全て」を「本当に進学したいと志望する順番」で登録すること。

### (6) 第三段階の進学選択（第二段階までで進学内定していない学生のみが対象）

第二段階終了時に進学定数を満たさなかった進学単位では、第三段階を行うことがある。

第二段階終了後に、第三段階を行う進学単位と指定科類枠および全科類枠の定数を公表する。

第三段階までで志望する進学先のいずれにも進学内定しなかった学生は2A1ターム・2Aセメスター開始前の時点で自動的に降年（p. 45）し、1A1ターム・1Aセメスターの科目を履修することになる。

### (7) 進学の決定

進学が内定しても、教養学部前期課程の各科類における修了要件（p. 9）を満たさない場合は進学できない。

教養学部前期課程の各科類における修了要件を満たさなかった場合、進学内定は取り消されて、留年（p. 45）が決定する。この場合の留年者は、翌年度の進学選択に際して、同じ進学単位への進学を志望する場合でも、あらためて「進学志望登録」をしなければならない。

### 3. 進学選択に用いられる評点

#### (1) 評点の算出方式

- ① 進学選択における成績等の評価は「基本平均点」を用いて行うことを標準とするが、一部の進学単位においては、それとは異なる「指定平均点」を用いる。これらの平均点は、いずれも2S2ターム・2Sセメスターまでに履修した単位数と成績から算出される。

#### A. 基本平均点

「基本平均点」は、次の式で算出される。

$$\text{「基本平均点」} = \frac{\text{各科目の（評点} \times \text{単位数} \times \text{重率）の総計}}{\text{各科目の（単位数} \times \text{重率）の総計}}$$

「基本平均点」の計算に算入される科目、単位、及び重率（単位あたりの重み）は以下のとおりである。

#### 文科一類・二類・三類生

##### 1) 外国語科目

既修外国語（文科各類）	5 単位（重率 1）(注1)
初修外国語（文科各類）	6 単位（重率 1）

##### 2) 情報（文科各類）

3) 身体運動・健康科学実習（文科各類）	2 単位（重率 1）
4) 初年次ゼミナール文科（文科各類）	2 単位（重率 1）

5) 社会科学（文科一・二類）	科類の要件※を含め成績上位 8 単位（重率 1）
社会科学（文科三類）	科類の要件※を含め成績上位 4 単位（重率 1）

6) 人文科学（文科各類）	科類の要件※を含め成績上位 4 単位（重率 1）
7) 総合科目（文科一・二類）	系別の単位取得条件※を含め成績上位 2 1 単位（重率 1）(注2)

総合科目（文科三類）	系別の単位取得条件※を含め成績上位 2 5 单位（重率 1）(注3)
------------	---------------------------------------

8) 上記以外で2S2ターム・2Sセメスターまでに単位取得した基礎科目	（重率0.1）
9) 上記以外で2S2ターム・2Sセメスターまでに履修科目登録した展開科目・総合科目	（重率0.1）

(注1) 英語・日本語以外を既修外国語として履修する場合は6単位。

(注2) 英語・日本語以外を既修外国語として履修する場合は20単位。

(注3) 英語・日本語以外を既修外国語として履修する場合は24単位。

※科類の要件／単位取得条件：p. 9を参照のこと。各要件に付されている注部分も含まれる。

#### 理科一類・二類・三類生

##### 1) 外国語科目

既修外国語（理科各類）	5 单位（重率 1）(注1)
初修外国語（理科各類）	6 単位（重率 1）

2) 情報（理科各類）	2 单位（重率 1）
3) 身体運動・健康科学実習（理科各類）	2 単位（重率 1）

4) 自然科学（理科一類）	任意選択科目を除く 2 6 単位（重率 1）
自然科学（理科二・三類）	任意選択科目を除く 2 7 単位（重率 1）

5) 総合科目（理科各類）	系別の単位取得条件※を含め成績上位 1 5 单位（重率 1）(注2)
6) 2S2ターム・2Sセメスターまでに単位取得した任意選択の基礎科目	（重率0.1）

7) 上記以外で2S2ターム・2Sセメスターまでに履修科目登録した展開科目・総合科目	（重率0.1）
(注1) 英語・日本語以外を既修外国語として履修する場合は6単位。	

(注2) 英語・日本語以外を既修外国語として履修する場合は14単位。

※単位取得条件：p. 9を参照のこと。各要件に付されている注部分も含まれる。

## B. 指定平均点

進学単位によっては、「基本平均点」とは異なる算出方式（「指定平均点」）を用いる場合がある。「指定平均点」を用いる進学単位、及び詳細については、別表8「学部・学科別指定平均点一覧」（p. 97）を参照すること。

- ② 前記①において、成績評価が不可の科目はその評点が、欠席または未履修の科目は0点が、「基本平均点」または「指定平均点」に算入される。
- ③ 合格または不合格の評価による科目（基礎科目「初年次ゼミナール理科」、展開科目「社会科学ゼミナール」、主題科目、文科生が「基礎実験」を履修した場合）は、特に指定のない限りは「基本平均点」または「指定平均点」に算入されない。
- ④ 総合科目について、重率「1」となる最終順位の科目が2単位科目で重率「1」の対象内外にまたがる場合は、2単位のうち1単位が重率「1」、1単位が重率「0.1」で「基本平均点」または「指定平均点」に算入される。
- ⑤ 総合科目D系列「スポーツ・身体運動実習」、「スポーツ・身体運動実習Ⅱ」及び「スポーツ・身体運動実習（PEAK）Ⅰ」、「スポーツ・身体運動実習Ⅱ（PEAK）」について、「基本平均点」または「指定平均点」に重率「1」で算入されるのは合わせて2単位まで、重率「0.1」で算入されるのは1単位までである。
- ⑥ 2年次終了時に留年（p. 45）した学生が、2Aセメスター（2A1ターム、2A2タームを含む）に履修した基礎科目、総合科目、展開科目の単位は、次年度の進学選択の際、「基本平均点」または「指定平均点」に算入される。  
(注) 留年直後の2Sセメスター（2S1ターム、2S2タームを含む）に履修した科目の成績も「基本平均点」または「指定平均点」に算入される。
- ⑦ 留年・降年した学生が留年・降年以前に履修科目登録していた展開・総合・主題科目のうち、成績評価が「欠席」の科目は「基本平均点」または「指定平均点」に算入されない。
- ⑧ UTASログイン後の【シラバス参照】および前期課程ホームページで公開される『科目紹介』（シラバス抜粋）で、「この授業は、開講日程の都合上、成績が所定の確認日より後に公開されることがあるので留意してください。」と記載されている科目を、2Sセメスター（2S1ターム・2S2タームを含む）で履修した場合、評点の算出の際に算入されない場合がある。

### (2) 指定重率・履修点

進学単位によっては、成績等の評価について個別に指定重率、履修点、またはその両方が適用される場合がある。これらは、「基本平均点」または「指定平均点」を基として次のいずれかの変更を行ったものである。

- 1) 当該進学単位が指定する科目の成績にそれぞれ指定された重率をかけて加重平均点を算出する。（指定重率）
- 2) 当該進学単位が指定する科目を修得したことに対し、指定された履修点を加点する。（履修点）
- 3) 当該進学単位が指定する科目の成績にそれぞれ指定された重率をかけて加重平均点を算出し、さらに、当該進学単位が指定する科目を修得したことに対し、指定された履修点を加点する。（指定重率及び履修点）

指定重率の対象となる科目は、当該進学単位を志望する場合、「(1) 評点の算出方式」及び別表8「学部・学科別指定平均点一覧」の記載にかかわらず、指定重率が適用される。

指定重率及び履修点を用いる進学単位、及び詳細については、別表9「学部・学科別重率・

履修点一覧」（p. 99）を参照すること。

**(3) 面接・志望理由書等**

進学単位によっては、第二段階・第三段階において面接や志望理由書等、成績以外の評価尺度を用いる場合がある。面接・志望理由書等を評価尺度として設定する進学単位、及び詳細については、別表10「面接・志望理由書一覧（予定）」（p. 104）を参照すること。

なお、これらの評価尺度（上記(1)～(3)）は2026年度進学選択（2025年実施）に適用され、それ以降は変更となる場合もあるので、UTASや教務課前期課程ホームページによる掲示で確認すること。

(別表1)

## 文科一類の履修プログラム

※前期課程修了要件（修得必要科目・取得最低単位数）等について（p.9 注記を含む）参照のこと

科目区分	取得すべき最低単位数	各セメスター・タームに取得すべき単位数					
		1 Sセミスター		1 Aセミスター		2 Sセミスター	
		1 S1 ターム	1 S2 ターム	1 A1 ターム	1 A2 ターム	2 S1 ターム	2 S2 ターム
外國語	既修外国語	5		2または3	3または2		
	初修外国語	6		4	2		
情報		2		2			
身体運動・健康科学実習		2		1	1		
初年次ゼミナール文科		2		2			
社会科学	法I、法II 政治I、政治II 経済I、経済II 社会I、社会II 数学I、数学II	「法I、法II」4、または「政治I、政治II」4を含め8  2分野にわたり4	2.9	2または3	3または2		
	哲学I、哲学II			4	2		
	倫理I、倫理II			2			
	歴史I、歴史II			1	1		
人文科学	ことばと文学I ことばと文学II ことばと文学III ことばと文学IV 心理I、心理II			2			
基礎科目	基礎実験			8			
	数理科学基礎 微分積分学① 微分積分学② 線型代数学① 線型代数学② 数理科学基礎演習 数学基礎理論演習 微分積分学演習 線型代数学演習			4			
自然科学	力学 電磁気学 熱力学 化学熱力学 構造化学 物性化学 生命科学 生命科学I 生命科学II			2.9			
展開科目	社会科学ゼミナール 人文科学ゼミナール 自然科学ゼミナール 文理融合ゼミナール	任意選択	任意選択		任意選択		
総合科目	L言語・コミュニケーション A思想・芸術 B国際・地域 C社会・制度 D人間・環境 E物質・生命 F数理・情報	9 2系列以上にわたり6 2系列以上にわたり6	2.1	9 6 6			
主題科目	学術フロンティア講義 全学自由研究ゼミナール 全学体験ゼミナール 国際研修	2		2			
	基礎科目・展開科目・総合科目・主題科目の最低単位数の他に取得しなければならない単位数	4		4			
	合計	5.6		5.6			

## 文科二類の履修プログラム

※前期課程修了要件（修得必要科目・取得最低単位数）等について（p.9 注記を含む）参照のこと

科目区分	取得すべき最低単位数	各セメスター・タームに取得すべき単位数							
		1 Sセメスター		1 Aセメスター		2 Sセメスター		2 Aセメスター	
		1 S1 ターム	1 S2 ターム	1 A1 ターム	1 A2 ターム	2 S1 ターム	2 S2 ターム	2 A1 ターム	2 A2 ターム
基礎科目	既修外国語	5	「経済I、経済II、数学I、数学II」の中から4を含め8	2または3	3または2				
	初修外国語	6		4	2				
	情報	2		2					
	身体運動・健康科学実習	2		1	1				
	初年次ゼミナール文科	2		2					
	法I、法II								
	政治I、政治II								
	経済I、経済II								
	社会I、社会II								
	数学I、数学II								
選択科目	哲学I、哲学II		2分野にわたり4						
	倫理I、倫理II								
	歴史I、歴史II								
	ことばと文学I								
	ことばと文学II								
	ことばと文学III								
	ことばと文学IV								
	心理I、心理II								
	基礎実験								
	数理科学基礎								
総合科目	微分積分学①		2.9						
	微分積分学②								
	線型代数学①								
	線型代数学②								
	数理科学基礎演習								
	数学基礎理論演習								
	微分積分学演習								
	線型代数学演習								
	力学								
	電磁気学								
選択科目	熱力学								
	化学熱力学								
	構造化学								
	物性化学								
	生命科学								
	生命科学I								
	生命科学II								
	社会科学ゼミナール								
	人文科学ゼミナール								
	自然科学ゼミナール								
総合科目	文理融合ゼミナール		任意選択						
	L言語・コミュニケーション	9							
	A思想・芸術								
	B国際・地域								
	C社会・制度								
	D人間・環境								
	E物質・生命								
	F数理・情報								
	学術フロンティア講義								
	全学自由研究ゼミナール								
主題科目	全学体験ゼミナール	2							
	国際研修								
	基礎科目・展開科目・総合科目・主題科目の最低単位数の他に取得しなければならない単位数	4							
	合計	56							

文科三類の履修プログラム※前期課程修了要件（修得必要科目・取得最低単位数）等について（p.9 注記を含む）参照のこと

科目区分	取得すべき最低単位数	各セメスター・タームに取得すべき単位数							
		1 Sセメスター		1 Aセメスター		2 Sセメスター		2 Aセメスター	
		1 S1 ターム	1 S2 ターム	1 A1 ターム	1 A2 ターム	2 S1 ターム	2 S2 ターム	2 A1 ターム	2 A2 ターム
基礎科目	既修外国語	5	2分野にわたり 4	2または3	3または2				
	初修外国語	6		4	2				
	情報	2		2					
	身体運動・健康科学実習	2		1		1			
	初年次ゼミナール文科	2		2					
	法 I、法 II								
	社会科学 I、政治 II								
	経済 I、経済 II								
	社会 I、社会 II								
	数学 I、数学 II								
選択科目	哲学 I、哲学 II		2分野にわたり 4						
	倫理 I、倫理 II								
	歴史 I、歴史 II								
	ことばと文学 I								
	ことばと文学 II								
	ことばと文学 III								
	ことばと文学 IV								
	心理 I、心理 II								
	基礎実験								
	数理科学基礎								
総合科目	微分積分学①		2.5						
	微分積分学②								
	線型代数学①								
	線型代数学②								
	数理科学基礎演習								
	数学基礎理論演習								
	微分積分学演習								
	線型代数学演習								
	力学								
	電磁気学								
主題科目	熱力学								
	化学熱力学								
	構造化学								
	物性化学								
	生命科学								
	生命科学 I								
	生命科学 II								
	社会科学ゼミナール								
	人文科学ゼミナール								
	自然科学ゼミナール								
基礎科目	文理融合ゼミナール								
	L言語・コミュニケーション		2.5	任意選択					
	A思想・芸術								
	B国際・地域								
	C社会・制度								
	D人間・環境								
	E物質・生命								
	F数理・情報								
	学術フロンティア講義								
	全学自由研究ゼミナール								
選択科目	全学体験ゼミナール								
	国際研修								
	基礎科目・展開科目・総合科目・主題科目の最低単位数の他に取得しなければならない単位数	4							
	合計	5.6							

## 理科一類の履修プログラム

※前期課程修了要件（修得必要科目・取得最低単位数）等について（p.9 注記を含む）参照のこと

科目区分		取得すべき最低単位数	各セメスター・タームに取得すべき単位数						
			1 Sセミスター		1 Aセミスター		2 Sセミスター		2 Aセミスター
		1 S1 ターム	1 S2 ターム	1 A1 ターム	1 A2 ターム	2 S1 ターム	2 S2 ターム	2 A1 ターム	2 A2 ターム
外語	既修外国語	5		2または3	3または2				
	初修外国語	6		4	2				
	情報	2		2					
	身体運動・健康科学実習	2		1		1			
	初年次ゼミナール理科	2		2					
	法 I、法 II								
	社会 I、政治 II								
	経済 I、経済 II								
	社会 I、社会 II								
	数学 I、数学 II								
人文学科	哲学 I、哲学 II								
	倫理 I、倫理 II								
	歴史 I、歴史 II								
	ことばと文学 I								
	ことばと文学 II								
	ことばと文学 III								
	ことばと文学 IV								
	心理 I、心理 II								
	基礎実験 I	1		1					
	基礎実験 II	1			1				
基礎科目	基礎実験 III*	1				1			
	基礎実験 IV*	任意選択					任意選択		
	数理科学基礎	2		2					
	微分積分学①	1		1					
	微分積分学②	2		2					
	線型代数学①	1		1					
	線型代数学②	2		2					
	数理科学基礎演習	1		1					
	数学基礎理論演習	1		1					
	微分積分学演習	1		1					
自然科学	線型代数学演習	1		1					
	力学	2		2					
	電磁気学	2		2					
	熱力学	2		2					
	化学熱力学					2			
	構造化学	2				2			
	物性化学	2					2		
	生命科学	1					1		
	生命科学 I								
	生命科学 II								
選開科目	社会科学ゼミナール								
	人文科学ゼミナール								
	自然科学ゼミナール								
	文理融合ゼミナール								
総合科目	L言語・コミュニケーション	3				3			
	A思想・芸術								
	B国際・地域					6			
	C社会・制度								
	D人間・環境								
	E物質・生命					6			
主題科目	F数理・情報								
	学術フロンティア講義								
	全学自由研究ゼミナール								
	全学体験ゼミナール								
基礎科目	国際研修								
	基礎科目・選開科目・総合科目・主題科目の最低単位数の他に取得しなければならない単位数	3				3			
	合計	63				63			

\* 「基礎実験III」、「基礎実験IV」の代わりに「基礎生命科学実験」、「生命科学実験」を履修することもできる。ただし、履修できる人数に制限がある。

## 理科二類の履修プログラム

※前期課程修了要件（修得必要科目・取得最低単位数）等について（p.9 注記を含む）参照のこと

科目区分	取得すべき最低単位数	各セメスター・タームに取得すべき単位数							
		1 Sセメスター		1 Aセメスター		2 Sセメスター		2 Aセメスター	
		1 S1 ターム	1 S2 ターム	1 A1 ターム	1 A2 ターム	2 S1 ターム	2 S2 ターム	2 A1 ターム	2 A2 ターム
外語	既修外国語	5		2または3	3または2				
	初修外国語	6		4	2				
情報		2		2					
身体運動・健康科学実習		2		1		1			
初年次ゼミナール理科		2		2					
社会科学	法I、法II								
	政治I、政治II								
	経済I、経済II								
	社会I、社会II								
	数学I、数学II								
人文科学	哲学I、哲学II								
	倫理I、倫理II								
	歴史I、歴史II								
	ことばと文学I								
	ことばと文学II								
	ことばと文学III								
	ことばと文学IV								
	心理I、心理II								
基礎科目	基礎物理学実験	1							
	基礎化学実験	1							
	基礎生命科学実験	1							
	生命科学実験	任意選択							
自然科学	数理科学基礎	2							
	微分積分学①	1							
	微分積分学②	2							
	線型代数学①	1							
	線型代数学②	2							
	数理科学基礎演習	任意選択							
	数学基礎理論演習	任意選択							
	微分積分学演習	1							
	線型代数学演習	1							
	力学	2							
	電磁気学	2							
	熱力学								
	化学熱力学	2							
	構造化学	2							
	物性化学	2							
	生命科学								
	生命科学I	2							
	生命科学II	2							
履修科目	社会科学ゼミナール								
	人文科学ゼミナール								
	自然科学ゼミナール								
	文理融合ゼミナール								
総合科目	L言語・コミュニケーション	3							
	A思想・芸術								
	B国際・地域								
	C社会・制度								
	D人間・環境								
	E物質・生命								
	F数理・情報								
主題科目	学術フロンティア講義								
	全学自由研究ゼミナール								
	全学体験ゼミナール								
	国際研修								
基礎科目・履修科目・総合科目・主題科目の最低単位数の他に取得しなければならない単位数		2							
合計		6 3							
								6 3	

\* 「1A1 タームに基礎物理学実験、1A2 タームに基礎化学実験」を履修するグループと、「1A1 タームに基礎化学実験、1A2 タームに基礎物理学実験」を履修するグループに分けられる。

### 理科三類の履修プログラム

※前期課程修了要件（修得必要科目・取得最低単位数）等について（p.9 注記を含む）参照のこと

科目区分	取得すべき最低単位数	各セメスター・タームに取得すべき単位数					
		1 Sセメスター		1 Aセメスター		2 Sセメスター	
		1 S1 ターム	1 S2 ターム	1 A1 ターム	1 A2 ターム	2 S1 ターム	2 S2 ターム
外國語	既修外国語	5		2または3	3または2		
	初修外国語	6		4	2		
情報		2		2			
身体運動・健康科学実習		2		1		1	
初年次ゼミナール理科		2		2			
社会科学	法Ⅰ、法Ⅱ 政治Ⅰ、政治Ⅱ 経済Ⅰ、経済Ⅱ 社会Ⅰ、社会Ⅱ 数学Ⅰ、数学Ⅱ						
人文科学	哲学Ⅰ、哲学Ⅱ 倫理Ⅰ、倫理Ⅱ 歴史Ⅰ、歴史Ⅱ ことばと文学Ⅰ ことばと文学Ⅱ ことばと文学Ⅲ ことばと文学Ⅳ 心理Ⅰ、心理Ⅱ						
基礎科目	基礎物理学実験 基礎化学実験 基礎生命科学実験 生命科学実験	1 1 1 任意選択		1*	1*		
	数理科学基礎 微分積分学① 微分積分学② 線型代数学① 線型代数学② 数理科学基礎演習	2 1 2 1 2 任意選択				1	
	数学基礎理論演習 微分積分学演習 線型代数学演習	任意選択 1 1					任意選択
自然科学	力学 電磁気学 熱力学 化学熱力学 構造化学 物性化学	2 2 2 2 2 2		1	2		
	物理科学	2 2 2 2 2 2		2	2		
	生命科学 生命科学Ⅰ 生命科学Ⅱ	2 2 2		2	2		
展開科目	社会科学ゼミナール 人文科学ゼミナール 自然科学ゼミナール 文理融合ゼミナール		任意選択	任意選択			
総合科目	L言語・コミュニケーション A思想・芸術 B国際・地域 C社会・制度 D人間・環境 E物質・生命 F数理・情報	3 2系列以上にわたり6 2系列にわたり6		15	3 6 6		
主題科目	学術フロンティア講義 全学自由研究ゼミナール 全学体験ゼミナール 国際研修		2		2		
	基礎科目・展開科目・総合科目・主題科目の最低単位数の他に取得しなければならない単位数	2			2		
	合計	63			63		

\*「1A1タームに基礎物理学実験、1A2タームに基礎化学実験」を履修するグループと、「1A1タームに基礎化学実験、1A2タームに基礎物理学実験」を履修するグループに分けられる。

(別表 2)

## 基礎科目授業内容概要(文科各類)

科 目 名		授 業 内 容
基礎科目	外 国 語	既修外国語 初等文法の知識がすでにあり、基礎的な表現力、及び中級程度の文章が読みこなせる読解力を備えた学生を対象とする。開講される外国語は、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、スペイン語、韓国朝鮮語、イタリア語、日本語（外国人留学生＝日本政府（文部科学省）奨学生留学生、外国政府派遣留学生、外国学校卒業学生特別選考第1種入学者、公益財団法人日本台湾交流協会学部留学生のみ）。
		初修外国語 当該外国語を初めて履修する学生を対象とする。開講される外国語は、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、スペイン語、韓国朝鮮語、イタリア語。
	情報	
	身体運動・健康科学実習	
	初年次ゼミナール文科	
	社会科学	法 I 法学における思考方法・法の枠組みなどについて概論的に学ぶとともに、具体的な問題に即して近代法の基礎原理を考察する。
		法 II 具体的な問題に即して、基礎原理を考察しながら、法的な思考方法の実際を学ぶ。
		政治 I 政治学の基礎概念・基礎理論を解説することを通じて、政治現象を理解する上での基本的視座を身につける。
		政治 II 政治学の基礎概念・基礎理論を解説することを通じて、政治現象を理解する上での視座をより幅広く学ぶ。
		経済 I 現代の経済は、どのような仕組みを持っているのか。企業や家計またはコミュニティの動きと経済政策のはたらき、そして分配や成長・発展のありさまについての基本問題を考察する。
		経済 II 現代の経済は、どのような仕組みを持っているのか。企業や家計またはコミュニティの動きと経済政策のはたらき、そして分配や成長・発展のありさまについて、より深く考察する。
		社会 I 社会学の基礎的なコンセプトと分析感覚とを、近代・現代社会の具体的な現象を取り上げながら解説・講義する。
		社会 II 社会を思想的に捉えることは一体どのようなことなのか、これまでの社会思想の歴史をふまえつつ原理的に考察する。
		数学 I 一変数関数の微分法と積分法に関する基礎的内容を扱う。
		数学 II ベクトルと行列に関わる基礎的内容を扱い、その計算手法を理解する。

科 目 名		授 業 内 容
基礎科目 (続き)	人文科学	哲学Ⅰ 哲学とはどういう営みであるのか、哲学とはどういう問題をどのように考えていくことなのかを、主として西洋哲学史の観点から概説する。
		哲学Ⅱ 哲学はいまの私達にとってどのような意味をもち、どのような問題を提起しているのか、そしてその問題にどう応じていこうとするのかを、哲学の現在を見ることによって概説する。
		倫理Ⅰ 何が価値あるものとされるのか、私達はどうあるべきであり、何を為すべきなのか、こうした価値及び規範の問題を考えていく上での枠組みを、基本的な倫理学説を概観することを通して論じる。
		倫理Ⅱ 生命について、環境について、あるいは情報について、私達が現在直面している倫理的問題を明らかにし、それに対してどのように考えていくべきよいかを論じる。
		歴史Ⅰ 世界のさまざまな地域・文明の歴史を、時間的変化と地域的多様性に留意しながら概説する。
		歴史Ⅱ 日本列島とその周辺で展開してきた歴史を、世界との関わりを視野に收めながら概説する。
		ことばと文学Ⅰ 人間言語の特徴を概観し、その普遍性と多様性の源を探求する。
		ことばと文学Ⅱ 文化基盤としての日本語・日本文学について、近世以前の古典を中心に概観する。
		ことばと文学Ⅲ 文化基盤としての日本語・日本文学について、近代を中心に概観する。
		ことばと文学Ⅳ 様々な言語による文学を多様な視点から論じ、文学による人間探求の諸相を概観する。
心理		心理Ⅰ 心の仕組みや働き、成り立ちについて、感覚、知覚、認知、学習、思考など人間心理の基礎的側面を中心に、心理学が明らかにしてきた現象や理論を概説する。
		心理Ⅱ 心の仕組みや働き、成り立ちについて、人間心理のより応用的側面を中心に、心理学が明らかにしてきた現象や理論を概説する。

## 基礎科目授業内容概要（理科各類）

科 目 名		授 業 内 容	
基礎科目	外 国 語	既修外国語 初等文法の知識がすでにある、基礎的な表現力、及び中級程度の文章が読みこなせる読解力を備えた学生を対象とする。開講される外国語は、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、スペイン語、韓国朝鮮語、イタリア語、日本語（外国人留学生=日本政府（文部科学省）奨学金留学生、外国政府派遣留学生、外国学校卒業学生特別選考第1種入学者、公益財団法人日本台湾交流協会学部留学生のみ）。	
		初修外国語 当該外国語を初めて履修する学生を対象とする。開講される外国語は、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、スペイン語、韓国朝鮮語、イタリア語。	
情報		情報に関する諸側面、具体的には表現・伝達・問題解決・システム・社会とのかかわりのそれぞれについて、その原理と具体的な内容とを、グループ実習を含む学習によって学ぶ。人間・コンピュータ・社会を横断的かつ統合的にカバーする文理共通の科目である。 情報α：上記内容に加えて、より高度で先進的な内容を系統的に学び、実践的な情報処理につながる力を養う。	
身体運動・健康科学実習		実習と講義を通じ、身体運動と健康に関する科学的基礎を学ぶとともに、自ら運動技能、身体機能、体力、健康状態などの向上を図る。	
初年次ゼミナール理科		少人数チュートリアル方式の授業により、基礎的な学術的スキルを、アカデミック体験を通して習得する。	
自然科学	基礎実験	基礎実験（物理学） (理科一類生) 基礎実験（化学） (理科一類生)  希望すれば、1A1、1A2タームに基礎実験（物理学）と基礎実験（化学）を1タームずつ履修し、2S1、2S2タームに基礎生命科学実験及び生命科学実験を履修することもできる（上限80名）。 基礎実験I（物理学）α、基礎実験II（物理学）α：1A1、1A2タームに、担当教員の研究室で研究を視野に入れた物理学実験の基礎を学ぶ。 基礎実験I（化学）α、基礎実験II（化学）α：1A1、1A2タームに、担当教員の研究室で研究を視野に入れた化学実験の基礎を学ぶ。	
		基礎物理学実験 (理科二類・三類生) 基礎化学実験 (理科二類・三類生) 基礎生命科学実験 (理科二類・三類生) 生命科学実験 (理科二類・三類生)	
		1A1、1A2タームの基礎物理学実験及び基礎化学実験を通して物質科学の手法を学ぶ。 1A1タームに基礎物理学実験を履修し1A2タームに基礎化学実験を履修するグループと、1A1タームに基礎化学実験を履修し1A2タームに基礎物理学実験を履修するグループがある。 2S1、2S2タームでは基礎生命科学実験及び生命科学実験を通して生命科学の手法を学ぶ。主として生物学の実験を行うが、身体運動科学の実験も経験する。 基礎生命科学実験α、生命科学実験α：2S1、2S2タームに、担当教員の研究室で研究を視野に入れた生命科学実験の基礎を学ぶ。	

科 目 名		授 業 内 容
基礎科目(続き)	数理科学 自然科学	数理科学基礎 数学の基礎である集合と写像から説き起こし、微分方程式、偏微分係数、行列などの数理科学の基礎的内容を学び、高等学校で学んだ数学から大学で学ぶ数学への橋渡しとする。
		微分積分学① 「数理科学基礎」で学んだ極限の扱いに基づき、微分積分学の基礎と応用を学ぶ。
		微分積分学② 線型代数学① 「数理科学基礎」において学んだベクトルと線型写像に関する知識を前提とし、線型代数学の基礎と応用を学ぶ。
		線型代数学② 数理科学基礎演習 数理科学基礎の講義と一体をなし、講義の内容の理解を深めるために演習問題を解く。
		数学基礎理論演習 1S2タームにおける微分積分学①、線型代数学①の講義と一体をなし、講義の内容の理解を深めるために演習問題を解く。
		微分積分学演習 1Aセメスターにおける微分積分学②の講義と一体をなし、講義の内容の理解を深めるために演習問題を解く。
		線型代数学演習 1Aセメスターにおける線型代数学②の講義と一体をなし、講義の内容を深めるために演習問題を解く。
		力学 Aコース：古典力学の基本法則を数学的手法により表現し、自然界を論理的・体系的に理解するための基礎を学ぶ。 Bコース：内容は基本的にAコースと同じであるが、入学試験で物理を選択しなかった学生が希望により履修する。
	物質科学	電磁気学 Aコース：様々な電気・磁気現象を統一的に理解・説明する方法を学ぶ。電磁場の概念を導入し、基礎方程式としてのマクスウェル方程式を導く。 Bコース：内容は基本的にAコースと同じであるが、入学試験で物理を選択しなかった学生が希望により履修する。
		熱力学 (理科一類生) 多数の原子分子の集団から成る物質系を、巨視的な観点から考察する方法を学ぶ。
		化学熱力学 (理科二類・三類生) エネルギー、エントロピーなどの概念、及び化学平衡等へ熱力学を応用することを学ぶ。
		構造化学 原子や分子の構造について実験的・理論的基礎事項を学ぶ。 構造化学α：構造化学で習う範囲に加えて、エネルギー準位や電子分布といった基礎事項に基づき構造化学のより高度で先進的な内容を学び、深く考える力を養う。
	生命科学	物性化学 物質の多様な構造、性質、反応を理解するための基礎的な概念、理論を、具体的な化合物を例にして学ぶ。
		生命科学 (理科一類生) 入学前に物理、化学を主に学んだ学生にも理解できるように、主に計算主体の演習問題を解くことを通して生命科学を学ぶ。
		生命科学 I (理科二類・三類生) 生命科学の基礎である分子生物学と生化学を学ぶ。生命体を構成する物質とその機能についての知識を幅広く習得することが目的である。
		生命科学 II (理科二類・三類生) 分子生命現象の基礎知識を前提として、細胞生物学を主体とした生命科学を学ぶ。

(別表3)

## 展開科目授業内容概要

科 目 名	授 業 内 容
展開科目	社会科学ゼミナール 初年次ゼミナール文科その他の履修をふまえて、社会科学の基本的な考え方と成果のまとめ方を、少人数授業の形で学ぶ。大きくは、法・政治、経済・統計、社会・社会思想史、国際関係の4つの分野にわかれますが、担当教員によっては複数の分野に関わるテーマになることもある。 【令和3年度より「アドバンスト文科」と総称】
	人文科学ゼミナール 初年次ゼミナール文科・基礎科目等の履修を通して培った関心・知識をより深め、発展させるための、少人数ゼミナールである。哲学・科学史、歴史学、文化人類学、ことばと文化、データ分析の5分野があり、文献講読、フィールドワーク、データ分析などの実践を通して、人文諸学のより高度な内容を学ぶとともに、学問研究の方法を身につけることを目指す。 【令和3年度より「アドバンスト文科」と総称】
	自然科学ゼミナール 自然科学ゼミナールは初年次ゼミナール・基礎科目・総合科目を受けて、1A1ターム以降に開講される理科生向けの専門的な演習授業である。「身体運動科学」「生命科学」「化学」「物理学」「数理科学」「情報科学」「基礎工学」「医学」の8分野からなり、演習、実習、発表、議論を通して、アカデミックスキルを実践・活用する。
	文理融合ゼミナール 基礎科目的修学を基礎として、分野を超えた思考様式や研究方法を少人数形式で学ぶ。文系と理系を横断する芸術の実践に取り組み、創造力や分野を超えた発想・問題解決能力を育むと同時に、人間科学に基づいて創造の経験を分析的に理解する視点も養う。「認知と芸術」「身体と芸術」「メディアと芸術」の3分野からなる。さらに「研究入門」では、教員のメンターシップのもと、文理融合の視点で得られた問い合わせを取り組む。 【「アドバンスト文理融合」とも呼ばれる。】

(別表4)

## 総合科目授業内容概要

○開講予定セメスター及びタームの表示の例

「S・A」→SセメスターおよびAセメスターに開講する

「S/A」→SまたはAに開講する（SおよびAに開講する場合もある）

「S」→Sに開講（Aに開講する場合もある）

L 言語・コミュニケーション				
大科目名	科目名	科目の授業内容	開講予定セメスター・ターム	単位数
国際コミュニケーション	外国語初級	初修外国語の初級の科目であり、「基礎科目」で履修する初修外国語の運用能力をより高めるための授業と、「基礎科目」で履修する外国語以外の言語を学ぶ授業がある。	S/S1/S2/A/A1/A2	1または2
	外国語中級	初修外国語および既修外国語の中級レベルの科目であり、外国語の基本を習得した学生を対象に、より高度な言語理解・運用能力を育成する。「基礎科目」で履修できる外国語以外の言語でも開講される。	S/S1/S2/A/A1/A2	1または2
	外国語上級	初修外国語および既修外国語の上級レベルの科目であり、当該言語において一定の習熟度に達している学生を対象として高度な言語理解・運用能力を育成する。	S/S1/S2/A/A1/A2	1または2
古典語	古典語初級Ⅰ	古典ギリシア語、ラテン語、サンスクリット語などの初等文法の指導を行う。	S/A	2
	古典語初級Ⅱ	古典ギリシア語、ラテン語、サンスクリット語などの初等文法の指導を行う。	S/A	2
	古典語中級Ⅰ	古典ギリシア語、ラテン語、サンスクリット語などの文献講読。初等文法の知識を前提とする。	S	2
	古典語中級Ⅱ	古典ギリシア語、ラテン語、サンスクリット語などの文献講読。初等文法の知識を前提とする。	A	2
	古典日本語	古典日本語の世界について概観し、文献講読・資料解読を通じて、古典日本語の能力を養う。	S/A	2
	古典中国語	古典中国語（漢文）の世界について概観し、文献講読・資料解読を通じて、古典中国語の能力を養う。	S/A	2

# A 思 想 • 芸 術

大科目名	科 目 名	科 目 の 授 業 内 容	開講予定 セミナー・ターム	単位数
言語とテクストの科学	言語構造論	音声学・音韻論・形態論・統語論・意味論・語用論等の基本分野にわたって、構造という観点から言語の普遍性について論じる。	S/S1/S2/ A/A1/A2	1または2
	言語比較論	複数の言語を比較対照したデータ、個別言語内の変遷変異に関する比較データをとりあげ、言語の普遍性と多様性について考察する。	S/S1/S2/ A/A1/A2	1または2
	言語応用論	認知心理学・進化人類学・社会学・計算機科学など、言語をとりまく諸分野との間の学際的アプローチを通して、人間の言語を広い視点から考える。	S/S1/S2/ A/A1/A2	1または2
	批評理論	テクスト分析の基礎となる、ナラトロジー、記号論、精神分析理論、フェミニズム理論、ポストコロニアル研究などの最新の成果を学ぶ。批評の実践的なトレーニングも行う。	S/S1/S2/ A/A1/A2	1または2
	文化横断論	「世界文学」の視座から、複数の文化の遭遇と対話の場として文学を捉えなおす。文学・文化が複数の言語圏に流通するのに不可欠な「翻訳」を理論的・実践的に研究する。文学作品の映画化など、「翻案」についても考察する。	S/S1/S2/ A/A1/A2	1または2
	テクスト文化論	古今東西のさまざまな文化テクストを言語とメディアのあり方に注目して読解する。分析の対象は文学や思想にとどまらず、映画やサブカルチャーなど他の文化的言説はもちろんのこと、社会的、政治的、経済的な言説も含む。	S/S1/S2/ A/A1/A2	1または2
	外国文学	原典（あるいは和訳）を用いながら、外国文学の成立および歴史的展開を通観し、同時にいくつかの特殊なトピックスについて深く考察する。	S/A	2
現代哲学	言語文化論	様々な言語現象や言語に関する社会的・文化的事象を扱い、人間の思考・認識のあり方や言語文化について考察する。	S/S1/S2/ A/A1/A2	1または2
	現代哲学	現代における哲学の諸基本問題を、世界、人間、言語などの諸観点から論じる。	S/S1/S2/ A/A1/A2	2
	科学哲学	科学に代表される知識の諸システムの構造に関して考察する。	S/S1/S2/ A/A1/A2	2
	現代思想	現代の私たちが直面している思想上の諸問題について論じる。	S/S1/S2/ A/A1/A2	2
	記号論理学 I (文科生)	推論の構造を形式化した体系としての命題論理学と述語論理学の基礎を示す。	S/S1/S2/ A/A1/A2	2
	記号論理学 I (理科生)	推論の構造を形式化した体系としての命題論理学と述語論理学の基礎を示す。	S/S1/S2	2
	記号論理学 II	記号論理学の基礎的知識を踏まえ、現代論理学のさらなる展開とその意義について講義する。	A/A1/A2	2
精神分析学	精神分析学	人間の無意識の世界の構造を、哲学や言語学の成果を応用しつつ解明する。	S/S1/S2/ A/A1/A2	2

大科目名	科 目 名	科 目 の 授 業 内 容	開講予定セミナー・ターム	単位数
表象文化論	表象文化論	人間文化の諸相を「表象」（リプレゼンテーション）という観点から考察し、その構造と形式についての理解を深める。	S・A	2
	演劇論	古今東西の広義の舞台芸術・パフォーマンス芸術について、その諸問題を言語（テクスト）、演技（パフォーマンス）、演出、劇場等の多角的視点から考察する。	S/A	2
	美術論	美術史・美学理論を参照しつつ、絵画、彫刻、写真など、美術作品の理解を深め、社会や文化一般との関係を考察する。	S/A	2
	映画論	世界各国の映像芸術の発展をたどりつつ、その歴史的・政治的役割を分析し、現代文化の内部に位置づける。	S/A	2
	音楽論	様々な時代、様々な文化に属する音楽作品の解析を通じて、音楽史・音楽理論を広く展望する。	S/A	2
	性の政治 I	【D&I科目】ジェンダーとセクシュアリティにかかわる文化政治について、理論と表象分析を通じて考察する。	S	2
	社会正義論	【D&I科目】多様性を前提とする現代社会における「正義」をめぐる諸問題について検討する。	A	2
比較文化論	比較文化論	複数の文化圏にわたって、歴史的および理論的な相互比較を行う。さらには異文化理解の実態と倫理、多元文化社会への展望を論ずる。	S・A	2
	比較文学	異なる文化圏に属する文学相互の影響関係およびそれぞれの文学の特質、文学や詩の理論的探求、さらには異文化理解とその具体的あらわれを論ずる。	S/A	2
	比較思想	価値観や思想の多様な現象態のダイナミズムを解明し、思想文化の新しい可能性と現代的意義を比較論的な視点から検討する。	S/A	2
	比較芸術	美術、音楽、文学などの諸芸術を対象として、地域間の交流の歴史を探索するクロス・エリア研究、ジャンル間の交渉の実態を解明するクロス・ジャンル研究を行う。	S/A	2
思想史・科学史	東洋思想史	中国・朝鮮・日本などの文献・資料によりながら、東アジアの思想の展開を検討する。	S/A	2
	西洋思想史	ヨーロッパにおける思想の展開を歴史的に検討する。	S/S1/S2/A/A1/A2	2
	経済思想史	モラル・サイエンスとしての経済学の確立と展開過程を講義する。	S/A	2
	社会思想史	これまでの社会思想の歴史を、現代的諸問題を顧慮しつつ考察する。	S/A	2
	科学史	古代ギリシアから現代にいたるまでの数学史・物理科学史・生命科学史から科学思想の転換点となった事例や、科学技術の現代的課題を検討する上で適切な話題を選んで講ずる。	S/S1/S2/A/A1/A2	2

## B 国際・地域

大科目名	科目名	科目の授業内容	開講予定セミスター・ターム	単位数
国際関係論	国際関係論	今日の国際関係を理解する上で必要な基本的概念の歴史的生成を中心国際関係論を解説する。	S/S1/S2/A/A1/A2	2
	国際関係史	世界諸地域における国際関係の歴史的变化を、東アジアに重点を置きながら、近代以降について概観する。	S/A	2
	現代国際社会論	変容する現代国際社会について、国家以外の諸主体の活動の現状や意味にも配慮しつつ、それを捉える基礎概念や方法を講義する。	S/A	2
	平和構築論	地域間及び地域内の紛争・統合・共生のプロセスを追うことで、平和構築のあり方について具体的に考察する。	S/A	2
地域文化論	地域文化論Ⅰ	文化の複合的な成り立ちや、文化間の相関関係などを勘案しつつ、ヨーロッパ、地中海、ロシア東欧、北米、中南米、アジア太平洋などの各地域文化について、文学・芸術・思想・歴史・政治などの観点から論ずる。取り上げる地域は講義ごとに異なる。	S/S1/S2	1または2
	地域文化論Ⅱ	文化の複合的な成り立ちや、文化間の相関関係などを勘案しつつ、ヨーロッパ、地中海、ロシア東欧、北米、中南米、アジア太平洋などの各地域文化について、文学・芸術・思想・歴史・政治などの観点から論ずる。取り上げる地域は講義ごとに異なる。	A/A1/A2	1または2
	比較地域史	世界各地域の歴史の展開を、他地域と比較しつつ検討する。	S/S1/S2/A/A1/A2	1または2
	人種とジェンダー	【D&I科目】近現代社会における人種とジェンダーをめぐる諸問題について考察する。	S	2
日本文化論	日本文化論Ⅰ	日本の文化の特質を、多角的な視点から概観する。	S/A	2
	日本文化論Ⅱ	日本の文化の特質を、個別の思想や人物から考察する。	S/A	2
	日本語日本文学Ⅰ (理科生)	日本語と日本文学について、様々な局面を取り上げてわかりやすく解説する。	S1/A1	1
	日本語日本文学Ⅱ	日本語と日本文学の諸問題を考察する。	S/A	2
古典文化論	東洋古典学	東アジア世界の漢文体で書かれた古典の理解を、講読または講義形式で行う。	S/A	2
	西洋古典学	古代のヘレニズム（ギリシア、ローマ）やヘブライズム（旧約聖書）の歴史、思想、文学について講義と講読を行う。 【2025年度よりS/Aに開講予定】	S	2
歴史世界論	歴史社会論	過去の社会のあり方を現在との相違に留意しながら検討する。	S/S1/S2/A/A1/A2	1または2
	近現代史	日本および世界各地域の近代史・現代史の諸問題を考察する。	S/S1/S2/A/A1/A2	1または2
	歴史と文化	歴史の諸相を文化の動態性に注目しながら検討する。	S/S1/S2/A/A1/A2	1または2
	世界史論	歴史の展開をグローバルな視野のもとに検討する。	S/S1/S2/A/A1/A2	1または2

大科 目名	科 目 名	科 目 の 授 業 内 容	開講予定 セミナー・ターム	単位数
文化人類学	文化人類学Ⅰ	人類の文化・社会的な多様性を出発点として人間社会を考察する学問としての、文化・社会人類学の基本的諸概念を講義する。	S/A	2
	文化人類学Ⅱ	多様に拡がる文化・社会人類学における具体的な諸分野、アプローチを紹介する。	S/A	2
	民族文化論	様々な民族・社会集団の文化の諸相について具体例を挙げながら講義する。	S/S1/S2/ A/A1/A2	1または2
	現代文化人類学	文化・社会人類学における近年の研究成果を踏まえ、その現代的展開、アプローチを紹介する。	S/S1/S2/ A/A1/A2	1または2

## C 社会・制度

大科目名	科目名	科目の授業内容	開講予定セミナー・ターム	単位数
法と社会	法と社会	実定法一般についてさまざまな角度から講義する。それを通じて、法の基本的な考え方を学ぶ。	S/A	2
	日本国憲法	日本の法律制度の基盤をなす日本国憲法をめぐる基本問題を取り上げながら、憲法学の基礎を講義する。	S/S1/S2 及び A/A1/A2	2
	現代と法	現代社会における法的な課題を、様々な法学専門分野から多角的に考察し、法学や諸科学をさらに深く学ぶための視点を提供する。	S	2
	ダイバーシティと法	【D&I科目】現代社会の多様性を法との関わりから理解する。	A	2
現代社会論	現代社会論	現代社会の基本的な特質、およびその具体的な諸形態・諸問題を、理論的分析を通じて明らかにする。	S/A	2
	比較社会論	人間諸社会に見られる様々な社会構造、およびその社会意識を、比較の視点から分析する。	S/A	2
	ジェンダー論	現代社会における性別間の諸問題、ジェンダー、セクシュアリティなどを社会科学的視点から多角的に考察する。	S/A	2
	ジェンダー論 【社会科学】	ジェンダー論における基本的な概念や知識を社会科学的視点から考察する。	S/A	2
	ジェンダー論 【人文学】	性と身体に関する表象の歴史とその理論を人文学的な観点から考察する。	S/A	2
	日本の政治	現代日本の政治行政現象について、理論的かつ実証的に解説する。	S/A	2
	現代と政治	現代の世界各国に見られる政治現象を、様々な政治学専門分野から多角的に考察し、政治学や諸科学をさらに深く学ぶための視点を提供する。	A	2
	性と身体 I	【D&I科目】現代社会におけるジェンダー、セクシュアリティと身体をめぐる諸問題を考察する。	S	2
相関社会科学	性の政治II	【D&I科目】現代社会におけるジェンダーとセクシュアリティにかかわる政治について、理論と事例を通じて考察する。	A	2
	政治経済学	制度政策など政治的要素を踏まえた経済事象への様々なアプローチとその具体的事例への適用を学ぶ。	S/A	2
経済と社会	計量社会科学	統計モデル、数理モデルによって社会現象を記述し、解析するための方法論を学ぶ。またこのような視点から社会を見るとの有用性と問題点についても、平易に解説する。	S/A	2
	現代経済理論	経済学の理論について解説する。現代の経済問題に引きつけた講義の展開に留意する。	S/A	2
	経済政策	経済理論による効果の因果関係の説明をふまえて、経済政策の理論と制度について解説する。	S/A	2

目大 名科	科 目 名	科 目 の 授 業 内 容	開講予定 セミナー・ターム	単位数
教育科学	現代教育論	現代教育のかかえる諸問題について学際的な分析をくわえる。家庭・学校・大学・社会という4つの教育領域における問題について、人文・社会・自然の諸科学の方法論を用いて総合的にアプローチし、教育はいかにあるべきか考えていく。	S・A	2
	教育臨床心理学	現代の教育場面や臨床場面でおこる諸問題について、生物・心理・社会という総合的な視点からアプローチし、臨床心理学の基礎的な枠組みと知識を伝えるとともに、学生のメンタルヘルスに役立つ実際の知識を提供する。	S・A	2
	教育実践・政策学入門	教育に関する様々な事柄を学校経営、授業実践、教育行政、社会教育、図書館等の現場からとらえ、教育の本質について考えていく。 <b>【1年生対象】</b>	A	2
	高等教育論入門	学生にとって最も身近な組織である大学について基本的な知識を学び、その理解を深めつつ、大学とは何か、大学で何を学ぶのかを受講生が考える契機を提供する。 <b>【2025年度より廃止】</b>	A1	1
	教育学のフロンティア	「教育とは何か」「善き人・善き市民になるとはどういうことか」といった教育の最も根本的な問いについて、哲学、歴史学、人間学、臨床哲学といった様々なアプローチから考察し、教育についてさらに深く学ぶための足場を提供する。 <b>【1年生対象】</b>	A	2

D 人 間 ・ 環 境				
大科 目名	科 目 名	科 目 の 授 業 内 容	開講予定 セメスター・ターム	単位数
地 球 環 境 論	環境物質科学	地球規模の物質の循環と地球環境の相互作用について概説する。 <b>【1年生対象】</b>	S・A	2
	生態学	生態系と地球環境の相互作用について概説する。	S・A	2
	社会環境論	環境と人間の関わりを、社会経済的な視点から考察する。	S・A	2
人 間 生 態 学	社会生態学	地表における人間活動を自然と文化との相互作用の視点から論ずる。	S・A	2
	地域生態学	地表における人間活動を地域的・空間的視点から論ずる。	S・A	2
認 知 行 動 科 学	人間行動基礎論 (理科生)	人間の行動や心理に関する実証的研究について概説する。	S/S1/S2/ A/A1/A2	2
	情報認知科学	人間の認知機構を一つの情報処理システムと捉えて概説する。	S/A	2
	認知脳科学	人間の認知機能を脳神経系のメカニズムと対応づけて概説する。	S/S1/S2/ A/A1/A2	2
	適応行動論	人間の行動や心理の適応について進化的視点から概説する。	S/A	2
	社会行動論	個人と個人、個人と社会との関係性とその認知を社会心理学の視点から概説する。	S/A	2
身 体 運 動 科 学	スポーツ・身体運動 実習	様々なスポーツやトレーニングの実習を通じて身体の操作や調節の科学的基礎を学ぶとともに、心身の健康の維持増進を図る。 <b>【2年生対象・週1コマで1単位】</b>	S・A	1
	スポーツ・身体運動 実習Ⅱ	様々なスポーツやトレーニングの実習を通じて身体の操作や調節の科学的基礎を学ぶとともに、心身の健康の維持増進を図る。 <b>【1年生対象・1単位・集中講義】</b>	A	1
	身体運動科学	ヒトの身体の機能と運動に対する適応のメカニズムについて、生命科学、認知行動科学、スポーツ科学などの幅広い分野にわたって学習する。	S・A	2
	健康スポーツ医学	運動やスポーツと健康の関わりについて、主に生活習慣病、スポーツ障害、精神疾患などそれらの予防の観点から学習する。	S/A	2
	身体生命科学	ヒトの身体の機能と適応のメカニズムについて、遺伝子から細胞、組織、個体に至る階層性に基づいて学習し、統合的理解を深める。	S/A	2
	身体運動メカニクス	身体の構造や運動を主に力学的に分析することにより、運動やスポーツを裏打ちする精緻なしくみについての理解を深める。	S/A	2

大科目名	科 目 名	科 目 の 授 業 内 容	開講予定セミナー・ターム	単位数
情報メディア科学	情報メディア基礎論	情報を理解し、情報の知の基本的な枠組みを提示したうえで、自然・文化・社会を情報学の観点から捉えるための概念と方法を講義する。	S	2
	情報メディア伝達論	自然・社会・文化現象を情報およびメッセージの伝達の視点から捉えるための概念と方法を講義する。	S/A	2
	情報メディア表現論	情報を可感化し、表現し、造型する理論と方法とを講義する。	S/A	2
科学技術と倫理	科学技術基礎論Ⅰ	科学・技術と人間社会との関わり合いから生ずる諸問題について、おもに哲学的、倫理的視点から考える。	S/S1/S2/A/A1/A2	1または2
	科学技術基礎論Ⅱ	科学・技術と人間社会との関わり合いから生ずる諸問題について、おもに歴史的、社会的視点から考える。	S/S1/S2/A/A1/A2	1または2
	現代倫理	現代の科学・技術、社会・政治に関わる人間行為の倫理的規範について考察する。	S/S1/S2/A/A1/A2	1または2
	フェミニズム科学論	【D&I科目】近代的な科学知の構築と、ジェンダー／セクシユアリティ研究との接点を考察する。	S	2
科学技術とシステム	科学技術社会論	現代の科学技術の特性を社会との関係において捉える基礎概念と方法論を紹介する。環境、医療、食糧、灾害、原子力など様々な分野の事例分析も同時に扱う。	A	2
	システム論	自然界と人間社会の入り組んだ広域システムを主な対象にして、システム概念、一般システム論、システムズアプローチなど「システム的見方」の見通しを与える。 【2年生対象】	S1	2
現代工学	現代工学概論	工学とは、科学技術を用いて経済的・社会的価値を生み出すための学問である。本講義では、4つのサブテーマ講義を通じて、工学の全体像を把握し、工学の基底をなす基本的な方法論を理解することを目的とする。	A	2
	現代工学基礎Ⅰ	工学がさまざまな価値を生み出すためのアプローチには、目標や問題を特定し、目標達成、問題解決の手段を設計するというニーズ立脚型アプローチと、目標達成、問題解決に活かされる技術を開発するというシーズ指向型アプローチが存在する。本講義では工学で活用される各種の基礎技術について学ぶ。	S/S1/S2/A/A1/A2	1または2
	現代工学基礎Ⅱ	工学がさまざまな価値を生み出すためのアプローチには、目標や問題を特定し、目標達成、問題解決の手段を設計するというニーズ立脚型アプローチと、目標達成、問題解決に活かされる技術を開発するというシーズ指向型アプローチが存在する。本講義では工学で活用される各種の基礎技術について学ぶ。	A/A1/A2	1または2
	社会システム工学基礎Ⅰ	まちづくりにおける各種の問題を解決するためには、単に工学的な技術にとどまらず、法律・経済などの社会制度や歴史・文化的側面まで含めて総合的観点からとらえる必要がある。本講義では具体的な事例を取り上げて社会問題を解決するための工学の基礎的思考方法を学ぶ。	S/S1/S2	1または2
	社会システム工学基礎Ⅱ	まちづくりにおける各種の問題を解決するためには、単に工学的な技術にとどまらず、法律・経済などの社会制度や歴史・文化的側面まで含めて総合的観点からとらえる必要がある。本講義では具体的な事例を取り上げて社会問題を解決するための工学の基礎的思考方法を学ぶ。	A/A1/A2	1または2
	総合工学基礎Ⅰ	工学の対象は宇宙、地球、地域、都市、社会、産業、製品、生活から生命、分子、原子まで多岐にわたる。本講義では目標や課題を特定し、目標達成、問題解決の手段を設計する総合工学のアプローチについて学ぶ。	S/S1/S2	1または2

大科 目名	科 目 名	科 目 の 授 業 内 容	開講予定 セミナー・ターム	単位数
現代工学(統き)	総合工学基礎II	工学の対象は宇宙、地球、地域、都市、社会、産業、製品、生活から生命、分子、原子まで多岐にわたる。本講義では目標や課題を特定し、目標達成、問題解決の手段を設計する総合工学のアプローチについて学ぶ。	A/A1/A2	1または2
	生体医工学基礎 I	周囲の環境に適応しながら生命を維持し、伝えていくのが生体現象の本質であり、その過程で生じた障害への対処が医療診断・治療である。本講義では、生体現象を情報、物質、エネルギーの流れの視点から説明し、工学技術に基づく医療診断・治療の可能性につき議論する。	S/S1/S2	1または2
	生体医工学基礎 II	周囲の環境に適応しながら生命を維持し、伝えていくのが生体現象の本質であり、その過程で生じた障害への対処が医療診断・治療である。本講義では、生体現象を情報、物質、エネルギーの流れの視点から説明し、工学技術に基づく医療診断・治療の可能性につき議論する。	A/A1/A2	1または2
工環境 学 ・ エ ネ ル ギ ー	環境・エネルギー工学概論	環境・エネルギー問題に関する現象、技術、政策等に関する基本知識を解説し、さらに先進環境技術・エネルギー技術の解説を通して工学への理解を深める。	A	2
	環境・エネルギー工学基礎 I	環境・エネルギー問題に関する目標達成、問題解決に向けて工学で活用される各種の基礎技術について学ぶ。	S/S1/S2	1または2
	環境・エネルギー工学基礎 II	環境・エネルギー問題に関する目標達成、問題解決に向けて工学で活用される各種の基礎技術について学ぶ。	A/A1/A2	1または2
医学 ・ 健 康 科 学	ヘルス・サイエンス概論	人間の健康問題について、生命科学・行動科学・情報科学・社会科学などの多様なアプローチを統合し学際的に科学する学問「ヘルスサイエンス」の新しい潮流また問題点について先端的また国際的な視野から紹介する。	S	2
	看護学概論 I	現代の人々の健康問題は、これを身体的、精神的、社会的、靈的に捉えることで、より適切な看護ケアを提供することが出来る。このようなアプローチから、現在の健康問題の課題を提示し、それを解決するための最新の研究成果を紹介する。	S	2
	看護学概論 II	看護学は、あらゆる年代の個人、集団、地域社会を対象に、健康の保持促進、疫病の予防、健康の回復、苦痛の緩和等を支援する科学である。 本講義では、保健・医療・福祉の分野において社会で広く活躍している看護のプロフェッショナルが実際の活動を紹介する。	A	2
環境 ・ 資 源 農 学	環境と生物資源	地球環境の存続にとって、自然生態系の仕組みと人間活動によるその改変の関係を正しく理解することが重要である。持続的な地球環境を維持するために必要な生物多様性の保全、人間活動のあり方について学ぶ。  【2023年度よりA2の開講予定なし】	S	1または2
	食糧と環境	人類にとって最も重要な資源、すなわち食糧を、陸域ならびに水域でどのように生産し、利用しているか。その基礎について、資源管理、環境調和、技術開発の視点から総合的に学ぶ。	S・A2	1または2
	森林環境資源学	森林は巨大性・複雑性・多様性・歴史性・社会性を特徴とする陸上生態系であり、同時に、木材資源の供給や様々な公益的機能を通して私たちの生活に多大な貢献をしている。生態系としての森林の特性を踏まえた森林資源の利用・管理、森林と人間との関わりなどについて幅広く学ぶ。	S	2

大科 目名	科 目 名	科 目 の 授 業 内 容	開講予定 セミナー・ターム	単位数
環境 ・資源農 学 (続 き)	水と土の環境科学	世界の人口の増加に対応して食糧の増産が求められるが、多量の水と土を使う農業は、水資源の開発問題、塩類集積地と土壤の劣化、肥料の溶脱と水質問題などの地域と地球の環境問題を引き起こしている。この問題が生じるメカニズムを科学的に理解し、対策を考える。	S	2
	放射線環境科学	2011年の原発事故において放射性物質が降下した場の多くは農林水畜産業の場であった。本講義では、食の安全と農業環境における放射能汚染の実態とその対策のための知見を学ぶ。受講者は、本講義を通じて、農業環境における放射能汚染の実態把握と放射能汚染からみた食の安全確保への取り組みを理解することが期待される。	A	2
	住環境の科学	地球温暖化などの環境問題に対し、森林資源の有効活用を核とした資源循環型社会への移行が世界的に求められている。本講義では、木材資源の最大の利用分野である木造住宅・木造建築に至るまでの人と木の関わりから、木でつくられた住環境の人に与える影響などについて考える。	S1	1
心 身 発 達 科 学	教育心理学の世界	教育や生活場面での人間のふるまいについて実証的に探究し、それを応用や実践に生かしていくとする、教育心理学の手法と知見について学ぶ。 <b>【1年生対象】</b>	A	2
	心身の実践科学	急速に変化する現代社会を生きていく上で必要な心身の知恵について、理論と実践両面から学び考え、習得していくことを目的とした講義を行う。	S	2

## E 物 質 • 生 命

大科 目名	科 目 名	科 目 の 授 業 内 容	開講予定 セメスター・ターム	単位数
物質科学	振動・波動論	周期的な運動に関する一般的な取り扱い方を学ぶ。	A	2
	解析力学	力学の最も洗練された形式であり、量子論や統計物理学を学ぶ上でも欠かせない、解析力学を学ぶ。	A	2
	相対論	特殊相対論の基礎(光速度の不変性、時空の概念など)を学び、重力などを含む一般相対論にもふれる。	S・A	2
	量子論	ミクロな世界を支配する法則である量子論の基礎概念を学び、様々な量子現象への理解を深める。	S・A	2
	統計物理学	ミクロな原子分子の立場からマクロな物理現象を説明する統計物理学を学ぶ。	S・A	2
	現代物理学	物理学の様々なアプローチを、最先端の研究成果など含めて講義する。	S/A	2
	物理科学 I (文科生)	力学、電磁気学、熱力学を中心に、物理学の成り立ちから基本概念を文科生に理解できるように講義する。	S	2
	物理科学 II (文科生)	現代物理学の話題を極力数式に頼らず説明する。背景にある、物理学法則探求の意義、歴史についての理解も深める。 (物理科学 I を履修してなくても可)	A	2
	有機反応化学	主に有機化学を題材にして、基本的な化学反応の機構などについて論ずる。 <b>【2年生対象・理科生はクラス指定】</b>	S	2
	基礎化学	高校の化学を基礎として、化学が関わる身近な現象や技術を題材にしながら、その根底にある化学的な原理を平易に解説する。基礎科目および専門的な内容を扱う総合科目を学ぶための入門的な内容とする。 <b>【1年生対象・理科生はクラス指定】</b>	S	2
	化学平衡と反応速度	化学反応の基本的原理について、熱力学的な化学平衡と反応速度論から論ずる。 <b>【1年生対象】</b>	A	2
	物質化学 (文科生)	身近な物質の構造・化学的性質と量子論的な考え方の結びつきや、化学平衡・反応と熱力学の関連性など、文科生に理解できるように講義する。	S/S1/S2/ A/A1/A2	2
	超分子化学	超分子とは、分子間相互作用(非共有結合)により秩序だって集合した分子のことである。このような分子間相互作用は、分子骨格を形成する化学結合(共有結合)に比べとても弱いが、生命系の複雑な仕組みと深く関わり、秩序立ったシステムの形成・維持に寄与している。本授業では、ほぼ全ての分子間相互作用を扱い、さらに分子間相互作用の理解を深めるため、分子軌道により解釈される共有結合との比較も行う。 <b>【理科生2年生対象】</b>	S	2
	分子システムの化学	物質、生命に関わる自然現象の具体例を題材に、分子・化学物質のシステムとしてそれらを理解するための基礎を学ぶ。	A	2

大科 目名	科 目 名	科 目 の 授 業 内 容	開講予定 セミナー・ターム	単位数
物質 科学 (続 き)	基礎方程式と その意味	現代物理学には、いくつかの基礎方程式が登場する。そのうちニュートンの運動方程式は前期課程で学習し、他の多くも、理系の学生であれば遠からず（前期または後期課程で）学習することになる。しかしそうした講義の中では、「基礎方程式」のもつ意味が必ずしも十分掘り下げられるとは限らないし、方程式の意味は不間にして、結果のみ援用する場合もある。そこで本講義では現代物理学の大きな柱として、量子力学、および電磁気学・相対論を探り上げ、高校での知識をもとに、それらの基本方程式に最短の時間で到達するという冒険を共有してもらいたい。	S	2
	分子化学概論	多様な最先端化学研究の礎となる基礎概念や新しい技術を学ぶ。	S	2
	化学薬学概論	「人類の健康に奉仕する」ことを目的とする創薬研究を推進するための、有機化学的、物理化学的、分析化学的アプローチについて学ぶ。	S1	1
物質・ 生命工学	物質・生命工学 概論	ナノサイエンスによる物質・材料の探究、バイオや医療、情報・通信、環境や持続可能社会に関わる物質・材料について基礎と最先端を講義する。	A	2
	物質・生命工学 基礎Ⅰ A	物質・材料と生命に関わる基礎科学をベースに、物質・生命工学の基礎とその応用、最先端技術について学ぶ。	S/S1/S2	1または2
	物質・生命工学 基礎Ⅰ B	物質・材料と生命に関わる基礎科学をベースに、物質・生命工学の基礎とその応用、最先端技術について学ぶ。	S/S1/S2	1または2
	物質・生命工学 基礎Ⅱ	物質・材料と生命に関わる基礎科学をベースに、物質・生命工学の基礎とその応用、最先端技術について学ぶ。	A/A1/A2	1または2
生命 科学	動物科学	神経、筋肉、内分泌、免疫など動物に特徴的な生命現象について講ずる。 【Aに開講する場合は1年生対象、Sに開講する場合は2年生対象】	S/A	2
	植物科学	光合成、窒素代謝、植物ホルモンなど植物に特徴的な生命現象について講ずる。 【Aに開講する場合は1年生対象、Sに開講する場合は2年生対象】	S/A	2
	進化学	動植物の適応進化、行動の進化、分子進化など進化学の最前線を講義する。	S・A	2
	現代生命科学Ⅰ (文科生、理一生)	私たちの身の回りの生命現象について、主に動物学の方面から講義を行い、科学的な思考法を学ぶ。	S1/S2/A1	1
	現代生命科学Ⅱ (文科生、理一生)	私たちの身の回りの生命現象について、主に植物学の方面から講義を行い、科学的な思考法を学ぶ。	S1/S2/ A1/A2	1
	分子生命科学	分子生物学の基本的な概念の説明と、その知識を基盤とする最先端の研究の紹介を交互に行う。タンパクの質構造と機能、RNAによる制御、神経細胞の分化、生体リズム、味覚・嗅覚・光覚、学習記憶などのテーマについて講義を行う予定。	A	2
	現代生物学	現代生物学では生命の基本原理とその多様性の解明を目的として、分子からオルガネラ、細胞、組織、器官、個体、集団に至るさまざまなレベルで、多様な生命現象を対象とした研究がなされている。今まさに進展しつつある最先端の生物学について、その基礎を学ぶ。	S	2

大科 目名	科 目 名	科 目 の 授 業 内 容	開講予定 セミスター・ターム	単位数
生命 科学 (続 き)	人類科学	生物としてのヒトをあつかう自然人類学の視点から、人類の進化、ヒトの特異性、現代社会におけるヒトの科学について学習し、我々自身に関する理解を深める。	S	2
	生物情報科学	生物情報科学研究に必要とされる生命科学と情報科学の双方に基礎的な知識と技術を習得する。本講義はバイオインフォマティクス技術者認定制度(Bioinformatics certificate)に準じた、バイオ産業界において即戦力となりうる人材育成のカリキュラムである。	S	2
	生物薬学概論	「人類の健康に奉仕する」ことを目的とする創薬研究を推進するための、分子生物学的、生化学的、遺伝学的アプローチについて学ぶ。	S1	1
宇宙 地 球 科 学	惑星地球科学 I (理科生)	固体地球の起源と成り立ちの概要を説明する。 必要な知識・前提:大学入学までの理科と数学、論理的思考力。	S/A	2
	惑星地球科学 II (理科生)	地球表層の物質循環と生命圈進化の概要を説明する。 必要な知識・前提:大学入学までの理科、論理的思考力。 惑星地球科学 I を受講している必要はない。	S・A	2
	地球惑星物理学入門	地球でおこる多くの現象は、物理学的なアプローチで研究されている。本講義では、このような物理学について基礎方程式を示すとともにその背景にある物理的意味を詳説し、具体的にそれがどのように最新の地球惑星物理学研究の中で使われているかを講義する。	S	2
	地球惑星環境学入門	地球の大気・海洋の起源と進化から始めて、現在の地球の物質や元素の循環を学ぶと共に、それらを基礎にして人類が抱える様々な地球環境問題を考察する。またこれらの議論の基礎となる化学熱力学や化学結合についても解説する。	A	2
	惑星地球科学実習	岩石、地層、化石の解析方法の基礎の概説と実習を行う。 必要な知識・前提:大学入学までの理科。 惑星地球科学の受講を前提としない。 <b>【連続する週2コマで2単位】</b> <b>【2025年度よりS/Aに開講予定】</b>	S	2
	宇宙科学 I (理科生)	宇宙論、銀河・恒星の構造と進化を初步から最先端まで説明する。 必要な知識・前提:大学入学までの理科と数学、論理的思考力。	S・A	2
宇宙 科 学	宇宙科学 II (理科生)	電波観測天文学、X線天文学、光学赤外線天文学等の観測を中心とした天文学の概説を行う。 必要な知識・前提:大学入学までの理科と数学、論理的思考力。宇宙科学 I を受講している必要はない。	S・A	2
	宇宙科学実習 I	観測データを用いた数値実習を通して、基本的な宇宙の姿を理解させる。 必要な知識・前提:大学入学までの理科と数学、論理的思考力。宇宙科学の講義を前提としない。 <b>【連続する週2コマで2単位】</b> <b>【2025年度よりS/Aに開講予定】</b>	S	2
	宇宙科学実習 II	天文データベースを用いた情報処理、画像処理により天体の基本的な姿を理解させる。 必要な知識・前提:大学入学までの理科と数学、論理的思考力。宇宙科学の講義を前提としない。 <b>【連続する週2コマで2単位】</b> <b>【2025年度よりS/Aに開講予定】</b>	S	2

大科 目名	科 目 名	科 目 の 授 業 内 容	開講予定 セメスター・ターム	単位数
宇宙 地 球 科 学 (続 き)	惑星地球科学 I (文科生)	固体地球の起源と成り立ちの概要を説明する。 必要な知識・前提：大学入学までの理科、数学。	S	2
	惑星地球科学 II (文科生)	地球表層の物質循環と生命圈進化の概要を説明する。 必要な知識・前提：大学入学までの理科、数学。	A	2
	宇宙科学 I (文科生)	宇宙論、銀河・恒星の構造と進化を初步から最先端まで説明する。 必要な知識・前提：大学入学までの理科と数学、論理的思考力。	S/A	2
生命 農 学	微生物の科学	微生物とは肉眼では見えない小さな生き物であるが、極めて多様性に富んでおり、驚くべき機能を有している。種々の微生物について、それぞれが示す多様な生命現象を紐解きながら、人類と微生物の関連を考える。	S/A	2
	アグリバイオロジー	私たちの生活を支える食糧や地球環境は、多様な生物の活動や生物同士の相互作用によりもたらされている。食糧、エネルギー、環境などの地球規模の諸問題の解決に不可欠な生物、すなわち農業生物について、その基礎、応用をふくめたさまざまな側面から考える。	A1	1
	植物医科学	あらゆる生物は植物・動物・微生物相互作用が生み出す複雑な地球共生系の中で生きている。そのため、食料生産においても病原微生物や害虫・雑草・貧栄養・気象・有害物質等による多大な犠牲を払いながら収量を確保している。植物医科学とはこれら複雑な生物・環境系を俯瞰的に学ぶために世界で初めて本学で確立した学問分野であり、本科目では食糧生産における植物・微生物・昆虫・栄養分・有害物質・気象等の関わりについて総合的に解説する。	S	2
	応用動物科学 I	哺乳動物が持つ複雑で多様な生命現象、新たなバイオテクノロジーについて最新の情報を含め、オムニバス形式で解説する。主な授業内容は、生物学、発生工学など動物の遺伝子操作、ペットの問題行動など動物の行動学、その他、生殖生物学、細胞生物学にわたる広範な話題が提供される。	S	2
	応用動物科学 II	哺乳動物は種によって体の形態や構造、生理機能、また生態や習性等は異なる（種差）。種差は健康な状態だけではなく、病的な状態においても認められる。多様な種差について比較生物学の立場から考察する。	A	2
	食の科学	食はヒトの生命活動に不可欠であり、栄養素の供給のみならず香り、味覚を介して感覚を刺激し、さらに体内において疾病の発症を遅延・予防する機能性を發揮する。食の持つ機能を多面的角度から学ぶ。	S1	1
	海の生命科学	水圏に生息する生物は実に多様性に富んでいる。水中での生活を可能にするために、陸上生物には見られない特殊な器官やユニークな代謝経路を発達させた種も多い。このような海洋生物の生命現象を様々な観点から学ぶ。	A	2

大科 目名	科 目 名	科 目 の 授 業 内 容	開講予定 セミスター・ターム	単位数
生命農学(続き)	天然物の科学	天然物は、さまざまな生物において、その種に従って分布する化合物の総称である。個体内で機能するものから、種を越えて作用するものまで、その生理作用がおよぶ範囲は広く、かつ、多岐にわたる。医薬品として用いられている天然物は枚挙にいとまがなく、毒物としてわれわれ人類の生活に影響をおよぼす例も多い。2015年ノーベル医学生理学賞を受賞した大村氏の業績は、天然物に関する研究から生まれた。本科目では、天然物の自然界での役割、ならびに、医薬品・毒物としての天然物について学ぶ。なお、受講者は化学の基礎知識を持つことが望ましい。 <b>【2025年度より廃止】</b>	S1	1
	生命現象を司る物質の科学	天然物は、さまざまな生物において、その種に従って分布する化合物の総称である。個体内で機能するものから、種を越えて作用するものまで、その生理作用がおよぶ範囲は広く、かつ、多岐にわたる。医薬品として用いられている天然物は枚挙にいとまがなく、毒物としてわれわれ人類の生活に影響をおよぼす例も多い。2015年ノーベル医学生理学賞を受賞した大村氏の業績は、天然物に関する研究から生まれた。本科目では、天然物の自然界での役割、ならびに、医薬品・毒物としての天然物について学ぶ。なお、受講者は化学の基礎知識を持つことが望ましい。 <b>【2025年度より新設】</b>	S1	1
	生物素材の科学	「生物素材 (bio-based material)」とは生物由来の再生可能資源であるバイオマスから作られる様々な材料や原料のことである。バイオマスをエネルギー・マテリアルとして利用していくために必要なバイオテクノロジー(生物工学)・グリーンケミストリー(環境に優しい応用化学)・マテリアルエンジニアリング(材料工学)を学び、将来バイオマス利用の中核を担う人材を育成する。	S1	1
	森の生物学	森林は陸上生物種の大半を包含する多様性の高い生態系である。森林に存在する多様な生物の生態的特性や相互関係について幅広く学ぶ。	S	2
融合領域科学	自然現象とモデル	自然現象や物質の示す物性現象を演示実験で観察・計測するとともに、その現象を理解するモデル体系を学ぶ。	S	2
	生物物理学	物理学の方法論によって生命現象の基本的統一的理解をめざす学問である生物物理学を、分子・超分子・細胞・システムといった階層ごとに体系的に学ぶ。	A	2
アドバンスト理科	先進科学 I α	物質科学に対する学習意欲の高い学生(20名程度)を対象として、ナノサイエンス、量子物理学、量子情報、分子科学、合成化学などにおける高度で先端的な内容を講じ、課題解決への実践演習を含めたインタラクティブな授業を行う。	S/A	2
	先進科学 II α	生命科学に対する学習意欲の高い学生(20名程度)を対象として、生化学、分子細胞生物学、遺伝学、発生学、進化学などにおける高度で先端的な内容を講じ、課題解決への実践演習を含めたインタラクティブな授業を行う。	S/A	2
	先進科学 III α	複合領域科学に対する学習意欲の高い学生(20名程度)を対象として、ソフトマター、非平衡現象論、システム生物学、宇宙・地球システムなどにおける高度で先端的な内容を講じ、課題解決への実践演習を含めたインタラクティブな授業を行う。	S/A	2

大科 目名	科 目 名	科 目 の 授 業 内 容	開講予定 セミナー・ターム	単位数
理ア 科ド (バ 統ン き)ス ト	先進科学 IV α	生命科学に対する学習意欲の高い学生（20名程度）を対象として、構造生物学、分子細胞生物学、シグナル伝達、創薬などにおける高度で先端的な内容を講じ、課題解決への実践演習を含めたインタラクティブな授業を行う。	S/A	2

※2024年度以前に「天然物の科学」を履修し単位を取得した者が、「生命現象を司る物質の科学」を履修することは認められない。

## F 数理・情報報

大科 目名	科 目 名	科 目 の 授 業 内 容	開講予定 セミナー・ターム	単位数
数理科学	微分積分学統論	多変数関数の微分と積分の続きを学ぶ。 <b>【2年生対象】</b>	S	2
	常微分方程式	常微分方程式の意味とその解法を学ぶ。 <b>【2年生対象・理科生はクラス指定】</b>	S	2
	ベクトル解析	空間におけるベクトル解析の初步を学ぶ。 <b>【2年生対象】</b>	S	2
	解析学基礎	解析学の理論的基礎を学ぶ。	S	2
	数理科学概論Ⅰ (文科生)	極限概念と2変数の微分積分学の基礎を学ぶ。	S・A	2
	数理科学概論Ⅱ (文科生)	数学Ⅱに続き、線型代数学の基礎を学ぶ。	A	2
	数理科学概論Ⅲ (文科生)	数理科学に関するトピックスを選んで数理科学の方法を論じる。	S	2
	数理工学入門	現実問題の解決に用いられる数理的手法の基礎を学ぶ。特に、現実問題のモデル化と問題解決のアルゴリズムに重点を置く。	A/A1/A2	1または2
図と形の科学	統計データ解析Ⅰ	統計ソフトウェアを用いたデータ解析実習によって統計手法の運用とデータハンドリングの方法を習得する。さらに、微分積分学、線型代数学等の前期課程で学ぶ数学との連携によって、数理科学的側面を意識しながら、実験を介して統計手法の合理性と体系を感得することを目標とする。	A	2
	統計データ解析Ⅱ	統計ソフトウェアRの復習の後、高次元大規模データに潜む相関構造を発見し計量する多変量解析、および時系列データの基本的な解析法を学ぶ。統計手法の運用とデータハンドリングを実習することに加え、微分積分学、線型代数学等の前期課程で学ぶ数学と連携し、数理科学的側面を意識しながら、実験を介して統計手法の合理性と体系を感得する。	S	2
	図形科学B	3次元立体形状の図的表現及び形状処理に関して、図法幾何学を中心学び、立体形状の把握・伝達・構想能力を養う。 <b>【2年生対象】</b>	S	2
	図形科学A	3次元立体形状の図的表現及び形状処理に関して、3DCAD/CGソフトを通じて学び、立体形状の把握・伝達・構想能力を養う。 <b>【1年理科生はクラス指定】</b>	A	2
	図形科学演習Ⅰ	3次元立体形状の図的表現及び形状処理に関して、手描き製図や模型製作などの演習を通じて理解を深め、立体形状の把握・伝達・構想能力を養う。 <b>【2年生対象】</b>	S	2
	図形科学演習Ⅱ	コンピュータによる3次元立体形状の図的表現及び形状処理に関して、プログラミングを通じて学び、立体形状の把握・伝達・構想能力を養う。 <b>【2年生対象】</b>	S	2

大科目名	科 目 名	科 目 の 授 業 内 容	開講予定セメスター・ターム	単位数
統 計 学	基礎統計	標本分布、推定、仮説検定など、統計学の基礎について講義する。 【Sセメスターのみ理科生はクラス指定】	S・A	2
	統計分析	分散分析、重回帰分析など、応用統計学について講義する。	S/A	2
情 報 学	アルゴリズム入門	コンピュータによる問題解決の原理と実際とをプログラミングを通じて学習する。 【Aセメスターのみ1年理科生はクラス指定】	S/A	2
	計算機プログラミング	プログラミングの背景にある原理とその実際について学習する。	S/A	2
	計算機システム概論	情報処理の基盤をなす諸要素について、その構成や基本原理を多面的に学ぶ。これを通し、情報科学技術や情報システムの基礎について理解する。 【S1に開講する場合は週2コマで2単位】	S1/S/A	2
	計算の理論	計算とは何か（計算モデル）、計算の限界（計算可能性、計算量理論）など、理論計算機科学への入門	S	2
	情報・システム工学概論	あらゆる分野において情報技術の活用には必須なモデル化手法について、その考え方と基礎を学び、工学分野における適用例を通して理解を深める。	A	2
	情報システム基礎I	情報によって結びつくことで機能するシステムは現代の社会や産業のなかにさまざまな形で現れる。情報システムの原理から工学的実現までを学ぶ。	S/S1/S2	1または2
	情報システム基礎II	情報によって結びつくことで機能するシステムは現代の社会や産業のなかにさまざまな形で現れる。情報システムの原理から工学的実現までを学ぶ。	A/A1/A2	1または2
	モデリングヒューリシス基礎I	物質・社会経済現象、人の認知行動に関するデータを解析しモデルを構築する工学的手法を学ぶ。モデルを用いた計算機ヒューリシスから、予測・制御・設計を行う手法を学習する。	S/S1/S2	1または2
	モデリングヒューリシス基礎II	物質・社会経済現象、人の認知行動に関するデータを解析しモデルを構築する工学的手法を学ぶ。モデルを用いた計算機ヒューリシスから、予測・制御・設計を行う手法を学習する。	A/A1/A2	1または2

(別表 5 )

## 主題科目授業内容概要

科 目 名	授 業 内 容
主題科目	学術フロンティア講義 ある学術分野の最先端の研究動向や領域横断的な主題(テーマ)をめぐって、複数教員がわかりやすく解説するオムニバス式講義である。
	全学自由研究ゼミナール 全学の教員が各自の関心に応じて主題を設定し、概ね40名を上限とする小人数でおこなうゼミナール形式の授業である。
	全学体験ゼミナール 全学の教員が、様々な主題について体験を通じて学ぶ機会を提供する授業である。
	国際研修 国際交流及びグローバルな視野の養成に主眼を置いた学びの場を提供する授業である。海外の大学とのジョイントプログラム、現地の学生との共同見学実習等を含む短期の海外研修、語学研修、あるいは海外の学生との国内研修等、様々な授業形態が考えられる。

(別表6)

### 学部・学科別 要求科目一覧

1. (1) (2) . . . に記載されている全ての科目の修得が要求される。
2. 「または」で記述されているものはいずれかの修得が要求される。
3. ある科目群から所定の総単位数が満たされるように修得することが要求される場合があり、その場合には、例えば「. . .」から3科目(6単位)のように記載されている。

学部	学 科 等	要 求 科 目
法		要求科目を設けない。
経済		要求科目を設けない。
文		要求科目を設けない。
教育		要求科目を設けない。
教養	数理自然科学	<文科全類> (1) 総合科目 F 「微分積分学続論、常微分方程式」(計4単位)
	その他の学科等	要求科目を設けない。
工	電子情報工学 電気電子工学	<文科全類> (1) 基礎科目(社会科学)・基礎科目(数理科学) 「数学I」(2単位)または「微分積分学①、微分積分学②」 (3単位) (2) 基礎科目(社会科学)・基礎科目(数理科学) 「数学II」(2単位)または「線型代数学①、線型代数学②」 (3単位)
	応用物理・物理工学	<文科全類> (1) 基礎科目(数理科学) 「微分積分学①、微分積分学②、線型代数学①、線型代数学②」 (計6単位) (2) 基礎科目(物質科学) 「力学、電磁気学」(計4単位)
	応用化学	<文科全類> (1) 基礎科目(基礎実験) 「基礎実験I、基礎実験II、基礎実験III」(計3単位) または「基礎物理学実験、基礎化学実験、基礎生命科学実験」 (計3単位) (2) 基礎科目(物質科学) 「力学、電磁気学、熱力学または化学熱力学、構造化学、 物性化学」から4科目(計8単位) (3) 基礎科目(社会科学)・基礎科目(数理科学) 「数学I」(2単位)または「微分積分学①、微分積分学②」 (3単位) (4) 基礎科目(社会科学)・基礎科目(数理科学) 「数学II」(2単位)または「線型代数学①、線型代数学②」 (3単位)

工 (続き)	その他の学科	要求科目を設けない。
理	数学 情報科学	<p>&lt;文科全類&gt;</p> <p>(1) 基礎科目(数理科学)            「数理科学基礎、微分積分学①、微分積分学②、線型代数学①、線型代数学②、微分積分学演習、線型代数学演習」            (計10単位)</p> <p>(2) 基礎科目(物質科学)            「力学、電磁気学、熱力学または化学熱力学、構造化学」            (計8単位)</p>
	物理学 天文学 化学	<p>&lt;文科全類&gt;</p> <p>(1) 基礎科目(基礎実験)            「基礎実験Ⅰ、基礎実験Ⅱ、基礎実験Ⅲ」(計3単位)            または「基礎物理学実験、基礎化学実験、基礎生命科学実験」            (計3単位)</p> <p>(2) 基礎科目(数理科学)            「数理科学基礎、微分積分学①、微分積分学②、線型代数学①、線型代数学②、微分積分学演習、線型代数学演習」            (計10単位)</p> <p>(3) 基礎科目(物質科学)            「力学、電磁気学、熱力学または化学熱力学、構造化学、物性化学」(計10単位)</p> <p>(4) 基礎科目(生命科学)            「生命科学、生命科学Ⅰ、生命科学Ⅱ」から1科目            (2単位または1単位)</p>
	地球惑星物理学	<p>&lt;文科全類&gt;</p> <p>(1) 基礎科目(数理科学)            「数理科学基礎、微分積分学①、微分積分学②、線型代数学①、線型代数学②」(計8単位)</p> <p>(2) 基礎科目(物質科学)            「力学、電磁気学、熱力学または化学熱力学」(計6単位)</p>
	地球惑星環境学	<p>&lt;文科全類&gt;</p> <p>(1) 基礎科目(数理科学)・基礎科目(社会科学)・総合科目F            「数理科学基礎、微分積分学①、微分積分学②、線型代数学①、線型代数学②」(計8単位)            または「数理科学概論Ⅰ(文科生)、数理科学概論Ⅱ(文科生)」            (計4単位)            または「数理科学概論Ⅰ(文科生)」「数学Ⅱ」            (計4単位)</p> <p>(2) 基礎科目(物質科学)・総合科目E            「力学、電磁気学、熱力学または化学熱力学、構造化学、物性化学」から4科目(計8単位)            または「力学、電磁気学、物質化学(文科生)、物理科学Ⅰ(文科生)、地球惑星環境学入門」から2科目            (計4単位)</p> <p>(3) 基礎科目(生命科学)・総合科目E            「生命科学、生命科学Ⅰ、生命科学Ⅱ」から1科目            (2単位または1単位)</p>

理 (続き)		または「現代生命科学Ⅰ(文科生、理一生)、 現代生命科学Ⅱ(文科生、理一生)、微生物の科学、進化学」 から 1 科目 (2 単位または 1 単位)
	生物化学 生物情報科学 生物学	<文科全類> (1) 基礎科目 (基礎実験) 「基礎実験Ⅰ、基礎実験Ⅱ、基礎実験Ⅲ」 (計 3 単位) または「基礎物理学実験、基礎化学実験、基礎生命科学実験」 (計 3 単位) (2) 基礎科目 (数理科学) 「数理科学基礎、微分積分学①、微分積分学②、線型代数学①、 線型代数学②」 (計 8 単位) (3) 基礎科目 (物質科学) 「力学、電磁気学、熱力学または化学熱力学、構造化学、 物性化学」から 4 科目 (計 8 単位) (4) 基礎科目 (生命科学) 「生命科学、生命科学Ⅰ、生命科学Ⅱ」から 1 科目 (2 単位または 1 単位)
農	生命化学・工学	<文科全類> (1) 基礎科目 (生命科学) ・ 総合科目 E 「生命科学、生命科学Ⅰ、生命科学Ⅱ」から 1 科目 (2 単位または 1 単位) または「現代生命科学Ⅰ(文科生、理一生)、 現代生命科学Ⅱ(文科生、理一生)」から 1 科目 (1 単位) (2) 基礎科目 (基礎実験) 「基礎化学実験、基礎生命科学実験」 から 1 科目 (計 1 単位)
	獣医学	<文科全類> (1) 基礎科目 (生命科学) 「生命科学、生命科学Ⅰ、生命科学Ⅱ」から 1 科目 (2 単位または 1 単位)
	応用生物学 森林生物科学 水圏生物科学 動物生命システム科学 生物素材化学 緑地環境学 森林環境資源科学 木質構造科学 生物・環境工学 農業・資源経済学 フィールド科学 国際開発農学	要求科目を設けない。
薬	薬科学、薬学	<文科全類> (1) 基礎科目 (物質科学) ・ 基礎科目 (生命科学) 「物性化学、熱力学または化学熱力学、生命科学または 生命科学Ⅰ」から 2 科目 (計 4 単位または 3 単位)

医	医学	<p>&lt;理科一類&gt;</p> <p>(1) 基礎科目（生命科学） 理科二・三類生の「生命科学Ⅰ、生命科学Ⅱ」から 1科目（2単位）</p> <p>&lt;文科全類&gt;</p> <p>(1) 基礎科目（生命科学） 「生命科学Ⅰ、生命科学Ⅱ」から1科目（2単位）</p> <p>(2) 基礎科目（基礎実験） 「基礎物理学実験、基礎化学実験、基礎生命科学実験」から 1科目（1単位）</p>
	健康総合科学	要求科目を設けない。

(別表 7 )

### 学部・学科別 要望科目一覧

学部	学 科 等	要 望 科 目
法		要望科目を設けない。
経済		要望科目を設けない。
文	A群（思想文化）	展開科目「人文科学ゼミナール」
	その他の群	要望科目を設けない。
教育	教育実践・政策学	総合科目C 「教育実践・政策学入門」
	その他のコース	要望科目を設けない。
教養	総合社会科学	展開科目「社会科学ゼミナール」
	数理自然科学	<理科全類> 総合科目E 「振動・波動論、解析力学」 総合科目F 「ベクトル解析、常微分方程式、微分積分学続論、 解析学基礎」
	スポーツ科学	総合科目D 「身体運動科学、健康スポーツ医学、身体生命科学、 身体運動メカニクス」
	国際日本研究 国際環境学 (PEAK後期)	要望科目を設けない。 ただし、TOEFL iBT100点以上、IELTS 7.0以上に相当する高い水準の英語力 (スピーキングやライティングの能力を含む) を強く要望する。
	その他の学科等	要望科目を設けない。
	社会基盤学A 社会基盤学B 社会基盤学C	総合科目D 「社会システム工学基礎 I～東京のインフラストラクチャー」 総合科目D 「社会システム工学基礎 II～人間社会と交通システム」 総合科目D 「現代工学基礎 I～社会イノベーションと国際プロジェクト」
工	建築学	総合科目D 「社会システム工学基礎 I ～建築空間のデザイン&リサーチ」 総合科目F 「図形科学A、図形科学B」
	都市環境工学 都市計画	総合科目D 「社会システム工学基礎 II～東京の都市計画」
	機械工学A	総合科目D 「現代工学基礎 I～四力学とデザイン入門」
	機械工学B	総合科目F 「情報システム基礎 II～ロボット・AI・VRと人間」
	航空宇宙学	総合科目F 「図形科学A、図形科学B、図形科学演習 I、 図形科学演習 II」
	電子情報工学 電気電子工学	<文科全類> 基礎科目(物質科学) 「力学、電磁気学」

工 (続き)	応用物理・物理工学	総合科目 E 「振動・波動論」 総合科目 F 「微分積分学統論、常微分方程式」
	計数工学 ・数理/システム情報	<p>〈文科・理科全類〉</p> <p>総合科目 D 「現代工学基礎 I ~ 物理情報システム工学」</p> <p>総合科目 E 「振動・波動論」</p> <p>総合科目 F 「数理工学入門、微分積分学統論、常微分方程式、ベクトル解析、アルゴリズム入門」</p> <p>〈文科全類〉</p> <p>以下の(1), (2)のいずれかの科目群:</p> <p>(1) 基礎科目 (社会科学) 「数学 I、数学 II」 および 総合科目 F 「数理科学概論 I (文科生)、数理科学概論 II (文科生)」</p> <p>(2) 基礎科目 (数理科学) 「微分積分学①、微分積分学②、線型代数学①、線型代数学②」</p>
	応用化学	総合科目 E 「基礎化学」
	化学システム工学	総合科目 E 「基礎化学」
	化学生命工学	総合科目 E 「基礎化学」
	精密工学 マテリアル工学A マテリアル工学B マテリアル工学C システム創成A システム創成B システム創成C	要望科目を設けない。
理	数学	基礎科目 (数理科学) 「数理科学基礎演習、数学基礎理論演習」 総合科目 F 「微分積分学統論、常微分方程式、ベクトル解析、解析学基礎」
	情報科学	<p>基礎科目 (物質科学) 「物性化学」</p> <p>基礎科目 (生命科学) 「生命科学、生命科学 I、生命科学 II」</p> <p>総合科目 A 「記号論理学 I (文科生)、記号論理学 I (理科生)、記号論理学 II」</p> <p>総合科目 F 「微分積分学統論、常微分方程式、ベクトル解析、解析学基礎、アルゴリズム入門、計算機プログラミング、計算機システム概論、計算の理論」</p>
	物理学	総合科目 E 「振動・波動論」 総合科目 F 「アルゴリズム入門」
	天文学	総合科目 E 「振動・波動論、現代物理学、宇宙科学 I (理科生)、宇宙科学 II (理科生)、宇宙科学実習 I、宇宙科学実習 II」 総合科目 F 「基礎統計」

理 (続き)	地球惑星物理学	総合科目 E 「振動・波動論、統計物理学、惑星地球科学 I (理科生)、惑星地球科学 II (理科生)、地球惑星物理学入門、宇宙科学 I (理科生)、宇宙科学 II (理科生)、惑星地球科学 I (文科生)、惑星地球科学 II (文科生)、宇宙科学 I (文科生)」
	地球惑星環境学	総合科目 D 「地球環境論、環境物質科学、生態学、社会環境論」 総合科目 E 「動物科学、惑星地球科学 I (理科生)、惑星地球科学 II (理科生)、地球惑星物理学入門、地球惑星環境学入門、宇宙科学 I (理科生)、宇宙科学 II (理科生)、分子生命科学、植物科学」
	化学	基礎科目 (数理科学) 「数理科学基礎演習、数学基礎理論演習」 総合科目 D 「環境物質科学」 総合科目 E 「振動・波動論、有機反応化学、化学平衡と反応速度、動物科学、植物科学、分子生命科学」 総合科目 F 「微分積分学統論、常微分方程式、ベクトル解析、解析学基礎」
	生物化学 生物情報科学 生物学	総合科目 E 【物質科学】の科目 総合科目 E 【生命科学】の科目 特に「分子生命科学、現代生物学、生物情報科学」 総合科目 F 【統計学】の科目
農	生物素材化学	総合科目 E 「生物素材の科学～バイオマスの科学」
	農業・資源経済学	<理科全類> 総合科目 C 「政治経済学、現代経済理論、経済政策」 <文科全類> 基礎科目 (社会科学) 「経済 I 、経済 II 」
	生命化学・工学 応用生物学 森林生物科学 水圏生物科学 動物生命システム科学 緑地環境学 森林環境資源科学 木質構造科学 生物・環境工学 フィールド科学 国際開発農学 獣医学	要望科目を設けない。
薬		総合科目 E 「化学薬学概論、生物薬学概論、有機反応化学」
医		要望科目を設けない。

(別表8)

## 学部・学科別 指定平均点一覧

本表には「基本平均点」の算出方式等と異なる部分のみが記載されている。それ以外は、「VII 進学選択 [参考] 4. 進学選択に用いられる評点 (1) 評点の算出方式 ①~⑧」(p.56-57) の記載事項が適用される。

学部	学 科 等	対象となる 進学選択の 段階	平均点算出方式の詳細																								
教養	超域文化 科学	第二段階 第三段階	<p>「超域文化科学分科第二段階・第三段階指定平均点」の計算に算入される科目、単位、及び重率(単位あたりの重み)は、以下のとおりである。</p> $\text{「超域文化科学分科 第二段階・第三段階 指定平均点」} = \frac{\text{全履修科目※の(評点} \times \text{単位数} \times \text{重率*}) \text{の総計}}{\text{全履修科目※の(単位数} \times \text{重率*}) \text{の総計}}$ <p>※ 合格・不合格のみの評価による科目は含めない。          * 成績評価が評点で行われる全履修科目のうち、評点の高いものから上位6割の科目的重率を「1」、その他の科目的重率を「0.1」とする。「上位6割」の科目的決定にあたり、科目数の小数点以下は四捨五入する。</p>																								
工	全学科	第一段階 第二段階 第三段階	<p>「工学部指定平均点」は、次の式で算出される。</p> $\text{「工学部 指定平均点」} = \frac{\text{各科目の(下記換算表に基づく工学部評点} \times \text{単位数} \times \text{重率}) \text{の総計}}{\text{各科目の(単位数} \times \text{重率}) \text{の総計}}$ <p><b>評点換算表</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評点</th> <th>0 ~ 49</th> <th>50 ~ 54</th> <th>55 ~ 59</th> <th>60 ~ 64</th> <th>65 ~ 69</th> <th>70 ~ 74</th> <th>75 ~ 79</th> <th>80 ~ 84</th> <th>85 ~ 89</th> <th>90 ~ 94</th> <th>95 ~ 100</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>工学部 評点</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>8</td> <td>9</td> <td>10</td> </tr> </tbody> </table> <p>「工学部指定平均点」の計算に算入される科目、単位、及び重率(単位あたりの重み)のうち、「基本平均点」と異なる点は以下のとおりである。</p> <p><b>文科一類・二類・三類生</b> (中略)</p> <p>8) 上記以外で2S2ターム・2Sセメスターまでに単位取得した基礎科目 (重率0.1または1) (注4)      9) 上記以外で2S2ターム・2Sセメスターまでに履修科目登録した展開科目・総合科目 (重率0.1または1) (注4)      (注4)算入することにより「工学部指定平均点」が大きくなる場合に限り重率1。小さくなる場合は重率0.1。</p> <p><b>理科一類・二類・三類生</b> (中略)</p> <p>6) 2S2ターム・2Sセメスターまでに単位取得した任意選択の基礎科目 (重率0.1または1) (注3)      7) 上記以外で2S2ターム・2Sセメスターまでに履修科目登録した展開科目・総合科目 (重率0.1または1) (注3)      (注3)算入することにより「工学部指定平均点」が大きくなる場合に限り重率1。小さくなる場合は重率0.1。</p>	評点	0 ~ 49	50 ~ 54	55 ~ 59	60 ~ 64	65 ~ 69	70 ~ 74	75 ~ 79	80 ~ 84	85 ~ 89	90 ~ 94	95 ~ 100	工学部 評点	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
評点	0 ~ 49	50 ~ 54	55 ~ 59	60 ~ 64	65 ~ 69	70 ~ 74	75 ~ 79	80 ~ 84	85 ~ 89	90 ~ 94	95 ~ 100																
工学部 評点	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10																

工 (続き)		<p>「工学部指定平均点」について、p.56の(1)②～⑦の記載事項と異なる点は以下のとおりである。</p> <p style="text-align: center;">(中略)</p> <p>④ 総合科目について、重率「1」となる最終順位の科目が2単位科目で重率「1」の対象内外にまたがる場合は、2単位のうち1単位が重率「1」、1単位が重率「0.1または1」で「工学部指定平均点」に算入される。</p> <p>⑤ 総合科目D系列「スポーツ・身体運動実習」、「スポーツ・身体運動実習Ⅱ」及び「スポーツ・身体運動実習Ⅰ(P-EAK)」、「スポーツ・身体運動実習Ⅱ(P-EAK)」について、「工学部指定平均点」に重率「1」で算入されるのは合わせて2単位まで、重率「0.1または1」で算入されるのは1単位までである。</p> <p style="text-align: center;">(中略)</p>
	システム 創成A システム 創成B システム 創成C	<p>第二段階</p> <p>「システム創成学科第二段階指定平均点」は、次の式で算出される。</p> <p style="text-align: center;">「システム創成学科 第二段階指定平均点」 = 「工学部指定平均点」×取得単位数(上限90単位)※</p> <p>※ 取得単位数(上限90単位)には、合格・不合格のみの評価による科目を含む。</p> <p>その他は、「工学部指定平均点」の記載と同様である。</p>
農	<p>生命化学・ 工学を除く 全専修 (応用生物学 森林生物科 学 水圈生物科 学 動物生命シ ステム科学 生物素材化 学 緑地環境学 森林環境資 源科学 木質構造科 学 生物・環境 工学 農業・資源 経済学 フィールド 科学 国際開発農 学 獣医学)</p>	<p>第一段階 第三段階</p> <p>「農学部第一段階・第三段階指定平均点」は、次の式で算出される。</p> <p style="text-align: center;">「農学部第一段階 ・第三段階指定平均点」 = 「基本平均点」×取得単位数(上限90単位)※</p> <p>※ 取得単位数(上限90単位)には、合格・不合格のみの評価による科目を含む。</p>

## 学部・学科別 重率・履修点一覧

## 1. 重率

学部	学 科 等	対象となる進学選択の段階	重 率 を か け る 科 目 等
教養	地域文化研究	第一段階 第二段階 第三段階	基礎科目（既修外国語）の成績上位4単位、及び基礎科目（初修外国語※）の成績上位4単位の重率を「1. 5」とする。 ※外国語を「既修・既修」の組合せで履修している場合は、初修外国語相当として入学時に選択した外国語。
	総合社会科学	第一段階 第二段階 第三段階	基礎科目（社会科学）の成績上位8単位までの重率を「2」とする。 (履修登録した科目のみを対象とし、8単位に満たない場合は、履修登録した科目の単位のみに重率をかける。) 総合科目について、下記の大科目に属する科目の成績上位4単位の重率を「2」とする。 A【現代哲学】【思想史・科学史】 B【国際関係論】【歴史世界論】 C【法と社会】【現代社会論】【相関社会科学】 【経済と社会】 F【統計学】 (履修登録した科目のみを対象とし、4単位に満たない場合は、履修登録した科目の単位のみに重率をかける。)
数理自然科学		第一段階 第二段階 第三段階	<理科全類> 基礎科目（情報）、基礎科目（自然科学）の成績上位8単位の重率を「1. 5」とする。
物質基礎科学		第一段階 第二段階 第三段階	基礎科目（自然科学） 総合科目E「振動・波動論、解析力学、相対論、量子論、統計物理学、有機反応化学、化学平衡と反応速度、分子システムの化学、現代生命科学I（文科生、理一生）、現代生命科学II（文科生、理一生）、自然現象とモデル、生物物理学」のうち成績上位8単位の重率を「2」とする。 (履修登録した科目のみを対象とし、8単位に満たない場合は、履修登録した科目の単位のみに重率をかける。)
統合生命科学		第一段階 第二段階 第三段階	基礎科目（自然科学）「力学、熱力学、化学熱力学、物性化学、生命科学、生命科学I、生命科学II」 総合科目E「振動・波動論、有機反応化学、化学平衡と反応速度、物質化学（文科生）、動物科学、植物科学、現代生命科学I（文科生、理一生）、現代生命科学II（文科生、理一生）、生物物理学」の成績上位8単位の重率を「1. 5」とする。 (履修登録した科目のみを対象とし、8単位に満たない場合は、履修登録した科目の単位のみに重率をかける。)
国際日本研究 (PEAK後期)		第一段階 第二段階 第三段階	基礎科目（既修外国語）「英語」の全科目の重率を「2」とする。

工	社会基盤学A 社会基盤学B 社会基盤学C 建築学 機械工学A 機械工学B 航空宇宙学 精密工学 電子情報工学 電気電子工学 応用物理・物理工学 計数工学・数理/システム情報 マテリアル工学A マテリアル工学B マテリアル工学C 応用化学 化学システム工学 化学生命工学 システム創成A システム創成B システム創成C	第一段階 第二段階 第三段階	基礎科目「初年次ゼミナール文科」の2単位の重率を「0(ゼロ)」とする。
	計数工学・数理/システム情報	第二段階 第三段階	<p>基礎科目（数理科学） 「数理科学基礎、微分積分学①、微分積分学②、線型代数学①、線型代数学②」</p> <p>基礎科目（物質科学） 「力学、電磁気学」の重率を「2」とする。</p> <p>基礎科目「情報」</p> <p>基礎科目（物質科学） 「熱力学または化学熱力学、構造化学、物性化学」</p> <p>基礎科目（生命科学） 「生命科学、生命科学Ⅰ、生命科学Ⅱ」の重率を「1.5」とする。</p>
理	数学 情報科学 物理学 天文学 地球惑星環境学 化学 生物学 生物情報科学	第一段階 第二段階 第三段階	要求科目的重率は全て「1」とする。
	地球惑星物理学	第一段階 第二段階 第三段階	<p>基礎科目（数理科学） 「数理科学基礎、微分積分学①、微分積分学②、線型代数学①、線型代数学②」</p> <p>基礎科目（物質科学） 「力学、電磁気学、熱力学または化学熱力学」の計14単位の重率を「2」とする。</p>
	生物化学	第一段階 第二段階	理科生については、総合科目EおよびFの成績上位6単位までの重率を「2」とする。 (単位取得した科目のみを対象とし、6単位に満たない場合は、単位取得した科目のみに重率をかける。)

農	応用生物学 緑地環境学	第二段階	基礎科目の成績上位 16 単位、 及び総合科目の成績上位 4 単位の重率を「5」とする。
	森林生物科学 森林環境資源科学	第二段階	基礎科目と総合科目の成績上位 20 単位の重率を「5」とする。
	水圈生物科学	第二段階	<理科全類> 基礎科目（自然科学）の成績上位 6 単位、 及び総合科目 A～F の成績上位 6 単位の重率を「5」とする。 (総合科目 A～F について、単位取得した科目のみを対象とし、6 単位に満たない場合は、単位取得した科目のみに重率をかける。)
	生物素材化学 木質構造科学	第二段階	<理科全類> 基礎科目（自然科学）の成績上位 10 単位、 及び総合科目 D・E・F の成績上位 4 単位の重率を「5」とする。 (総合科目 D・E・F について、単位取得した科目のみを対象とし、4 単位に満たない場合は、単位取得した科目のみに重率をかける。)
	農業・資源経済学	第二段階	<文科全類> 基礎科目（社会科学）「経済Ⅰ、経済Ⅱ」の 2 科目 4 単位の重率を「2」とする。 (単位取得した科目のみを対象とし、4 単位に満たない場合は、単位取得した科目のみに重率をかける。) <理科全類> 総合科目 C 「政治経済学、現代経済理論、経済政策」の 3 科目 6 単位の重率を「2」とする。 (単位取得した科目のみを対象とし、6 単位に満たない場合は、単位取得した科目のみに重率をかける。)
	フィールド科学	第二段階	基礎科目の成績上位 10 単位の重率を「5」とする。
薬		第二段階	基礎科目（既修外国語・初修外国語）と総合科目 I 「国際コミュニケーション」「外国語初級、外国語中級、外国語上級」のうち成績上位 20 単位の重率を「2」とする。 (単位取得した科目のみを対象とし、20 単位に満たない場合は、単位取得した科目のみに重率をかける。)
		第一段階	要求科目的重率は全て「1」とする。
		第三段階	
医		第一段階	要求科目の重率は全て「1」とする。
		第二段階	
		第三段階	

※「成績上位〇単位」とある場合、「成績上位〇単位」の中に 1 単位科目を含み、〇単位目が 2 単位科目となる場合、2 単位のうち 1 単位に重率をかけ、もう 1 単位には重率をかけない。

## 2. 履修点とその加点方法

学部	学 科 等	対象となる進学選択の段階	履修点を加算する科目等
教養	国際日本研究 (PEAK後期)	第一段階 第二段階 第三段階	主題科目「学術フロンティア講義(PEAK) (Introduction to Japan in East Asia)」 の修得に対し、履修点として「1点」を加点する。
工	機械工学A 機械工学B 精密工学 電子情報工学 電気電子工学 マテリアル工学A マテリアル工学B マテリアル工学C 応用化学 化学システム工学	第一段階 第二段階 第三段階	総合科目D 「現代工学概論」 総合科目D 「環境・エネルギー工学概論」 総合科目E 「物質・生命工学概論」 総合科目F 「情報・システム工学概論」 の修得に対し、いずれか1科目を履修点として「0.1点」を 加点する。
	航空宇宙学	第二段階 第三段階	総合科目F 「図形科学A、図形科学B」 の修得に対し、いずれか1科目を履修点として「0.1点」を 加点する。
理	地球惑星物理学	第一段階 第二段階 第三段階	総合科目E 「振動・波動論、統計物理学、 惑星地球科学Ⅰ（理科生）、 惑星地球科学Ⅱ（理科生）、 地球惑星物理学入門、 惑星地球科学Ⅰ（文科生）、 惑星地球科学Ⅱ（文科生）」 の修得に対し、履修点として各「1点」2科目最大2点を加 点する。
	地球惑星環境学	第二段階	<理科全類> 総合科目D 「地球環境論、環境物質科学、生態学、 社会環境論、水と土の環境科学、 放射線環境科学」 総合科目E 「分子システムの化学、動物科学、 植物科学、進化学、分子生命科学、 人類科学、惑星地球科学Ⅰ（理科生）、 惑星地球科学Ⅱ（理科生）、 地球惑星物理学入門、地球惑星環境学入門、 惑星地球科学実習、宇宙科学Ⅰ（理科生）、 宇宙科学Ⅱ（理科生）、微生物の科学、 海の生命科学、自然現象とモデル」 <文科全類> 総合科目D 「地球環境論、環境物質科学、生態学、 社会環境論、水と土の環境科学、 放射線環境科学」 総合科目E 「物理科学Ⅰ（文科生）、 物理科学Ⅱ（文科生）、 化学平衡と反応速度、物質化学（文科生）、 分子システムの化学、動物科学、 植物科学、進化学、分子生命科学、 人類科学、地球惑星物理学入門、 地球惑星環境学入門、惑星地球科学実習、 惑星地球科学Ⅰ（文科生）、 惑星地球科学Ⅱ（文科生）、 宇宙科学Ⅰ（文科生）、微生物の科学、 海の生命科学、自然現象とモデル」 の修得に対し、履修点として各「0.5点」4科目最大2点 を加点する。

理 (続き)	生物化学	第一段階 第二段階	総合科目E 「分子生命科学、現代生物学」の修得に対し、履修点として各「1点」 2科目最大2点を加点する。
	生物学	第一段階 第二段階	総合科目E 「現代生物学」の修得に対し、履修点として「2点」を加点する。

(別表 10)

### 学部・学科別 面接・志望理由書一覧

#### 1. 面接

学部	学 科 等	対象となる 進学選択の段階	面 接 の 詳 細
工	社会基盤学A 社会基盤学B 社会基盤学C	第二段階	志望理由書の記述内容を参考にして面接を実施する場合もあり得る。
理	地球惑星物理学	第三段階	志望理由書の記述内容を参考にして面接を実施する場合もあり得る。
	地球惑星環境学	第三段階	志望理由書の記述内容を参考にして面接を実施する場合もあり得る。
農	全ての専修	第三段階	各進学単位（専修）の判断で、面接を実施する場合もあり得る。
薬		第三段階	面接を実施する場合もあり得る。
医	医学	第二段階 第三段階	医学科、健康総合科学科ともに面接を重視しており、学生と直接面談して、医学部研究者又は医療者を目指す意志や医療者としての適性を確認することを意図している。 学力（平均点）、志望理由書、面接を通して総合的に評価し順位づけを行う。 特に、医学科については、下記の「期待する学生像」を参照のこと。 <a href="https://www.m.u-tokyo.ac.jp/information/gakuseizou.html">https://www.m.u-tokyo.ac.jp/information/gakuseizou.html</a>
	健康総合科学	第三段階	

#### 2. 志望理由書

学部	学 科 等	対象となる 進学選択の段階	志 望 理 由 書 の 詳 細
工	全ての学科	第二段階 第三段階	工学部の進学単位をいずれかひとつでも志望する場合は、後期課程に向けての抱負や自己アピールについて 800 字程度で入力すること。複数の進学単位を志望する場合も、志望理由書は共通であり、入力は一通のみとする。
教育	全てのコース	第二段階 第三段階	当該コースを志望する理由、自己アピール、自己の将来像などについて 800 字程度で入力すること。
理	地球惑星物理学	第三段階	1200 字程度の志望理由書
	地球惑星環境学	第三段階	1200 字程度の志望理由書
医	医学	第二段階 第三段階	「1. 中学校卒業時からの学歴・経歴」、「2. 医学科を志望する理由」、「3. 志望理由をふまえたうえでの大学入学後の活動歴」をあわせて 1500 字程度で入力すること。
	健康総合科学	第二段階 第三段階	3 専修（環境生命科学、公共健康科学、看護科学）のどれを志望するかを含め、800 字以上 1500 字以内で入力すること。

※他人の文章を剽窃することや、本人以外が志望理由書を作成することは、当然のことながら行わないこと。

# 参考

(別表 1 1)

※この表は、2024年度入学者が対象となる2026年度進学選択の受入予定数の現時点での(案)であり、定数等の変動がありえますので参考程度にご覧ください。なお、実際の2026年度進学選択の受入予定数は2025年の4月に発表される「2026年度版 進学選択の手引き」に記載されます。

## 各学部進学者受入予定数(案)

進学者受入予定数表において、定数がない場合は「---」で示されている。  
第一段階で定数を充足されなかったとき第二段階に定数がまわされる可能性のある場合は、「空白」で示されている。

### 法学部

学部	類	定 数	第一段階定数		第二段階定数			全科類
			指定科類		全科類	指定科類		
			文科 一類	理科		文科 一類	文科 二・三 類	理科
法 420 名	第1類、第2類、第3類	420	277	4	12	80	2	2 43

### 経済学部

学部	学科	定 数	第一段階定数		第二段階定数			全科類	
			指定科類		全科類	指定科類			
			文科 二類	理科		文科 二類	理科		
経済 340 名	経済学科、経営学科、金融学科	340	189	7	42	81	3	18	

### 文学部

学部	学科	コース	群	専修課程	定 数	第一段階定数		第二段階定数	
						指定 科類	全 科 類	指定 科類	全 科 類
						文科 三類		文科 三類	
文 367 名	人文	思想文化	A	哲学	70	40	9	9	12
				中国思想文化学					
				インド哲学仏教学					
				倫理学					
				宗教学宗教史学					
				美学芸術学					
				イスラム学					

文 (続き)	人文	歴史文化	B	日本史学	25	16	2	3	4
			C	東洋史学	23	13	2	4	4
			D	西洋史学	25	16	2	3	4
			E	考古学	10	4	1	3	2
			F	美術史学	15	9	2	2	2
		言語文化	G	言語学	106	62	14	15	15
				国語学					
				国文学					
				中国語中国文学					
				インド語インド文学					
				英語英米文学					
				ドイツ語ドイツ文学					
				フランス語フランス文学					
				スラヴ語スラヴ文学					
				南欧語南欧文学					
				現代文芸論					
				西洋古典学					
		心理学	H	心理学	23	15	2	2	4
		社会心理学	I	社会心理学	20	12	2	3	3
		社会学	J	社会学	50	26	8	9	7

## 教育学部

学部	学 科	専 修	コース	定数	第一段階定数		第二段階定数			
					指定科類		全科類	指定科類		
					文科 三類	理科		文科 三類	理科	
教育 100 名	総合教育科学	教育学※	教育学※	19	9	---	3	4	---	3
		教育社会科学	比較教育社会学	17	9	---	3	3	---	2
			教育実践・政策学	26	13	---	5	4	---	4
		心身発達科学	教育心理学	22	10	2	3	4	2	1
			身体教育学	16	---	---	11	---	---	5

※2024年4月1日より基礎教育学専修基礎教育学コースから教育学専修教育学コースに名称変更。

2025年4月に進学する学生については、基礎教育学専修基礎教育学コース、

2026年4月以降に進学する学生については、教育学専修教育学コースに所属となる。

# (参考)

教養学部

学部	学科・分科	定数	第一段階定数			第二段階定数			
			指定科類		全科類	指定科類		全科類	
			文科一・二類	文科三類		文科一・二類	文科三類		
教養 187 名	教養学科	103	26	36	8	13	16	4	
	超域文化科学		36	6	5	2	9	1	
	地域文化研究		33	8	2	3	6	2	
	総合社会科学		34	12	1	8	1	1	
	学科・コース・コース群		第一段階定数			第二段階定数			
			指定科類		全科類	指定科類		全科類	
			理科	文科		理科	文科		
	統合自然学科	57	34	3	4	14	1	1	
	数理自然科学		9	6	---	2	---	---	
	物質基礎科学		19	12	---	7	---	---	
	統合生命科学		18	11	---	3	---	1	
	認知行動科学		8	3	3	1	1	---	
	スポーツ科学		3	2	---	1	---	---	
	学際科学	27	9	7	2	4	5	---	
	A群		14	4	5	1	4	---	
	地理・空間		13	5	2	3	1	---	
	B群								

進学者受入予定数

学部	学科・コース	定数	第一段階定数		第二段階定数	
			全科類	全科類	全科類	全科類
教養 PEAK 10名	教養学科国際日本研究コース	5	3		2	
	学際科学科国際環境学コース	5	3		2	

工学部

学部	学 科	部 門	定数	第一段階定数		第二段階定数		全科類	
				指定科類		全科類	指定科類		
				理科 一類	理科 二・三 類		理科 一類	理科 二・三 類	
工 984 名	社会基盤学科	社会基盤学A (設計・技術戦略)	51	12	1	1	7		
		社会基盤学B (政策・計画)		11	---	3	6	---	
		社会基盤学C (国際プロジェクト)		4	---	3	3	---	
	建築学科	建築学	57	34	---	6	13	---	4
	都市工学科	都市環境工学 (環境共生・国際公共衛生・水・環境パッケージ)	53	7	3	3	3		3
		都市計画 (都市と地域の分析・計画・デザイン)		16	---	6	8	---	4
	機械工学科	機械工学A (デザイン・エレクトロ・タッチスクリーン)	92	57	2	2	31		
	機械情報工学科	機械工学B (ロボティクス・知能・ヒューマンインターフェース)	41	27	---	1	13	---	
	航空宇宙工学科	航空宇宙学	55	36	1	---	18		---
	精密工学科	精密工学 (知的機械・ハイオペレーティカル・生産科学)	45	25	3	3	11		3
理 984 名	電子情報工学科	電子情報工学 (計算知能・コミュニケーション・メディアデザイン)	61	33	---	6	19	---	3
	電気電子工学科	電気電子工学 (エネルギー&環境・ナノ物理・電子&光システム)	62	34	---	6	19	---	3
	物理工学科	応用物理・物理工学 (物性物理・量子情報)	52	32	---	3	14	---	3
	計数工学科	計数工学・数理/システム情報 (数理工学・物理情報学・認識行動学)	60	34	3	2	18		3
	マテリアル工学科	マテリアル工学A (バイオマテリアル)	78	5	10	8	7	2	
		マテリアル工学B (環境・基盤マテリアル)		15			8		
		マテリアル工学C (ナノ・機能マテリアル)		15			8		
	応用化学科	応用化学	53	31	5	---	10	4	3
	化学システム工学科	化学システム工学 (環境・エネルギー・医療)	46	23	6	3	11	3	
	化学生命工学科	化学生命工学	49	19	13	1	5	7	4
	システム創成学科	システム創成A (環境・エネルギー・システム)	129	20	6	4	10	4	3
		システム創成B (システムデザイン&マネジメント)		22	---	4	11	---	
		システム創成C (知能社会システム)		26	---	5	14	---	

# 参考

## 理学部

学部	学科等	定数	第一段階定数				第二段階定数	
			指定科類			全科類	指定科類	全科類
			理科一類	理科二・三類	理科			
理 308 名	数学	45	29	---	---	3		13
	情報科学	30	16	---	---	4		10
	物理学	70	44	---	---	5		21
	天文学	10	5	---	---	1		4
	地球惑星物理学	32	17	---	---	5		10
	地球惑星環境学	20	---	---	12	3	3	2
	化学	45	17	10	---	5	13	---
	生物化学	20	---	---	13	1	6	---
	生物情報科学	12	---	---	6	1	5	---
	生物学	24	---	---	12	2		10

進学者受入予定数

## 農学部

学部	課程	専修	定数	第一段階定数				第二段階定数			
				指定科類			全科類	指定科類	全科類		
				理科二類	理科一・三類	文科					
農 304 名	应用生命科学	生命化学・工学 (農芸化学、生命・食・環境・情報)	79	43	---	---	---	12	20	---	4
		応用生物学 (農業生産、農業生物(植物、昆虫、微生物)、作物育種、生物情報)	27	10	---	---	---	9	8	---	
		森林生物科学 (人と森林、生態系、樹木生理生態、土壤、進化、生物間相互作用、微生物)	10	4	---	---	---	2	2	---	2
		水圏生物科学 (水生生物、海洋、水産、利用、環境、生態、資源)	19	10	---	---	---	3	3	---	3
		動物生命システム科学 (動物、細胞、遺伝子、代謝、発生分化、生殖、免疫、行動)	9	4	---	---	---	3	2	---	---
		生物素材化学 (ハイポリマー、環境材料、生分解)	13	---	---	9	---	---	4	---	---

農 (続き)	環境資源科学	緑地環境学 (グリーン・アーツ、生態環境、緑地計画)	6	---	---	2	---	2	2	---	
		森林環境資源科学 (人と森林、生態系サービス、持続的利用管理、森林-地球相互作用、山村・里山、グリーン・アーツ、木質バイオマス)	14	6	---	---	---	4	1	---	3
		木質構造科学 (木質材料、木造建築、居住性、環境経済評価)	8	---	---	5	---	---	2	---	1
		生物・環境工学 (地域環境工学、生物システム工学、生物環境情報工学)	26	11	5	---	---	2	5	1	2
		農業・資源経済学 (農業経済、地域経済、農業ビジネス、政策、歴史、食料・資源、農村開発)	33	---	---	15	7	---	7	4	---
		フィールド科学 (生物多様性、自然共生、生態系サービス)	9	4	---	---	---	2	2	---	1
		国際開発農学 (国際協力、学際、資源、食糧、農業経済、情報、フィールド)	21	---	---	9	---	4	3	---	5
		獣医学課程獣医学専修 (生命医科学、動物医療、動物生産、動物衛生、公衆衛生)	30	19	---	---	---	3	8	---	---

## 薬学部

(注) 所属する「学科」は、4年次に決定する。

その際、指定科類以外から薬学科を志望する学生は、前期課程修了時までに「前期課程で各科類の学生が取得すべき必要最低単位数」の合計56単位に加え、7単位(計63単位)取得しなければならない。

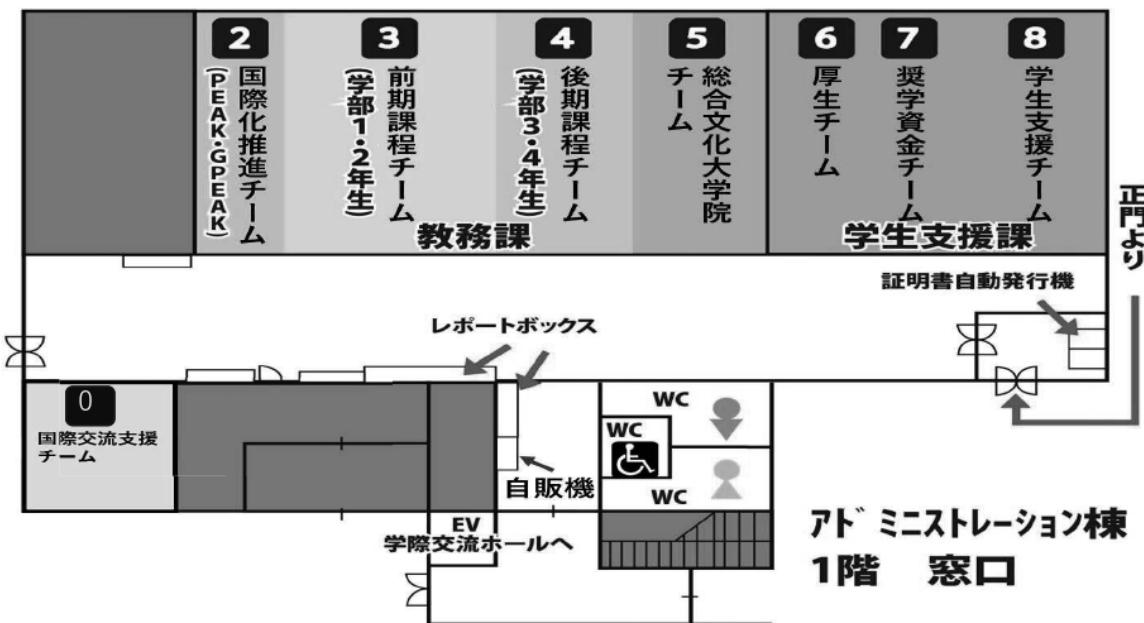
学部	学 科	定数	第一段階定数				第二段階定数		
			指定科類		全科類	指定科類		指定科類	
			理科二類	理科一・三類		理科	理科	理科	理科
薬 85 名	薬科学科、薬学科	85	32	16	8	8	8	29	29

## 医学部

学部	学科	定数	第一段階定数				第二段階定数			
			指定科類		全科類	指定科類		全科類	指定科類	
			理科 三類	理科 二類		理科	理科 三類		理科 二類	理科
医 159 名	医学科	115	70	6	---	1	35	2	---	1
	健康総合科学科 環境生命科学専修 公共健康科学専修 看護科学専修	44	---	---	13	18	---	---	5	8

## 教務課・学生支援課窓口

教務課（学籍・履修等）、学生支援課（奨学金・課外活動等）の窓口は、正門を入って右側のアドミニストレーション棟1階にあります。



### 教務課

#### 前期課程チーム ③番窓口

(03-5454-6043、6044)

学籍（休学、退学）、学生証、試験等に関する業務を行っています。

(03-5454-6046、6047)

履修科目登録、成績、進学選択等に関する業務を行っています。

#### 国際交流支援チーム ①番窓口 (03-5454-6064)

海外留学および留学生に関する業務を行っています。

#### 国際化推進チーム ②番窓口 (03-5465-8237、8220、8219)

PEAK・GPEAK所属の学生の学籍（休学、退学）、授業（履修登録、試験、成績）、学生証等に関する業務を行っています。

#### 後期課程チーム ④番窓口 (03-5454-6057)

教養学部の後期課程（3・4年生）に関する業務を行っています。

#### 総合文化大学院チーム ⑤番窓口 (03-5454-6050)

総合文化研究科（大学院）に関する業務を行っています。

#### 数理科学教務チーム 数理科学研究科棟 (03-5465-7004)

数理科学研究科（大学院）に関する業務を行っています。

### 学生支援課

#### 学生支援チーム ⑧番窓口 (03-5454-6074)

遺失物・拾得物、課外活動の教室等の使用手続き、通学証明書発行、学生貸付金の貸付、学生教育研究災害傷害保険、課外活動等に関する業務を行っています。

#### 奨学資金チーム ⑦番窓口 (03-5454-6075、6076)

奨学金、授業料免除等に関する業務を行っています。

#### 厚生チーム ⑥番窓口 (03-5454-6077、6078)

三鷹国際学生宿舎、中央省庁インターンシップ、アルバイト等に関する業務を行っています。

### (1) 窓口業務時間

授業期間中（土・日・祝日は、授業日として指定された日を除き、業務を行っていません。）

10時00分～16時00分

休業期間中（土・日・祝日・年末年始は業務を行っていません。）

10時00分～12時30分、13時30分～16時00分

・教務課への提出物（各種届出書類（レポートは除く））の締切りは、特に指示がない限り、**締切日の16時50分まで**です。

・教務課窓口前のレポートボックスの締切日および時間は、各授業担当教員が指定します。

レポートボックスの開設状況は教務課前期課程ホームページの【履修・授業・教室・レポート・教職・資格に関する情報】から確認できます。

なお、教務課では、郵送による各種届出書類やレポートの提出は受け付けていません。

### (2) 各種証明書の発行

① 前期課程在籍者の「在学証明書（和文・英文）」、「成績証明書（和文・英文）」、「学割証」は、アドミニストレーション棟1階に設置された証明書自動発行機で入手できます。

発行には、「UTokyo Account」が必要です。「学生証」と「パスワード」を使って発行することもできます。

証明書自動発行機の利用時間は、平日の8時30分～18時30分です。

② 前期課程在籍者の上記①以外の証明書は「証明書発行願」に所定の事項を記入し教務課前期課程チーム（③番窓口）に申し込んでください。発行までに申請当日を含め4営業日かかりますので、ご注意ください。

③ 前期課程修了者の「前期課程成績証明書（和文・英文）」は、原則として進学先の後期課程各学部で発行しています。

④ 通学証明書及び通学定期乗車券購入証明書は、学生支援課学生支援チーム（⑧番窓口）で取り扱っています。

### (3) 学生証の取り扱い

学生証については教務課前期課程チーム（③番窓口）で取り扱っています。試験を受けるとき、窓口での手続きやその他いろいろな届出をする場合には、必ず学生証の提示を求められますので、常時携帯し紛失しないように注意してください。

紛失した場合には至急手をつくして探し出すことに努め、どうしても見つからない場合には、教務課に再交付願を提出してください。再交付については、本人の過失（盗難を含む）およびカード破損（ICの故障を含む）の場合は、手数料（2,000円）がかかります。再交付願提出から再交付までには2週間程度の日数が必要です。

## 関連組織・制度等

### (1) 進学情報センター [1号館2階(時計台のある建物)]

進学選択など進学に関する情報を提供しています。また、面談などで相談に応じ、必要な支援を行っています。

電話：03-5454-6187、FAX：03-5454-6974

電子メール：[agc1@agcsodan.c.u-tokyo.ac.jp](mailto:agc1@agcsodan.c.u-tokyo.ac.jp)

Website：<https://park.itc.u-tokyo.ac.jp/agc/>

受付時間：月曜～金曜 10：00～17：00

### (2) 駒場学生相談所 [1号館3階(時計台のある建物)]

学生生活を送る上でのさまざまな問題や悩みに関する相談に応じ、必要な支援を行っています。

電話・FAX：03-5454-6186

電子メール：[soudanjo@komagaku.c.u-tokyo.ac.jp](mailto:soudanjo@komagaku.c.u-tokyo.ac.jp)

Website：<http://kscc.c.u-tokyo.ac.jp/>

受付時間：月曜～金曜 10：00～13：00、13：50～17：00（祝日を除く）

### (3) バリアフリー推進オフィス駒場支所 [8号館1階111号室]

障害のある学生に対して、修学上の相談・支援を行っています。また、障害のある学生の支援を行うサポートスタッフを随時募集しています。

電話：03-5465-8944、FAX：03-5465-8952

電子メール：[spds-staff.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp](mailto:spds-staff.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp)

Website：<https://ds.adm.u-tokyo.ac.jp/>

受付時間：月曜～金曜 9：30～17：00（祝日を除く）

※掲載内容は変更となる可能性があります。

最新情報は必ず上記 Website：<https://ds.adm.u-tokyo.ac.jp/>で確認してください。

### (4) グローバリゼーションオフィス [21KOMCEE West地下1階]

皆さんが大学時代に国際経験を積むことができるよう、キャンパス内外での国際交流の機会を提供しています。大使館員や外国人教員による各国事情のレクチャー、留学生と交流しながら学ぶフィールドトリップやセミナーなど、多様なイベントを開催していますので、関心がある学生はホームページから情報配信に登録してください。オフィスでは交換留学や国際研修等に関するさまざまな情報を提供しているほか、留学経験学生による留学アドバイジングや、グループチューターによる主にPEAK生や交換留学生に対する学習・生活アドバイジングなど、学生たちによる国際交流の場ともなっています。

Website：<https://www.globalkomaba.c.u-tokyo.ac.jp/>

X (旧Twitter)：<https://twitter.com/UTokyoKomabaGO>

開室時間：月曜～金曜 10：00～17：00（祝日を除く）

## (5) 安否確認システム

東京大学では、学生に対して、災害時の一斉通報や安否確認を行うためのメール配信システムを運用しています。全ての学生は、この安否確認システムに自動的に登録され、災害時や防災訓練のときなどには、UTASに登録されたメールアドレス宛にメールが届きます。安否確認のメールが届いた場合には、速やかに安否情報を登録・返信してください。

この安否確認システムはUTASの登録情報に基づいて運用されます。諸手続の際に記入したメールアドレスがUTASに初期登録されていますが、メールアドレスを変更した場合には速やかにUTASログイン後の【学生情報】で登録変更を行い、UTASに常に最新のメールアドレスが登録されるようにしてください。諸手続の際にメールアドレスを記入しなかった場合には、メールアドレスが決まり次第、速やかにUTASへのメールアドレスの登録を行ってください。安否確認システムの使い方の詳細については、教養学部のウェブサイトをご覧ください。

Website : <https://www.c.u-tokyo.ac.jp/students/bosai/index.html>

## (6) 学習アドバイス制度

レイト・スペシャリゼーションの長所が十分に生かされるように、日々の学習内容を越えた、個々の学問分野の性格、各自の関心に応じた全体的な学習計画、将来の進路との関連などについて、学生が個々の教員に面会をし、その助言を受けることができる「学習アドバイス制度」を設けています。なお、本制度を利用して、成績評価の確認を求めるることは認められていません。

詳細は、UTASログイン後の【掲示板】で確認してください。

## (7) 初年次活動センター（ピア・アドバイザー）

初年次活動センターは、アドミニストレーション棟の東に位置するガラス張りの建物です。授業期間の平日 2 限～4 限の間に読書、自習、歓談等に利用できますので、お気軽にご利用ください。室内は約10名が入る開放的な空間で、テーブルやホワイトボード、プロジェクター等を備えています。常駐しているピア・アドバイザー（後期課程学生・大学院生）に進路や科目履修、学生生活のことなど何でも相談できます。また、特定利用としてクラスの会合、勉強会、学生企画のイベントなどにも利用できます。希望する場合は、下記Websiteで空き状況を確認の上、利用希望日の2週間前までに、学生支援課（アドミニストレーション棟 1 階 8 番窓口）にお申し込みください。新しい環境に早く慣れ、大学生活をより豊かにするために、センターを上手に活用してください。

Website : <https://shonenji.c.u-tokyo.ac.jp/>

## (8) 災害に伴う休講措置

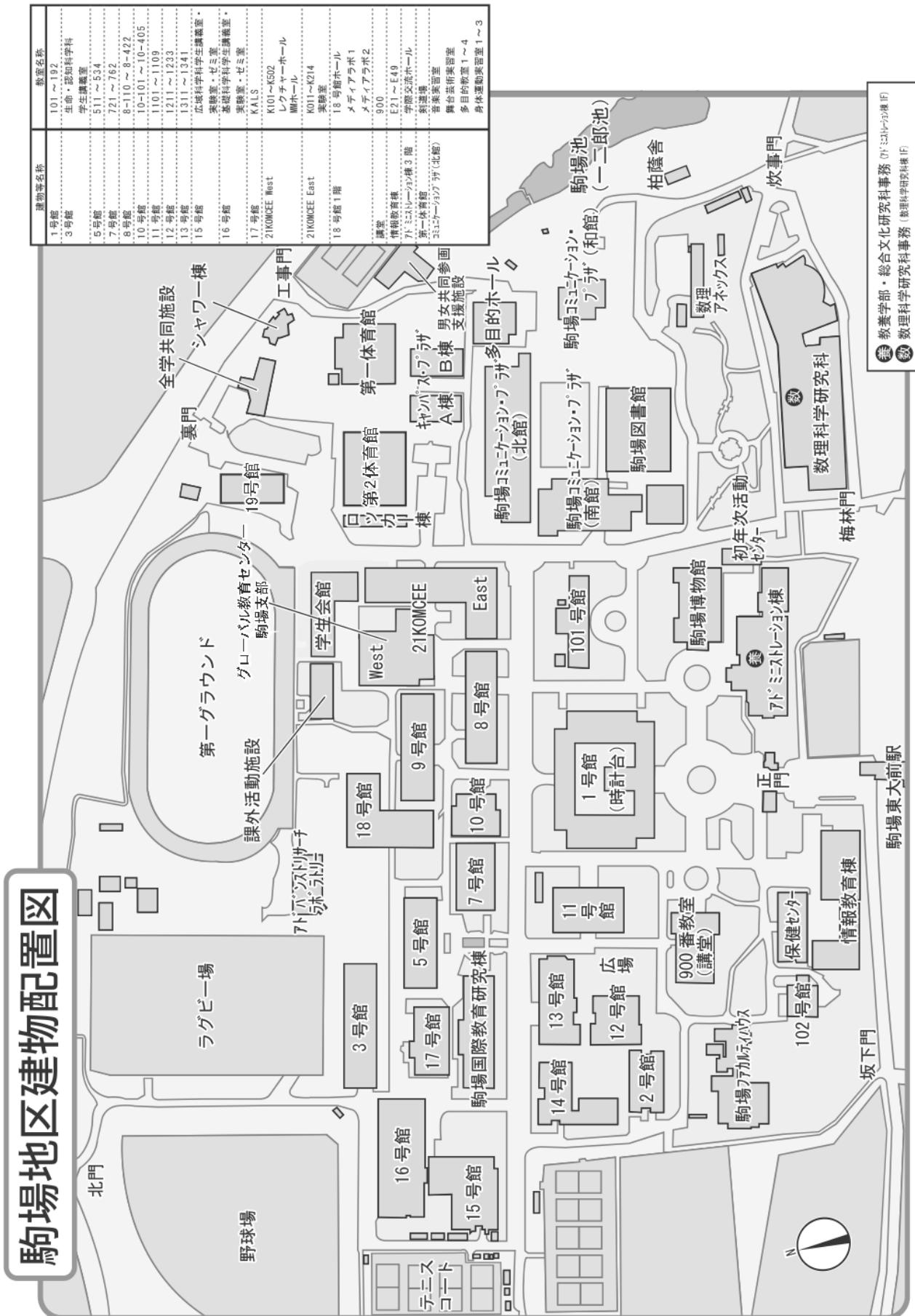
台風の接近や大雪等の災害に伴い、教養学部において実施する授業について休講措置等をとる場合には、以下のURLのトップページに最新情報を随時掲示します。

Website : <https://www.c.u-tokyo.ac.jp/index.html>

## (9) 授業評価アンケート制度

授業の方法や内容、設備などの改善に役立てることを目的として、各ターム、セメスターの終了の2～3週間前に設けられる実施期間中に各授業で実施します。

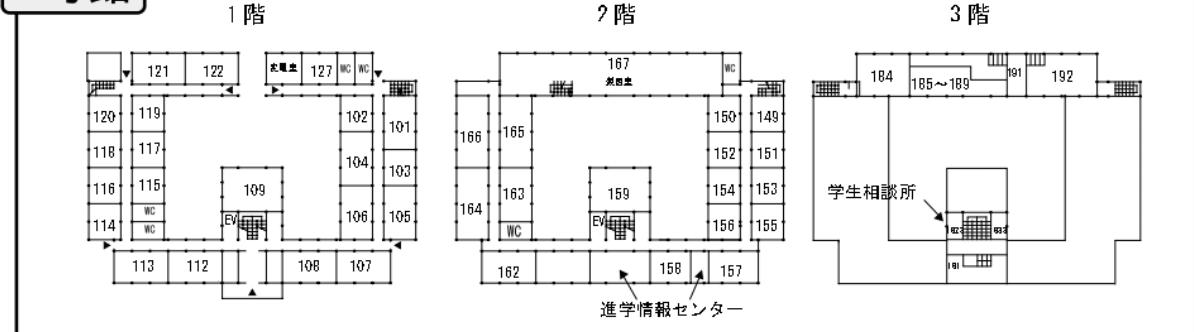
馬場地區建物配置圖



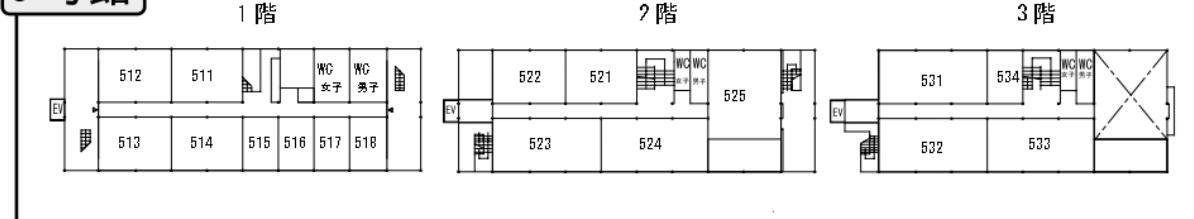
建物・教室配置図

# 教養学部 教室配置図

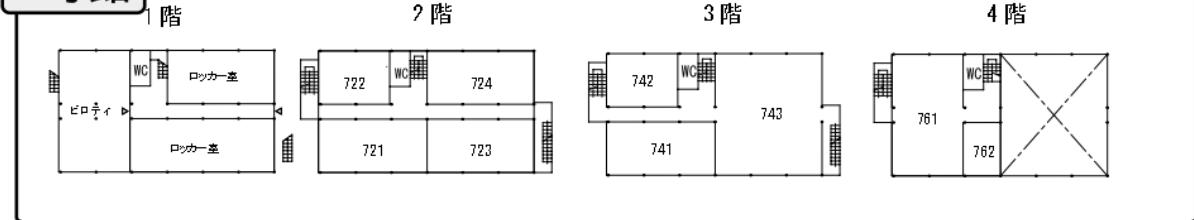
## 1号館



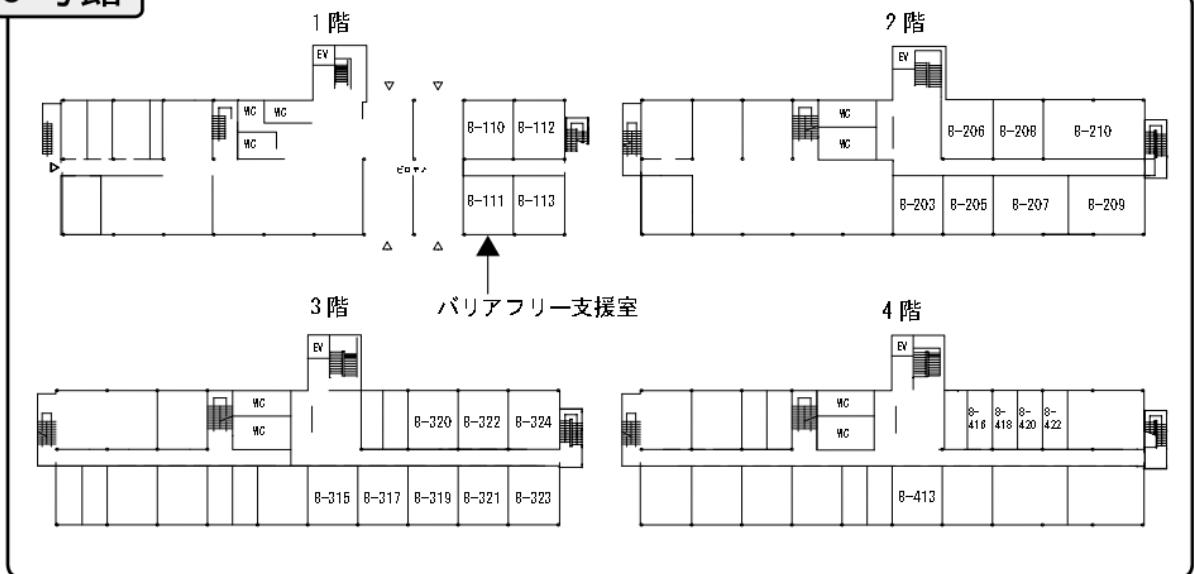
## 5号館



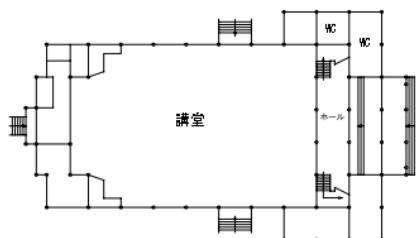
## 7号館



## 8号館

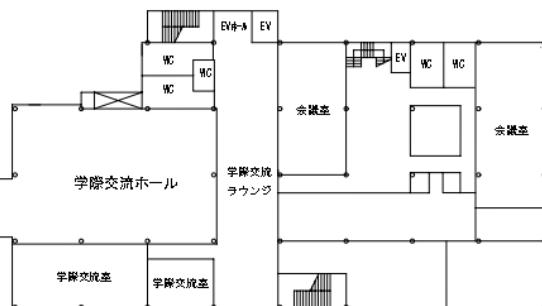


### 講堂 (900 番)

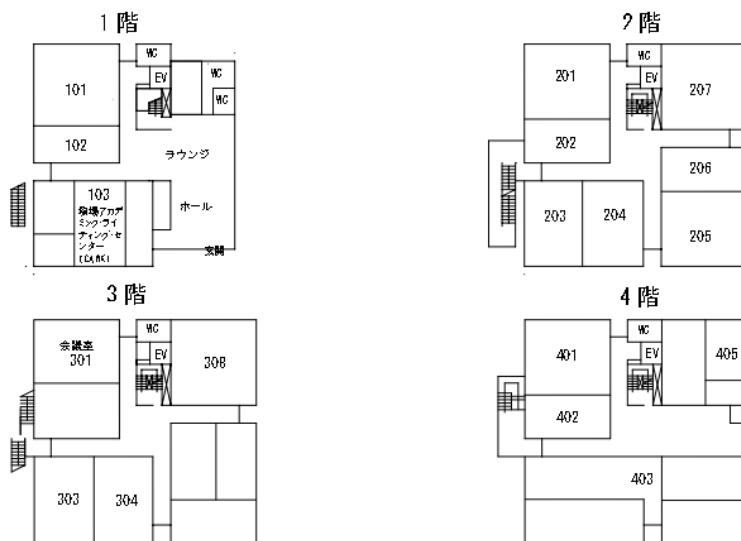


### 学際交流棟 (アドミニストレーション棟)

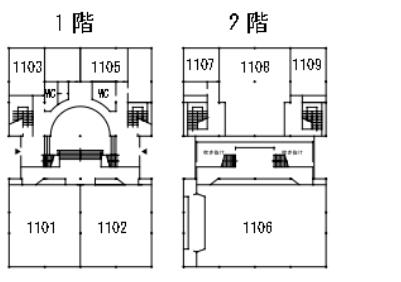
3階



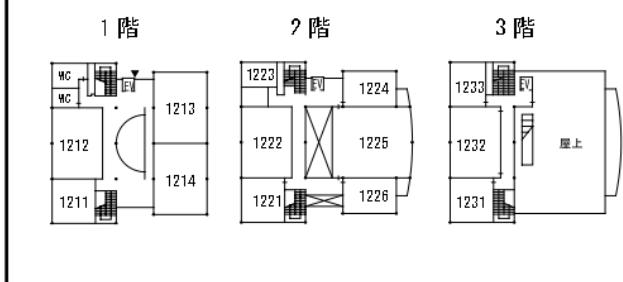
### 10号館



### 11号館

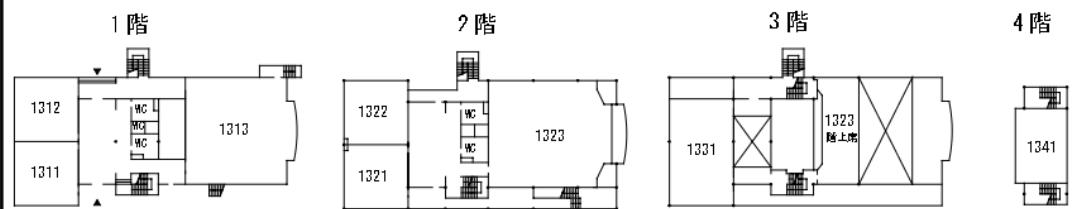


### 12号館



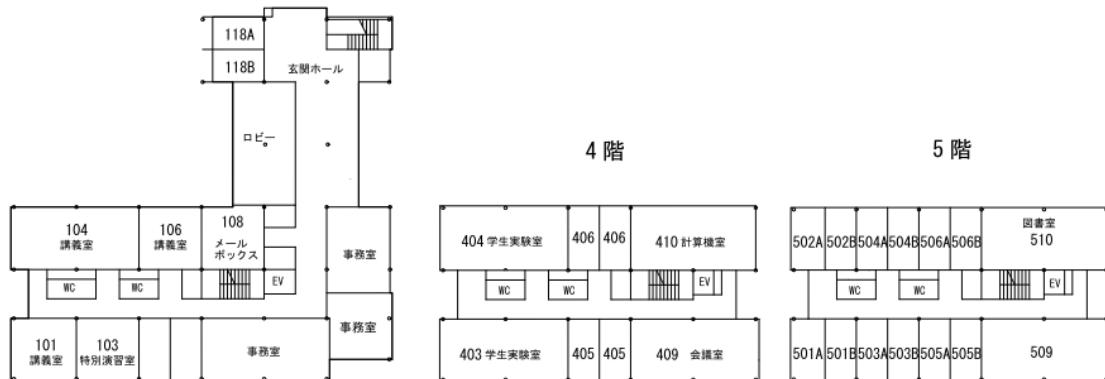
建物・教室配置図

### 13号館



## 15号館

1階



4階

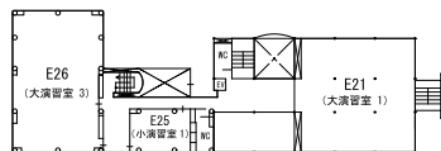
5階

## 情報教育棟

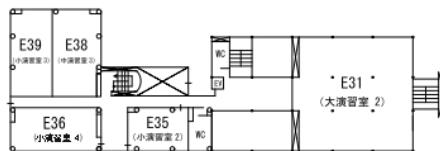
1階



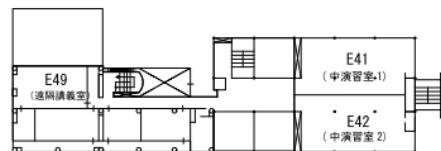
2階



3階

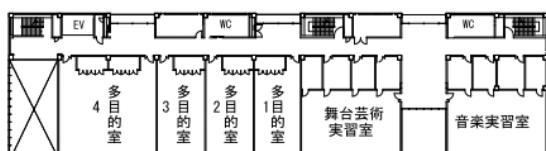


4階

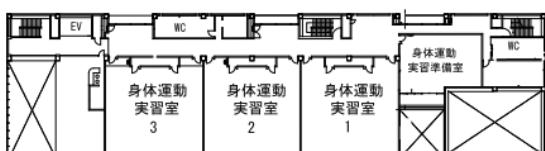


## コミュニケーションプラザ（北館）

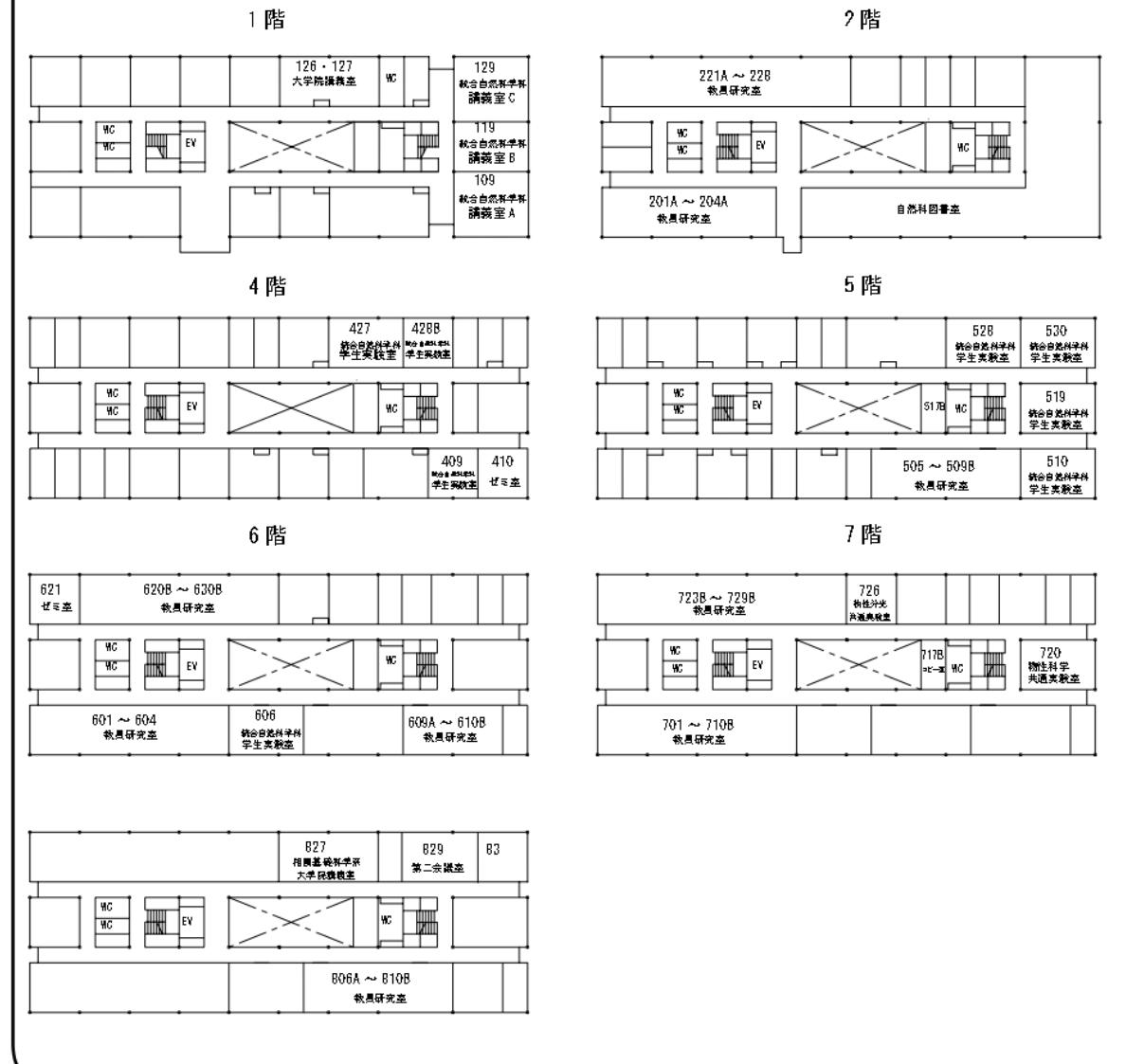
2階



3階

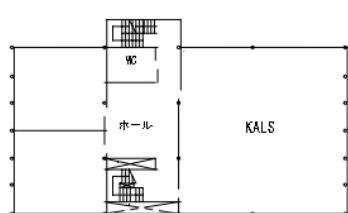


## 16号館



## 17号館

2階

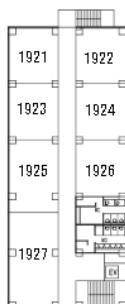


## 19号館

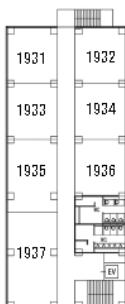
1階



2階



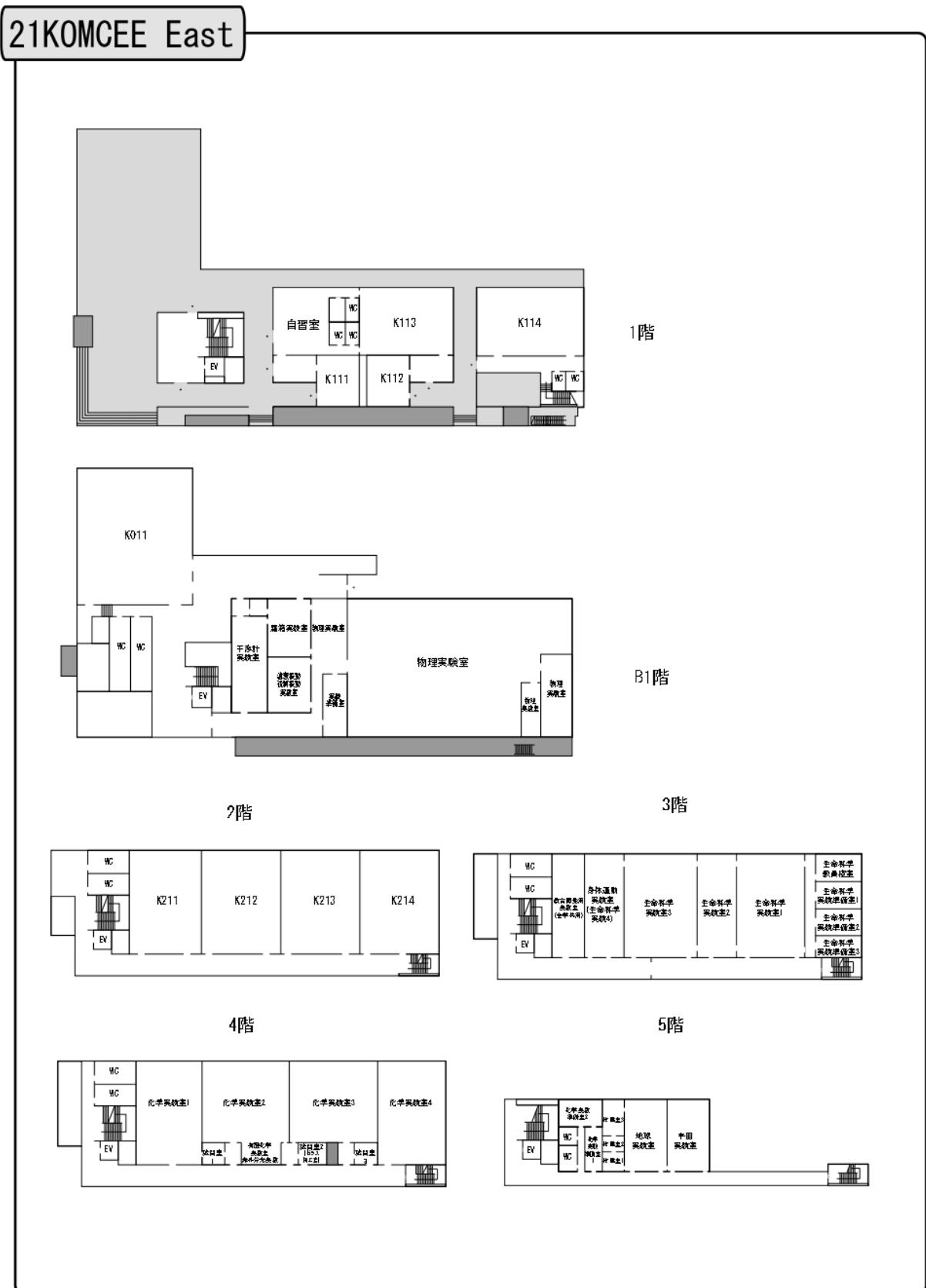
3階



21KOMCEE West

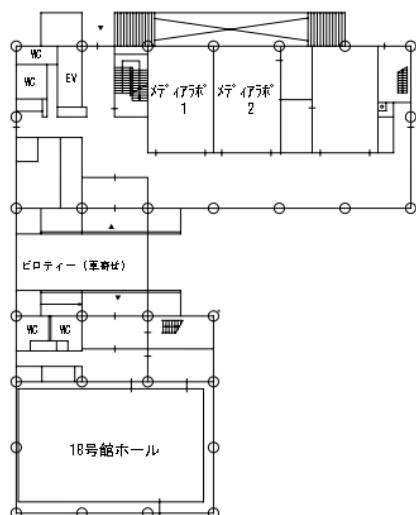


# 建物・教室配置図

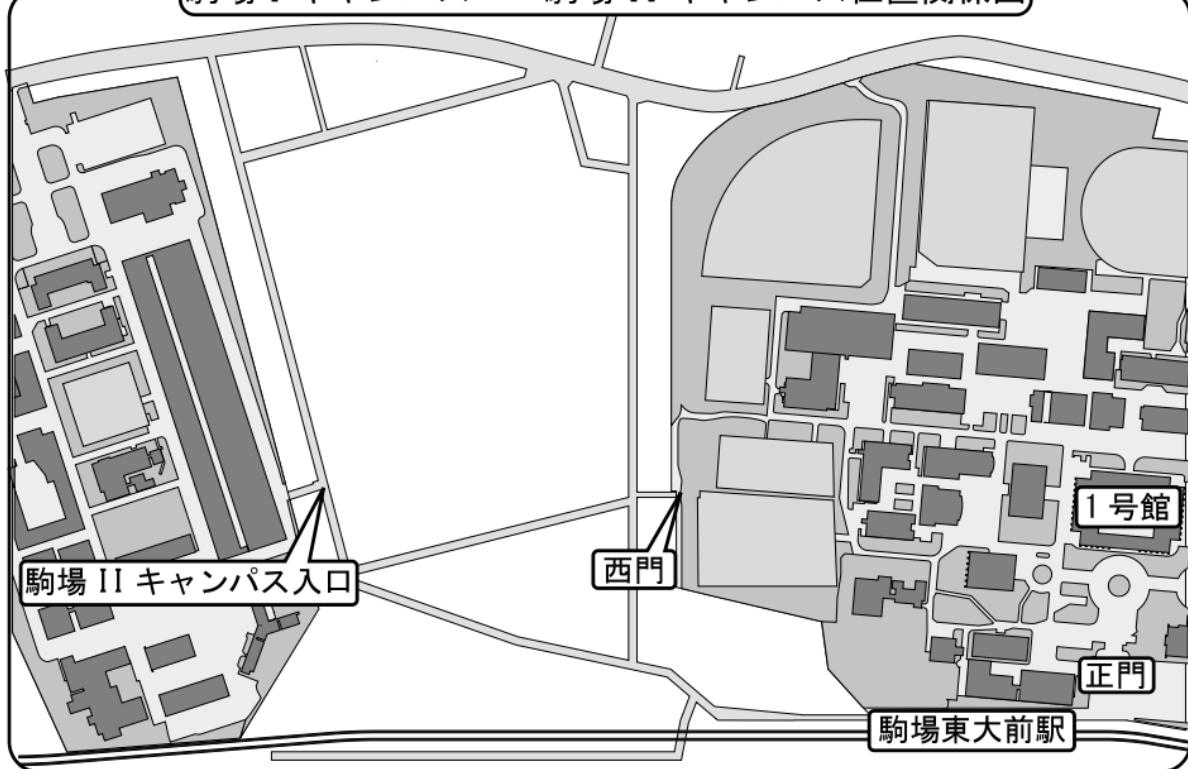


## 18号館

1階



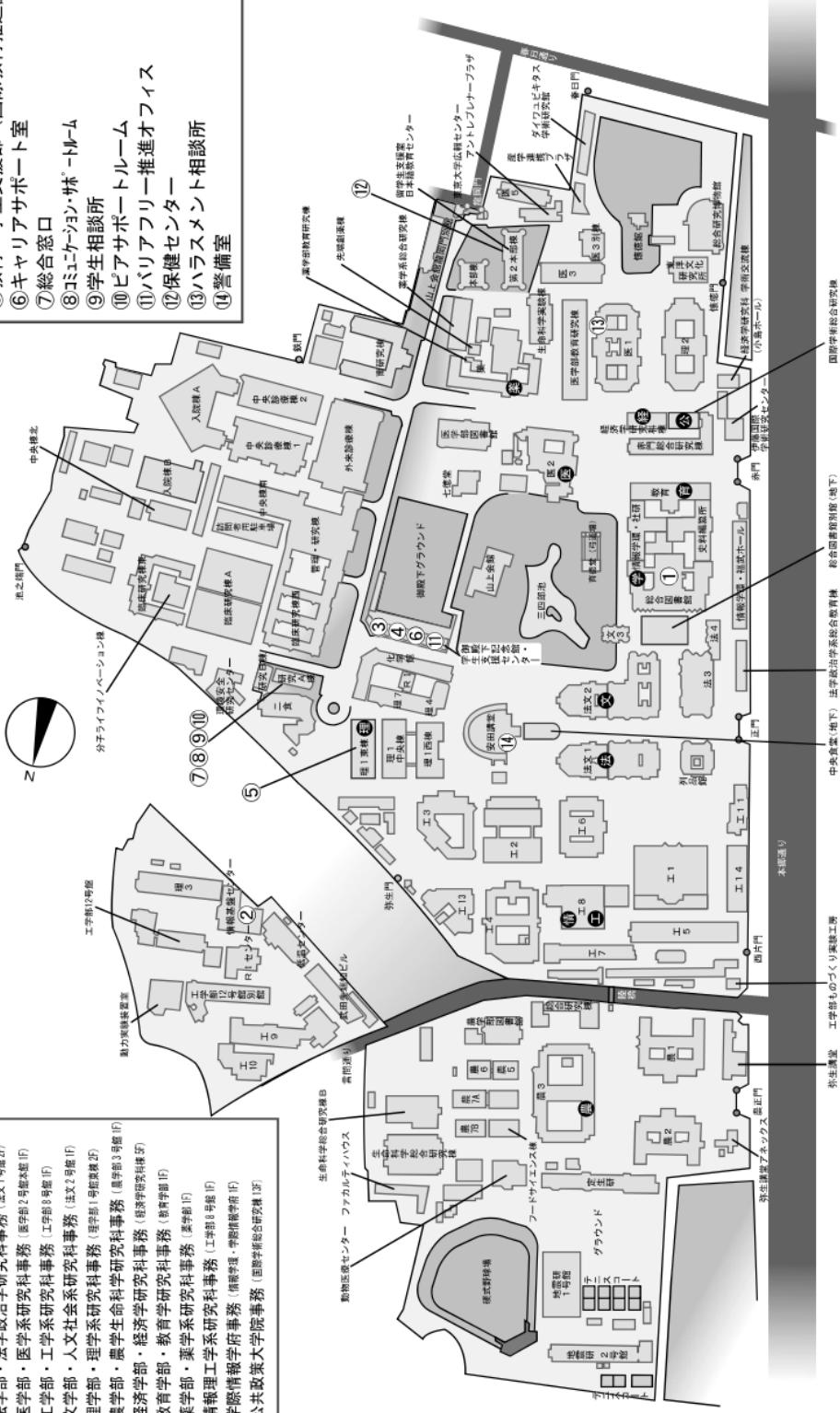
## 駒場 I キャンパス ←→ 駒場 II キャンパス位置関係図

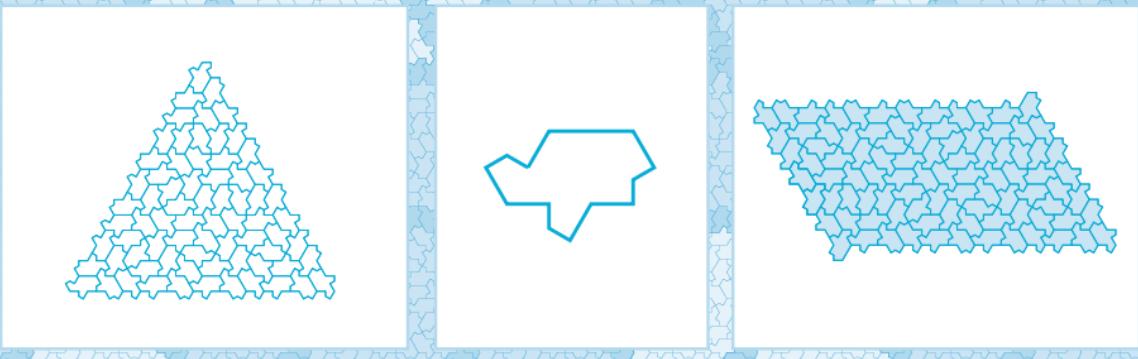
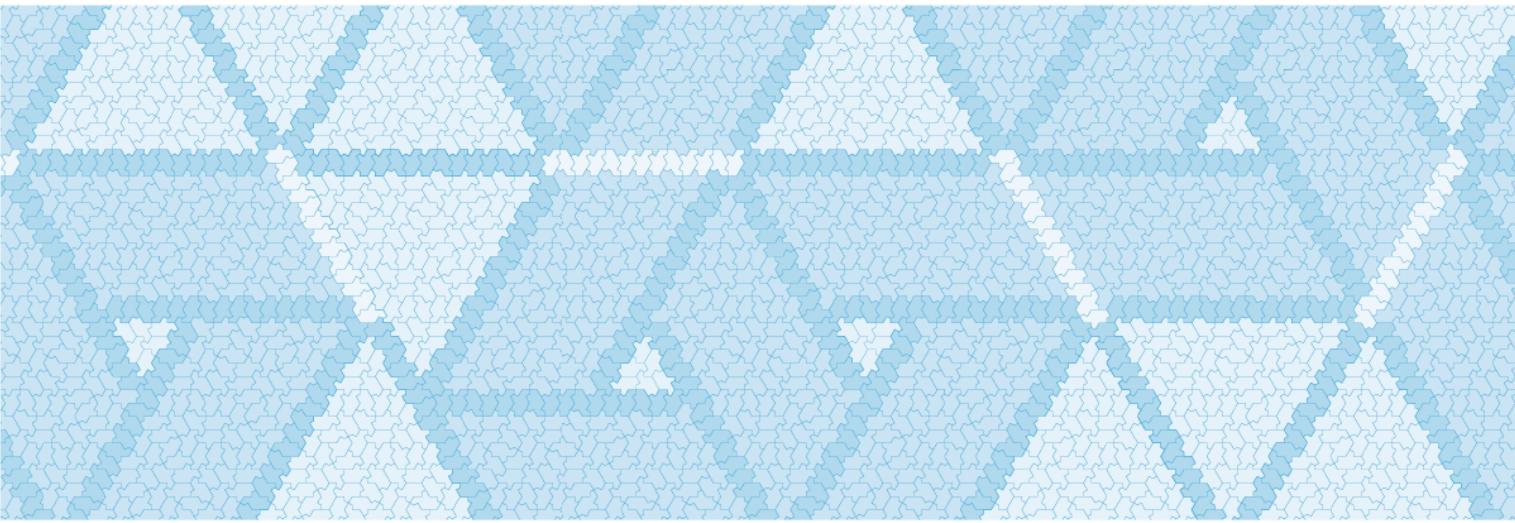


## 本郷地区建物配置図

法	法医学部	法医学政治理论研究科 法医学系研究科 法医学系研究科 法医学系研究科	法医学政治理论研究科 法医学系研究科 法医学系研究科 法医学系研究科	法医学部
医	医学部	医学系研究科 医学系研究科 医学系研究科 医学系研究科	医学系研究科 医学系研究科 医学系研究科 医学系研究科	医学部
工	工学部	工学系研究科 工学系研究科 工学系研究科 工学系研究科	工学系研究科 工学系研究科 工学系研究科 工学系研究科	工学部
文	文学部	人文社会系研究科 人文社会系研究科 人文社会系研究科 人文社会系研究科	人文社会系研究科 人文社会系研究科 人文社会系研究科 人文社会系研究科	文学部
理	理学部	理学系研究科 理学系研究科 理学系研究科 理学系研究科	理学系研究科 理学系研究科 理学系研究科 理学系研究科	理学部
农	農業学部	農業经济学部 農業经济学部 農業经济学部 農業经济学部	農業经济学部 農業经济学部 農業经济学部 農業经济学部	農業学部
經	經濟学部	經濟学政治理论研究科 經濟学政治理论研究科 經濟学政治理论研究科 經濟学政治理论研究科	經濟学政治理论研究科 經濟学政治理论研究科 經濟学政治理论研究科 經濟学政治理论研究科	經濟学部
管	管理学部	管理学政治理论研究科 管理学系研究科 管理学系研究科 管理学系研究科	管理学政治理论研究科 管理学系研究科 管理学系研究科 管理学系研究科	管理学部
教	教育学部	教育学政治理论研究科 教育学系研究科 教育学系研究科 教育学系研究科	教育学政治理论研究科 教育学系研究科 教育学系研究科 教育学系研究科	教育学部
學	學部	學部	學部	學部
院	学院	学院	学院	学院
系	系	系	系	系
科	科	科	科	科

- 





表紙の模様は、2023年に見つかったスミス・タイルと呼ばれる一種類の图形（中央図）だけを敷きつめて描かれています。模様の構造をわかりやすくするために、正三角形状の塊（左図）や平行四辺形状の塊（右図）などに色をつけています。この模様をじっくり観察すると、対称性、回文構造、フラクタル構造、黄金比など様々な規則性が見いだせます。しかし、従来の敷きつめ图形とは異なり、どのように塊をつくっても平行移動だけで敷きつめることはできません。このような图形は非周期タイルと呼ばれます。

図提供：荒木義明（日本テセレーションデザイン協会）  
参考文献：S. Akiyama, Y. Araki, An alternative proof for an aperiodic monotile, arXiv:2307.12322